

6.5 昆虫類



(1) 県内の昆虫類の概要

日本に生息する昆虫類は、現時点でおよそ 32,000 種が記録され、実際には 10 万種以上いると推定されている（日本昆虫学会ホームページ）。富山県の昆虫は『富山県の昆虫』（富山県、1979）に約 5,000 種がまとめられている。その後のまとめはなされておらず総種数は不明であるが、さまざまな追加記録を加味すると、現時点では 8,000 種程度が確認されていると見込まれる。

富山県は本州中部の日本海側に位置する比較的小さな県であり、県中央部には富山平野が広がり、その東側には標高 3,000m 級の飛騨山脈がそびえ、南側には標高 1,500m 前後の飛騨高地が連なり、西側には白山山系から北に連なる標高 500～1,000m の山地がある。山岳は急峻で高原的また内陸的要素には乏しい。山岳から流れ出る河川は急流となって北側の富山湾に流れ込んでいる。県東部では、山地が海岸近くに迫り、扇状地が発達して湧水地帯が存在する。県西部では、山地は比較的低く河川勾配も緩やかで、扇状地および低湿地が平野部を形作っている。海岸部では砂丘は発達せず、かつて存在した潟湖はほとんど消滅している。海岸部以外に天然の池沼は少なく、特に高山地域では弥陀ヶ原などの池塘群の他は少数の池沼があるのみである。

富山県の気候は、冬季の多量の降雪を特徴とする日本海側気候であり、対馬暖流が流れ込む富山湾に面する平野部に見られる暖帯要素から氷河を有する高山帯に見られる寒帯要素まで多様な植生帯が存在し、比較的狭い県土ながら多様な自然環境を有することで多様な昆虫類が生息している。生息調査の進んでいる群で見ると、チョウ類 128 種、トンボ類 91 種、バッタ類 104 種、アリ類 72 種、ハナバチ類 225 種と、国内の種のおおよそ半数から四分の一が県内で記録されており、これらをふまえると、実際には日本の昆虫のほぼ三分の一が県内に生息するものと考えられる。その特徴は、北方系の種が多く南方系は少ないと、高山性とされる種が多く分布の西限となる種がいること、乾性草原を生息地とする種が少ないと、一部に分布の北限や東限となる種がいることである。また、近年、北上中の種が多く記録されるようになっており、外来種も増加している。

県の東部と西部では地形的差異から昆虫相にも相違が見られる。高山・亜高山帯が広く存在する東部では、高山性、寒地性の昆虫が多く、西部は平地・丘陵・低山帯が広く存在し、水生昆虫が多く生息するとともに暖地性昆虫の比率が高い傾向にある。地帯別に生息する昆虫の例を挙げると、高山帯・亜高山帯ではムツアカネ、カオジロトンボ、タカネヒカゲ、ミヤマモンキチョウ、ホッキョクモンヤガ、クモマヒナバッタ、トホシハナカミキリ、ヒメマルハナバチなど、山地帯ではムカシトンボ、クロサナエ、クモマツマキチョウ、オオゴマシジミ、ヒメオオクワガタ、フタスジカタビロハナカミキリ、ガロアムシ類など、山麓部ではオジロサナエ、ヒメサナエ、ハッチョウトンボ、クツワムシ、ギフチョウ、コシロシタバ、ミヤマクワガタなど、平地ではムスジイトトンボ、ネアカヨシヤンマ、オオゴキブリ、クビキリギス、ミヤマシジミ、タイコウチ、ガムシ、ヒラタクワガタなどが生息する。

富山県を分布の西限とする寒地性の昆虫は、一部の高山蝶の他、オオゴマシジミ、メススジゲンゴロウ、オゼイトトンボなどである。また、富山県を分布の北限（または東限）とする暖地性の昆虫は、モイワサナエ本州中部亜種（ヒラサナエ）、ニホントビナナフシ、オオオサムシなどである。

(2) 選定評価の方法

レッドリストは、11 名の担当者により、分類群ごとに担当者の知見と文献調査、標本調査および現地調査などから総合的に判断して対象種を選定した。昆虫類では、環境省のカテゴリーの定義による

選定、特に定量的要因での選定は不可能であり、今回は、対象種の生息環境、生息個体数（希少性を含む）、分布状況などを選定基準とした。特に注目した項目は次のような内容である。

- ・個体数、生息環境が減少しているもの
- ・気候変動や開発行為により生息条件が悪化しているもの
- ・近年の記録が無いもの
- ・生息に特殊な環境条件を必要としているもの
- ・全国的に分布地域が限られているもの
- ・県内において生息地が局限されているもの
- ・富山県が生物地理上の分布境界域となっているもの
- ・過度の採集圧にさらされているもの
- ・環境省によって絶滅危惧種に選定されているもの

前回は、昆虫分野では「情報不足」を「要注意種（限定）」、「要注意種（減少）」、「要注意種（注目）」の3つに細分して「特記事項」欄に示した。これは、「準絶滅危惧」以上と評価するに足る情報には乏しかったものの、「注意深く調査・観察を継続していかなければならない種」である旨を強調するためであった。しかし今回の改訂では、各種の解説文からこれら的情報を読み取れると判断し、「特記事項」欄に細分して示すことはしなかった。ただし、「情報不足」と評価された種であっても、けっして「準絶滅危惧」以下のレベルとして軽視されるべきではなく、本来、より高位のカテゴリーに含まれるべきものがあることに留意していただきたい。

(3) 選定種の概要

今回、選定された種は、17目354種で、内訳はコウチュウ目158種（カミキリムシ類37種、コガネムシ類16種、タマムシ類12種、ゲンゴロウ類19種等）、チョウ目58種（チョウ類29種、ガ類29種）、トンボ目30種、カメムシ目38種（陸生20種、水生18種）、ハチ目20種、バッタ目15種、その他の目35種である。

前回の206種から148種増加した。その多くは甲虫類であり、近年の県内における甲虫類の調査の進展を反映している。また、チョウ目で27種、カメムシ目で12種、ハチ目で12種、それぞれ増加した。これらも各目の調査の進展程度を反映しているとともに、前回では選定を保留されていた種が近年の生息が確認されず取り上げられたものも多い。

今回選定された種の生息環境を見ると、前回同様に平地・丘陵地の池沼・湿地、小河川といった水辺に生息するものが多く、低山・丘陵地のいわゆる里山的環境に生息するものも多い。今回は前回に比べ、海浜や河原を生息場所とするもの、高山・亜高山性のもの、また山地性のものも増加したが、気候変動、気象災害や砂防ダム建設の影響の拡大を懸念した結果である。

今回ランクアップされた種は52種であり、それらは、ゲンゴロウ、ナミハンミョウ、タガメ、クモマツマキチョウ、ミヤマシジミ、マダラヤンマなど近年の記録が確認されない種や生息地・個体数減少の明らかな種である。ランクダウンした種は12種であり、オナガサナエやクツワムシなど生息地や個体数の増加が確認された種がこれらに該当する。

ランク外となった種は23種であり、ハネナガイナゴ、アキアカネ、ミヤマカミキリなど前回調査時以降に個体数もしくは生息地の増加の見られたもの、もしくは安定的に確認され減少傾向に無いものである。

表1. 選定種の目別の主な生息環境

目名	種数	1. 海岸	2. 河原	3. 平地	4. 池沼 ・湿地	5. 河川 (中・下流)	6. 丘陵 ・低山	7. 河川 (上・溪流)	8. 山地	9. 山地湖沼 ・池塘	10. 垂高山 ・高山
トンボ	30	0	0	0	16	8	0	4	0	2	0
カワゲラ	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
ゴキブリ	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
カマキリ	3	0	1	3	0	0	1	0	0	0	0
ナナフシ	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ハサミムシ	3	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0
バッタ	15	3	4	3	0	0	8	0	0	0	0
カメムシ	38	1	1	5	18	6	1	1	7	0	0
アミメカゲロウ	4	2	2	1	0	0	1	0	2	0	0
ヘビトンボ	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
ラクダムシ	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
コウチュウ	158	7	13	23	36	14	42	5	44	7	14
シリアゲムシ	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
ハチ	20	3	7	3	0	0	6	0	3	0	3
ハエ	17	1	3	3	1	3	5	2	4	0	4
トビケラ	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
チョウ(チョウ類)	29	0	0	3	1	3	9	4	22	0	7
チョウ(ガ類)	29	1	2	13	3	2	15	0	10	0	3
合計	354	18	33	59	77	36	90	17	97	9	31

※あてはまる項目に種数を示したが、分布が広く複数の項目に当てはまる種が存在するので種数の合計は各目の種数とは一致しない。

表2. 今回のレッドリストから削除された種

目科名	種名	前回のランク	変動の理由
トンボ目トンボ科	アキアカネ	情報不足	1998年以降激減したが、2010年より個体数は回復傾向。
トンボ目トンボ科	ナツアカネ	情報不足	2000年代に減少したが、最近は個体数に目立った変化はない。
トンボ目トンボ科	ノシメトンボ	情報不足	2000年代に減少したが、最近は個体数に目立った変化はない。
バッタ目キリギリス科	クビキリギス	準絶滅危惧	近年、平地で確認例が増加している。
バッタ目バッタ科	ハネナガイナゴ	絶滅危惧Ⅰ類	近年、県西部で生息地が増大し、個体数も増大している。
カメムシ目キンカメムシ科	オオキンカメムシ	準絶滅危惧	生息地の本州中部以南から長距離を移動分散する。
カメムシ目キンカメムシ科	アカスジキンカメムシ	準絶滅危惧	各地で確認できる。
カメムシ目カメムシ科	ウシカメムシ	準絶滅危惧	各地で確認できる。
コウチュウ目オオキノコムシ科	クロヒラタオオキノコ	準絶滅危惧	生息環境や生態から、選定すべきほど減少していないと考えられる。
コウチュウ目オオキノコムシ科	ヒメエグリオオキノコ	準絶滅危惧	生息環境や生態から、選定すべきほど減少していないと考えられる。
コウチュウ目オサムシ科	フタボンシビゴミムシ	準絶滅危惧	生息環境や生態から、選定すべきほど減少していないと考えられる。
コウチュウ目カミキリムシ科	ミヤマカミキリ	情報不足	個体数が増加しており生息環境も多い。
コウチュウ目カミキリムシ科	ルリボンカミキリ	情報不足	個体数が増加しており生息環境も多い。
コウチュウ目ガムシ科	コガムシ	情報不足	現在でも各地で確認できる。
コウチュウ目ゲンゴロウ科	コウベツブゲンゴロウ	準絶滅危惧	県内の既知記録は、近年記載されたニセコウベツブゲンゴロウの誤同定である可能性が高い。
コウチュウ目ゲンゴロウ科	キベリマゲンゴロウ	情報不足	現在でも各地で確認できる。
コウチュウ目タマムシ科	サビナカボソタマムシ	準絶滅危惧	植栽の木に多い。生息環境は保全対策の施しようがない。
コウチュウ目タマムシ科	ヒロオビナガタマムシ	準絶滅危惧	記録は少ないが生息環境は広く存在。保全対策の施しようがない。
コウチュウ目ハンミョウ科	マガタマハンミョウ	情報不足	現在でも各地で確認できる。
コウチュウ目マルトゲムシ科	シナノマルトゲムシ	情報不足	生息環境や生態から、選定すべきほど減少していないと考えられる。
ハチ目ハバチ科	タカネハバチ	準絶滅危惧	立山室堂周辺の既知産地では安定的に発生している。
チョウ目ガ類シャクガ科	シロオビコバネナミシャク	準絶滅危惧	近県では低山地から山地にかけて生息地は多い。本県でも同様と考えられる。
チョウ目ガ類ヤマユガ科	クロウスタビガ	準絶滅危惧	近県では山地を中心に広く分布し、本県でも生息地が多いと考えられる。

(4) 絶滅の危機に追い込んでいる要因（減少要因）

近年、最も重要で危険な要因は、気候変動いわゆる地球温暖化である。これにより、特に高山性の種や群は生息域を失う可能性が増大し、また、積雪域や降雪期間の変動、気温上昇や乾燥化は高山のみならず広く様々な生き物に影響を及ぼす。地球温暖化は、人間活動の自然環境への最も大規模で危険な影響といつてもよいと思われるが、より身近で直接的な人間活動による自然環境への影響は、地表面の改変、水域の改変、大気や水・土壤の汚染として現れ、生き物の生息環境の悪化をもたらしている。

海岸部では、海岸の浸食、護岸工事、海浜への車の侵入等によって砂浜の狭小化や海浜植生の減少が進み、ヤマトマダラバッタ、スナヨコバイ、オオウスバカゲロウ、ヒョウタンゴミムシなどの海浜性昆虫の減少を招いている。

平地では、主に寺社林として残されている照葉樹林に、ニホントビナナフシやヒナカマキリ、オオゴキブリ、ホシベニカミキリなどの希少な種が生息するが、立木の整理や枯れ木、落葉の除去などの

環境整備を過度に進めることは生息環境の破壊につながる。また、都市化、宅地化の進展による地面・道路の舗装拡大もナミハンミョウ等の減少につながっている。

河川敷では、堤防等の工事、公園化、流路の固定化、砂礫の減少などで、氾濫を繰り返すことで維持されてきた急流河川特有の環境、植生が減少し、カワラバッタ、ウスバカマキリ、ミヤマシジミ、カワラハンミョウ、アオモンギンセダカモクメなどがその影響を強く受けている。

平地から丘陵地の淡水環境は、止水域・流水域ともに水田の圃場整備や栽培技術の変化とともに大きく変化した。ため池や湿地の埋め立て、河川改修や護岸などの改修工事、それに伴う水質や生息環境の悪化、また、外来生物の侵入による影響などもあり、その変化は淡水性・湿地性の昆虫相に多大な影響を及ぼしている。ゲンゴロウやタガメといった大型の水生昆虫には絶滅したと考えられるものもあり、アオサナエ、カトリヤンマなどのトンボ類やヒメミズカマキリなどの水生半翅類、クロゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキ、オオミズスマシなどの水生甲虫類の多くが減少している。

丘陵や低山地では、開発行為による環境破壊のほか、里山の管理放棄による植生や生息環境の変化が、この地域の昆虫の生息に大きな影響を及ぼしている。ギフチョウ、オオムラサキ、オオヒカゲ、オオシモフリスズメ、コシロシタバなどのチョウ・ガ類やトラフカミキリなどの甲虫類、フジジガバチ、ニトベギングチなどのカリバチ類も減少傾向が強い。

山地では、ダム建設や護岸工事、道路建設工事、森林伐採などが昆虫類の生息環境に大きな影響を及ぼしており、コヒョウモンモドキは事実上絶滅したものと考えられ、カラスシジミのようなシジミチョウ類、ナマリキシタバなどのガ類、ヒメオオクワガタ、フタスジカタビロハナカミキリ、オオチャイロハナムグリといった甲虫類も減少が強く懸念される。河川上流や溪流では、砂防堰堤建設やそれに伴う道路建設などによる河川形態の改変、水質の汚濁等により、ムカシトンボ、ヒメサナエ、ミネトワダカワゲラ、マルガタシマチビゲンゴロウなどの溪流性の水生昆虫類の生息環境が悪化している。山地の数少ない自然湖沼や湿地に生息するメススジゲンゴロウやアサヒナコマルガムシも生息基盤がぜい弱なものである。

亜高山・高山域では、観光開発やいわゆるオーバーツーリズムによる環境への影響や、地球温暖化の影響を受けての気温・降積雪量等の変化、それに伴う植生変化の影響が強く現れると考えられる。また、シカやイノシシ等の進出による植生変化なども危惧されている。これらは、タカネヒカゲ、ミヤマモンキチョウなどの高山蝶やオオギンスジコウモリ、ホッキョクモンヤガといった高山蛾、またコクロナガオサムシのような甲虫類にも影響を及ぼし、池塘群の減少は、ムツアカネ、カラカネトンボといった高山性トンボ類の減少をもたらす。

表3. 選定種の目別の主な減少要因

目名	種数	要因													
		2. 河川環境の変化	3. 土地開発	4. 農地整備	5. 池沼・湿地の開発	6. 森林伐採	7. 道路工事	8. ダム・堰堤工事	9. 採取	10. 森林・農地の管理低下	11. 水質汚濁・土壤汚染(含む農薬多用)	12. 外来生物	13. 温暖化	14. 生息地局限	15. その他・不明
トンボ	30	0	12	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カワゲラ	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
ゴキブリ	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
カマキリ	3	0	1	2	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0
ナナフシ	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ハサミムシ	3	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
バッタ	15	3	4	9	6	0	3	0	0	4	6	0	0	3	0
カメムシ	38	1	6	23	20	18	10	18	5	1	26	18	16	0	7
アミメカゲロウ	4	2	2	4	0	0	1	4	4	0	0	0	0	0	4
ヘビトンボ	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	1
ラクダムシ	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1
コウチュウ	158	9	42	89	49	38	71	81	34	6	43	51	31	10	32
シリニアゲムシ	2	0	0	2	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	2
ハチ	20	4	7	11	2	0	5	2	1	0	4	0	1	2	3
ハエ	17	1	0	0	3	5	3	0	0	0	5	0	0	0	5
トビケラ	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	1	1	0	1
チョウ(チョウ類)	29	0	5	6	1	1	4	6	7	9	5	0	0	0	18
チョウ(ガ類)	29	0	8	15	4	6	11	11	5	0	2	0	0	2	8
合計	354	20	87	169	86	88	118	127	60	16	91	79	50	14	76
															136

※当てはまる項目に種数を示したが、複数の項目に当てはまる種が存在するので種数の合計は各目の種数とは一致しない。

(5) 種のリストの整理基準

見出しの和名は種階級での表記を原則としたが、一般的に亜種階級が使われている場合は亜種名を記した。和名と学名は原則として『日本昆虫目録 1~9巻』(日本昆虫学会, 2013~2022) によったが、刊行されていない群については『日本産昆虫総目録』(九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター, 1989・1990)、および、それ以降に出版(改訂)された図鑑類によった。各種の形態・国内分布・生態等については、分類群ごとに下記のものを参考にした。

県内の分布および生息状況は、公表されている文献、河川水辺の国勢調査のデータベースやサイエンスミュージアムネットなどのウェブサイトの一部、未公表標本のデータに基づいて記述したが、与えられた時間内に収集できたものをまとめたにすぎず、充分に網羅・検証されていない場合がある。

各種解説中の分布図については、既存の分布情報を比較的漏れなく収集できたトンボ目と鱗翅目でのみ作成した(2012年以降の記録を基に作成した点は他分野と同様。なお、チョウ類では、保護上の観点等から非掲載の種あり)。前記の2目以外は、既存の分布情報の収集も満足でない場合が散見され、信頼性のある分布図の作成は難しいと判断し、今回は作成を断念した。

【各種の形態・国内分布・生態等を参照した図鑑類】

■ トンボ目

『ネイチャーガイド 日本のトンボ 改訂第2版』(文一総合出版, 2022)

■ カワゲラ目

『日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版』(東海大学出版部, 2018)

■ ゴキブリ目、カマキリ目、ナナフシ目、ハサミムシ目、バッタ目

『日本産直翅類標準図鑑』(学研プラス, 2016)

■ カメムシ目

『日本原色カメムシ図鑑』(全国農村教育協会, 1993)

『日本原色カメムシ図鑑 第2巻』(全国農村教育協会, 2001)

『日本原色カメムシ図鑑 第3巻』(全国農村教育協会, 2012)

『日本産セミ科図鑑 改訂版』(誠文堂新光社, 2015)

『レッドデータブック5 昆虫類－日本の絶滅のおそれのある野生生物－』(ぎょうせい, 2015)

『日本昆虫目録 第4巻』(日本昆虫学会, 2016)

『ネイチャーガイド 日本の水生昆虫』(文一総合出版, 2020)

『原色昆虫大図鑑 第3巻』(北隆館, 2008)

■ヘビトンボ目

- 『日本昆虫目録 第5巻』(日本昆虫学会, 2016)
『日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版』(東海大学出版部, 2018)

■ラクダムシ目

- 『日本産幼虫図鑑』(学習研究社, 2005)
『日本昆虫目録 第5巻』(日本昆虫学会, 2016)

■アミメカゲロウ目

- 『原色昆虫大図鑑 第3巻』(北隆館, 2008)
『ホシザキグリーン財団研究報告特別号 第14号—島根県の海岸に生息する昆虫—』(ホシザキグリーン財団, 2015年)
『日本昆虫目録 第5巻』(日本昆虫学会, 2016)

■コウチュウ目

- 『原色日本甲虫図鑑4』(保育社, 1984)
『原色日本甲虫図鑑2』(保育社, 1985)
『原色日本甲虫図鑑3』(保育社, 1985)
『日本産カミキリムシ』(東海大学出版会, 2007)
『日本産コガネムシ上科図説 第1巻 普及版』(昆虫文献六本脚, 2008)
『日本産コガネムシ上科標準図鑑』(学研教育出版, 2012)
『月刊むし・昆虫図説シリーズ2 日本のネクイハムシ』(むし社, 2012)
『日本産オサムシ図説』(昆虫文献六本脚, 2013)
『日本産タマムシ大図鑑』(むし社, 2013)
『レッドデータブック5 昆虫類—日本の絶滅のおそれのある野生生物—』(ぎょうせい, 2015)
『日本産ゴミムシダマシ大図鑑』(むし社, 2016)
『日本産カミキリムシ大図鑑(I)』(むし社, 2018)
『ネイチャーガイド 日本の水生昆虫』(文一総合出版, 2020)
『日本昆虫目録 第6巻 第1部』(日本昆虫学会, 2022)
『日本産カミキリムシ大図鑑(II)』(むし社, 2023)
『月刊むし・昆虫図説シリーズ15 日本のヒメハナカミキリ』(むし社, 2024)
『日本列島の甲虫全種目録(2024年)』<https://japaneseebeetles.jimdofree.com/> (鈴木 茂, 2024)

■シリアゲムシ目

- 大貝秀雄, 2002. 富山県産長翅目昆虫. 富山市科学文化センター研究報告, (25): 95–112.
『日本昆虫目録 第5巻』(日本昆虫学会, 2016)

■ハチ目

- 『日本産アリ類図鑑』(朝倉書店, 2014)
『日本産ハナバチ図鑑』(文一総合出版, 2014)
『レッドデータブック5 昆虫類—日本の絶滅のおそれのある野生生物—』(ぎょうせい, 2015)
『日本産有剣ハチ類図鑑』(東海大学出版部, 2016)

■ハエ目

- 『原色昆虫大図鑑 第3巻』(北隆館, 2008)
『日本産蚊全種検索図鑑』(北隆館, 2019)

■トビケラ目

- 『レッドデータブック5 昆虫類—日本の絶滅のおそれのある野生生物—』(ぎょうせい, 2015)
『日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版』(東海大学出版部, 2018)

■チョウ目チョウ類

- 『原色日本蝶類生態図鑑I』(保育社, 1982)
『原色日本蝶類生態図鑑II』(保育社, 1983)
『原色日本蝶類生態図鑑III』(保育社, 1984)
『原色日本蝶類生態図鑑IV』(保育社, 1984)
『日本産蝶類標準図鑑』(学習研究社, 2006)
『富山県[立山博物館]特別企画展 夏風に舞う—高山蝶と森の蝶ゼフィルス—』(富山県[立山博物館], 2009)
『レッドデータブック5 昆虫類—日本の絶滅のおそれのある野生生物—』(ぎょうせい, 2015)
『日本産チョウ類の衰亡と保護 第8集』(大阪公立大学出版会, 2022)
『フィールドガイド増補改訂版日本のチョウ』(誠文堂新光社, 2023)

■チョウ目蛾類

- 『日本産蛾類標準図鑑I』(学研教育出版, 2011)

『日本産蛾類標準図鑑 II』（学研教育出版, 2011）

『日本産蛾類標準図鑑 III』（学研教育出版, 2013）

『List-MJ 日本産蛾類総目録 [version3]』 <http://listmj.mothprog.com/> (神保宇嗣, 2021)

(6) 今回調査の課題

今回の富山県 RDB (昆虫類) の改訂にあたっては、毎年有志による生息状況の調査がなされているトンボ類、および、最近の調査の進展が見られたごく一部の甲虫類以外の群については大きな困難があった。最大の困難は、多様な昆虫群について県内の生息状況が常時調査されているわけではない点である。一般的に愛好家の数が多いと目されるチョウ類さえ、現在の県下の生息状況を充分把握できているとはいえない。ましてや、ガ類、ハエ類、ハチ類等、種数が多くかつその生態も多様な群では、その一部さえも現状を掴むのは困難であった。これは、県内の昆虫類に携わる人材不足の問題であるとともに、本改訂事業の実施期間が実質 1 年足らずというあまりにも短期間であったためである。今回、この改訂作業にあたった委員の多くは、県内の昆虫類に関する調査研究を現在の本務とはしていないうえ、県外在住であったり高齢であったりして、充分な時間の取れない中、無理をして業務にあたらざるを得なかった。今後も自然環境の現状把握は重要な課題であり続けるのは明らかであり、関係行政機関、研究機関、教育機関の拡充充実を図り人材の登用・育成をしなければ、遠からずこのような事業は継続不可能となるものと危惧される。

また、多大な労力をかけて作成された本書であるが、その活用はいかがであろうか。多くの昆虫類は、現状では全体的に衰退に向かっているのは明らかであるが、登載された各種の中で述べられているような保全対策が実際に充分になされているとは言い難い。登載された種に関してのネガティブな活用、「これらの種がこの地では記録されていないので、もしくは現在は生息しないので、この地の環境の改変は許される。」や「これらの種の記録はあるが、もしくは生息が認められるが、その種の生息場所については大きな改変は無いので全体的には環境の改変は許される。」といった利用のされ方では、この事業の意味は無いであろう。登載された種の生息地を守るのは当然のことであるが、減少をくい止めるといった消極的利用ではなく、登載された種の個体数・生息地の積極的増加が図られ、その種の存在に特徴づけられる、その地域特有の生態系全体の安定的な存続が保障されるように活用されることが、この事業の持つ本来の主旨であると考える。

(7) 謝辞・協力者

改訂版リストをまとめにあたり、文献の貸与、写真の撮影・提供、標本の借用、データのご教示、多岐にわたるご助言など、様々な形で多くの方々のお世話になりました。ここに、そのご芳名を記して、心より謝意を表します。（敬称略、五十音順）

■情報提供（文献貸与、データ提供等）や助言をいただいた方々：神尾大地（東京理科大学大学院）、佐々木雅希（長野県）、霜鳥智也（富山県農林水産公社有峰森林部有峰森林文化村）、新堀 修（富山市）、丹保俊哉（富山県立山カルデラ砂防博物館）、中居昭信（富山県昆虫同好会）、中田達哉（北海道）、不破光大（魚津水族館）、町田禎之（（株）建設環境研究所）、水野 透（富山県昆虫同好会）、山中 浩（富山県昆虫同好会）、吉村久貴（石川県立金沢泉丘高等学校）、和田一郎（日本直翅類学会）

■写真提供や標本提供をいただいた方々：加藤治好（富山市）、北村征三郎（富山県昆虫同好会）、清水海渡（富山市科学博物館）、西澤正隆（長崎県）、野村孝昭（富山県昆虫同好会）、姫野諒太郎（富山市）、間野隆裕（愛知県）、水野 透（富山県昆虫同好会）、山中 浩（富山県昆虫同好会）

（文責：根来 尚・岩田朋文）

タガメ (カメムシ目・コオイムシ科) *Kirkaldyia deyrolli* (Vuillefroy, 1864)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国で減少しているうえ、県内では 1940 年代を最後に、再三の調査にもかかわらず確実に生息が裏付けられるような記録は追加されていない。

形態

全身が褐色。前脚は鎌状。日本産水生カメムシ類で最大級の種。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、砺波市、南砺市、高岡市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1, 半(水)13



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

コバンムシ (カメムシ目・コバンムシ科) *Ilyocoris cimicoides* (Linnaeus, 1758)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

全国で激減しているうえ、県内では 1970 年代を最後に、再三の調査にもかかわらず追加記録が一切ない。

形態

体は扁平で梢円型。頭部と前胸背板は黄緑色。上翅は黒色。前脚は小さいが鎌状。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

高岡市、氷見市。

生態・生息環境

新鮮な湧き水が流入するような、水質がよく植生豊富な池などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬や湧水の枯渇などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湧水にも配慮した湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)2, 半(水)6



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

ゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Cybister chinensis* Motschulsky, 1854

富山県 2025 カテゴリー：絶滅＋野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国で減少しているうえ、県内では 1990 年代を最後に、再三の調査にもかかわらず追加記録が一切ない。

形態

背面の大部分は深緑色。前胸背板と上翅の両側は黄色に縁取られる。日本産ゲンゴロウ科で最大級の種。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島（屋久島）。

県内の分布状況

黒部市、富山市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3

（文責：岩田 朋文）

マルガタゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Graphoderus adamsii* (Clark, 1864)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅＋野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国で減少しているうえ、県内では 1950 年代を最後に、再三の調査にもかかわらず追加記録が一切ない。

形態

前胸背板は主に黒色で、中央と両側は黄色。上翅は褐色で、黒色の網目模様がある。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3

（文責：岩田 朋文）

シマゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Hydaticus bowringii* Clark, 1864

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しているうえ、県内では 1940 年代を最後に、再三の調査にもかかわらず追加記録が一切ない。

形態

上翅は黒色で、縦筋状の黄色い斑紋が二対、円形の黄色い斑紋が一対ある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、南砺市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

カワラハンミョウ (コウチュウ目・オサムシ科) *Chaetodera laetescripta* (Motschulsky, 1860)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

全国で激減しているうえ、県内では 1940 年代の 1 例が知られているにすぎず、追加記録が一切ない。

形態

上翅は金属光沢のある深緑色。上翅に白い斑紋があり、発達具合には個体変異がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市。

生態・生息環境

河川や海浜の砂地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や植生遷移などによる砂地の消失。車の乗り入れなどによる砂地のかく乱。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

適度な増水などによる砂地の維持。車の乗り入れ制限。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a1



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

オツネントンボ (トンボ目・アオイトンボ科) *Sympetrum paedisca* (Brauer, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては県内平野部の水田地帯でも見られたようであるが、最近の記録は非常に少ない。

形態

全長 35~41mm、腹長 26~31mm、後翅長 20~24mm。地色は淡褐色で褐色の斑紋があり、越冬後は複眼の一部が青みをおびる。未成熟個体はホソミオツネントンボに似るが、前翅と後翅の縁紋が重ならないことなどで区別できる。

国内の分布状況

北海道から九州北部にかけて分布する。北陸地方では能登地方で記録が多いが、現存産地は限られる。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、富山市、射水市、高岡市、氷見市の 7 市町から記録があるが、最近の記録は少なく、現在の確実な産地は射水市的一部のみである。

生態・生息環境

平地から山地の抽水植物の繁茂する水質の良い池沼に生息する。成虫は 6~7 月に羽化してそのまま越冬し、翌年 6 月まで見られる。越冬後の成熟オスは 4 月頃から水辺の草などに静止して縄張りを作り、交尾は水域周辺の抽水植物などに静止して行われる。産卵はおもに連結態で水辺の抽水植物などに行われる。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

水質の良い抽水植物の繁茂した池沼の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：三橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

オゼイトトンボ (トンボ目・イトトンボ科) *Coenagrion terue* (Asahina, 1949)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では 2022 年に報告された種で、朝日町の一部にのみ分布し、安定した産地は 1ヶ所のみである。

形態

全長 33~40mm、腹長 25~30mm、後翅長 18~24mm。オオイトトンボ、エゾイトトンボに酷似するが、胸部の黒色条が細いことやオスは尾部付属器の形状、メスは腹部第 10 節背面が黒くならず、腹部背面の黒色条が第 8 節後半で縮小することなどで区別できる。

国内の分布状況

北海道から信越地方にかけて分布する。富山県は本種の分布西限に位置する。

県内の分布状況

朝日町からのみ記録がある。

生態・生息環境

丘陵地から山地の抽水植物や浮葉植物の繁茂する湿地。成虫は 5 月から 7 月に見られ、オオイトトンボやエゾイトトンボと混生することも多い。成熟オスは湿地の草などに静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の植物に静止して行われ、産卵はおもに連結態で水面付近の植物などに行われる。

生存への脅威（減少の要因）

湿地の埋め立てや水質悪化、草地化および殺虫剤や除草剤の使用。

保全対策

周囲に樹林のある草丈が短い湿地環境の保全、維持。

引用文献

蜻 3, 蜻 4, 蜻 5



撮影：三橋 亮



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

ネアカヨシヤンマ (トンボ目・ヤンマ科)

Brachytron anisopterum (Selys, 1883)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では産地が局限され、個体数も少ない。

形態

全長 75~88mm、腹長 49~63mm、後翅長 45~55mm。黒地に黄緑色の斑紋をもち、腹部がくびれない大型のヤンマであり、アオヤンマと比較的似るが、体斑の形状で区別できる。幼虫は腹部第 8~9 節の背中に刺があり、他種と容易に区別できる。

国内の分布状況

国内では岩手県から鹿児島県にかけて生息するが産地は局所的である。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、富山市、射水市、砺波市、高岡市、小矢部市、氷見市の 8 市町から記録があるが、現存産地は非常に少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地の周囲に林のある抽水植物の繁茂する池沼や湿地に生息し、放棄水田で発生することもある。成虫は 5 月から 9 月に見られ、黄昏時に活動に捕食活動を行う。成熟オスは林内で探雌飛翔を行う。交尾は林縁の枝などに静止して行われ、メスは単独で朽ち木や水際の泥に産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや草地化、水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、生息地周辺林の伐採。

保全対策

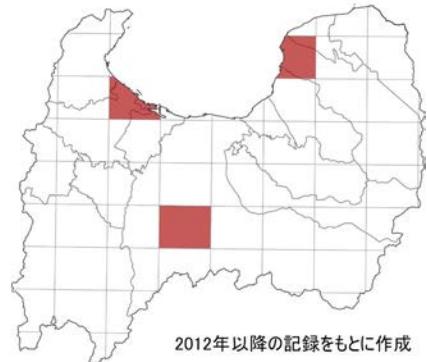
周辺林を伴う抽水植物の繁茂した池沼や湿地の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

カトリヤンマ (トンボ目・ヤンマ科)

Gynacantha japonica Bartenev, 1910

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては県下全域に極めて普通に見られたが、現在は富山市の極めて限られた範囲で確認されているのみであり、個体数も少ない。

形態

全長 66~77mm、腹長 46~57mm、後翅長 42~50mm。腹部が細長い中型のヤンマで、複眼が大きく胸部は成熟に伴い灰褐色から緑色へと変化する。オスの尾部付属器、メスの尾毛は極めて細長い。

国内の分布状況

北海道から沖縄県にかけて生息するが、近年全国各地で減少傾向にある。特に北陸地方以北の日本海側では現存産地が少ない。

県内の分布状況

かつては県下全域に広く生息したようであるが、確実な記録があるのは立山町、富山市、射水市、砺波市、小矢部市の 5 市町で、現存する産地は富山市のごく一部である。

生態・生息環境

平地から丘陵地の周囲に樹林のある池沼や水田、河川敷の水溜りなどに生息する。成虫は 7 月から 11 月に見られる。黄昏時に活動に飛翔し、かつては日中、林の枝で鈴なりに静止しているのが見られたという。成熟オスは夏には林内で枝をつつくように飛翔して探雌することが多いが、秋には日中、湿地上でホバリングする個体が目立つようになる。交尾は水域周辺の林内の枝などに静止して行われ、産卵はメスが単独で水辺の泥に行う。

生存への脅威（減少の要因）

水田の圃場整備や生息地の埋め立て、水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、生息地周辺林の伐採。

保全対策

樹陰の多い池沼や、周辺林のある水田の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

マダラヤンマ (トンボ目・ヤンマ科) *Aeshna mixta* Latreille, 1805

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

平野部の池沼や河川敷の湿地に生息するが、近年激減しており、確実な発生地は非常に少ない。

形態

全長 63~74mm、腹長 43~51mm、後翅長 39~46mm。淡青色の斑紋のある小型のヤンマで、オオルリボシヤンマを小さくしたような種類である。

国内の分布状況

北海道から福井県にかけて分布するが、北陸地方では近年激減している。

県内の分布状況

入善町、黒部市、魚津市、滑川市、富山市、射水市、高岡市、氷見市の 8 市町で記録があるが、現存産地は非常に少ない。

生態・生息環境

沿岸部の背丈の高い抽水植物の繁茂する池沼に生息し、大河の河川敷でも見られる。成虫は 7~8 月に羽化して、一旦生殖水域を離れ、9 月頃水辺に戻り 11 月まで見られる。成熟オスは抽水植物の繁茂する池沼の小空間でホバリングを交えて縄張りをつくり、しばしば周囲の草に静止する。交尾は水域周辺の抽水植物に静止して行われ、産卵はメスが単独で水面付近の植物組織内に行う。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや草地化、水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

抽水植物の繁茂した池沼の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

アオサナエ (トンボ目・サナエトンボ科) *Nihonogomphus viridis* Oguma, 1926

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では子撫川流域で記録されているが、生息地周辺では河川改修が進んでおり、2006 年を最後に記録が途絶えている。

形態

全長 57~65mm、腹長 37~45mm、後翅長 29~38mm。胸部が緑色の中型のサナエトンボ。オスは腹端が広がり、長い尾部付属器をもつ。未成熟個体はホンサナエと比較的類似するが、胸部の斑紋や付属器の形状で区別できる。

国内の分布状況

日本特産種で、岩手県、秋田県から鹿児島県にかけて分布するが、東日本では産地が限られる。

県内の分布状況

高岡市、小矢部市の子撫川流域で確認されているのみであるが、2006 年の記録を最後に確認例が途絶えている。

生態・生息環境

丘陵地の河川中流域に生息し、成虫は堰などの周辺の流れが緩やかなところを好む。成虫は 5 月から 7 月に見られ、成熟個体は黄昏時に活発に活動する。成熟オスは流畔の石などに静止して縄張りをつくり、交尾は水域周辺の高い樹木の葉上で静止して行われる。産卵はメスが単独で卵塊を作った後、流れの上でホバリングしたまま放卵して行われるが、敏捷に飛翔しながら水面に打水して行われることもある。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、生息地周辺の森林伐採。

保全対策

生息地の渓流と周辺部の森林の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 4



撮影：三橋亮

(文責：二橋 亮)

モイワサナエ本州中部亜種（ヒラサナエ） (*Davidius moiwanus taruii* (Okumura, 1935))

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が著しく限られる上に、草地化や河川改修など生息地周辺での環境悪化が目立つ。

形態

全長 36~49mm、腹長 22~37mm、後翅長 21~29mm。小型のサナエトンボで、ダビドサナエやクロサナエに酷似するが、オスは尾部付属器、メスは後頭孔縁の形で区別される。本県産の個体は他県産と比較して大型である。

国内の分布状況

日本特産種であるモイワサナエの本州中部亜種。富山、石川、福井、滋賀、京都、兵庫、岡山の各府県に生息するが生息地は局限される。富山県は本亜種の分布東限に位置する。

県内の分布状況

南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の 4 市で記録があるが、産地は極めて限られる。

生態・生息環境

丘陵地のフキなどの生えた湿地を流れる細流に生息する。成虫は 4 月から 7 月まで見られる。未成熟個体も生息地周辺をあまり離れない。成熟オスは流れの付近の草などに静止して縄張りをつくり、交尾は水域周辺の草や低木の葉上で静止して行われる。産卵はメスが単独で水際の草の上などでホバリングしながら腹端をわずかに振って卵をばらまく。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、生息地周辺の森林伐採。

保全対策

生息地の細流、周辺部の森林の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

ヒメサナエ (トンボ目・サナエトンボ科) (*Sinogomphus flavolimbatus* (Oguma, 1926))

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では産地が局限され、河川改修などの影響で絶滅する危険性が考えられる。

形態

全長 41~47mm、腹長 31~34mm、後翅長 24~28mm。小型のサナエトンボで、翅胸前面にはハの字型の黄斑に加えて、背隆線に沿っても黄色部がある。胸部側面の黒条は 1 本。尾部付属器は白く、オスでは直線状。

国内の分布状況

日本特産種で、青森県から鹿児島県にかけて分布するが、東日本では産地が限られる。

県内の分布状況

富山市の大谷川で少数が確認されているのみである。

生態・生息環境

林に囲まれた丘陵地から山地の溪流に生息する。成虫は 6 月から 8 月にかけて見られる。成熟オスは木漏れ日の当たるような溪流の石などに静止して縄張りをつくる。交尾は低木の葉などに静止して行われ、産卵はメスが単独で卵塊を作つてから、間欠的に打水して行われる。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や砂防ダム工事、生息地周辺の森林伐採。

保全対策

生息地の溪流と周辺部の森林の保全。

引用文献

蜻 2, 蜻 4



撮影：二橋 亮



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

ホンサンナウ (トンボ目・サナエトンボ科) *Shaogomphus postocularis* (Selys, 1869)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では 1972 年を最後に確認例が途絶えている。

形態

全長 49~55mm、腹長 33~36mm、後翅長 29~32mm。すんぐりした中型のサナエトンボで、オスは腹端がふくらみ、尾部上付属器が強く曲がっている。

国内の分布状況

北海道から熊本県にかけて生息する。北陸地方では近年激減しており、石川県では 1950 年代以降全く確認されていない。

県内の分布状況

上市町、富山市、高岡市の 3 市町から記録があるが、近年は全く確認されていない。

生態・生息環境

平地から丘陵地にかけての河川中～下流域に生息する。成虫は他県では 5~6 月に多く見られる。成熟オスは、流畔の石などに静止して縛張りをつくる。交尾は水域からやや離れた木立に静止して行い、産卵はメスが単独で卵塊を形成してから打水して行う。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用。

保全対策

河川中流域の汚染が少なく、自然度の高い環境の保全、回復。

引用文献

蜻 1, 蜻 4

撮影：二橋 亮（茨城県産）

（文責：二橋 亮）

キイロサンナウ (トンボ目・サナエトンボ科) *Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

河川改修や水質汚濁の影響で、県内では現存産地が非常に少ない。

形態

全長 60~69mm、腹長 42~51mm、後翅長 37~44mm。大型のサナエトンボで、ヤマサンエに似るが、オスは尾部上付属器や副性器の形状、メスは産卵弁が突出することで区別できる。

国内の分布状況

新潟県から鹿児島県にかけて分布する。北陸地方では現存産地は限られる。

県内の分布状況

富山市、射水市、南砺市、氷見市の 4 市から記録があるが、現在確実に生息しているのは射水市の一帯に限られる。

生態・生息環境

平地から丘陵地の緩やかな流れに生息する。成虫は 5 月に羽化して 8 月まで見られ、ヤマサンエより若干出現期が遅れる傾向にある。成熟オスは流畔の草などに静止して縛張りをつくる。交尾は樹葉の上に静止して行われ、産卵はメスが単独で水域周辺の草に静止もしくは流れの上でホバリングしながら卵塊を作った後、打泥もしくは打水して行う。連続打泥産卵を行うこともある。

生存への脅威（減少の要因）

用水路の護岸や水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、生息地周辺林の伐採。

保全対策

生息地の河川と周辺部の森林の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：二橋 亮）

ハネビロエゾトンボ (トンボ目・エゾトンボ科)

Somatochlora clavata Oguma, 1913

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

もともと生息地が限られていたが、近年減少しており、絶滅に瀕している。

形態

全長 58~66mm、腹長 37~50mm、後翅長 39~45mm。胸部が金緑色の中型のトンボで、エゾトンボに極めて似るが、オスは尾部付属器や副性器、メスは産卵弁の形状で区別できる。

国内の分布状況

日本特産種で、北海道から鹿児島県にかけて生息するが、全国的に減少している。

県内の分布状況

確実な記録があるのは黒部市、上市町、立山町、富山市、小矢部市の 5 市町であるが、現存産地は非常に少ない。

生態・生息環境

丘陵地の緩い小川や用水路に生息する。成虫は 7 月から 10 月に見られる。成熟オスは、流れの上でホバリングを交えながら縄張りをつくる。交尾は樹梢で静止して行われることが多く、メスは単独で水面や水際の泥に打水、打泥産卵を行う。

生存への脅威（減少の要因）

用水路の護岸や水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、生息地周辺林の伐採。

保全対策

生息地周辺の水路、森林の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

タイリクアカネ (トンボ目・トンボ科)

Sympetrum striolatum (Charpentier, 1840)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では海岸沿いに数か所の生息地が知られていたが、環境悪化により現在の確実な産地はない。

形態

全長 39~49mm、腹長 25~33mm、後翅長 27~34mm。大型のアカネで、胸部の黒条は細くて短い。北陸地方の個体は、翅が前縁を中心に鮮やかな橙色になる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、関東地方から中部地方にかけては分布の空白域がある。北陸地方では能登島周辺で記録が多かったが、近年激減しており、現存産地は不明である。

県内の分布状況

射水市、高岡市、氷見市の 3 市から記録があるが、生息環境の悪化により、2013 年の記録を最後に確認例が途絶えている。

生態・生息環境

沿岸部の池沼に生息し、他県では汽水域や学校のプールでも記録されている。成虫は 6~7 月に羽化して一旦生息水域を離れ、9 月頃から水辺に戻り 11 月まで見られる。成熟成虫は晴れた日の午前中に多く見られ、交尾は水域周辺の抽水植物などに静止して行われる。産卵は連結態またはメスが単独で打水して行われる。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

海辺の池沼、湿地の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

ハマスズ (バッタ目・ヒバリモドキ科) *Dianemobius csikii* (Bolivar, 1901)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い砂浜の砂地に棲み、希に河原にも棲む。各地で生息地が減少している。

形態

体長 7mm 程度の小型のコオロギで、夏～秋に成虫が見られる。淡褐色に褐色の斑点があり、色彩は砂によく似る。ジーーと鳴く。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、奄美大島。

県内の分布状況

富山市大山町の常願寺川中流の河川敷から記録があるのみ。

生態・生息環境

自然度の高い、砂浜や河原の砂地。

生存への脅威（減少の要因）

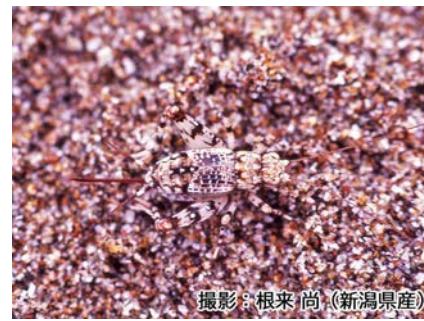
砂浜減少や河川敷工事等による砂地の改変・減少。

保全対策

砂浜や河原の砂地の保全。

引用文献

直 1



撮影：根来 尚（新潟県産）

（文責：根来 尚）

力ヤコオロギ (バッタ目・マツムシ科) *Euscyrtus japonicus* Shiraki, 1930

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

河川敷や草原に生息するが、近年、全国的に減少傾向にある。富山県では、戦前の記録が 1 例あるのみ。

形態

体長約 9mm、夏・秋に成虫が見られる。体色は黄褐色で、背面は濃褐色。ハネは短く発音器はない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

小矢部市興法寺での戦前の古い記録があるのみ。

生態・生息環境

乾燥した明るいイネ科の草原。

生存への脅威（減少の要因）

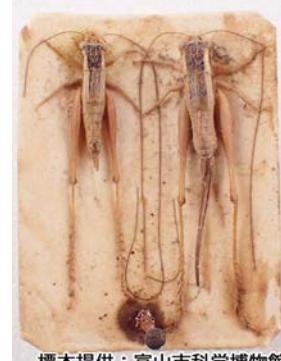
明るい草原や河川敷の草原の減少や農薬の散布。

保全対策

生存に適する草原の保全、薬剤の使用に関し相応の配慮。

引用文献

直 1



標本提供：富山市科学博物館

（文責：根来 尚）

ヤマトマダラバッタ (ヤマトバッタ) (*Epacromius japonicus* (Shiraki, 1910))

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い海岸砂浜にのみに生息するが、全国的に減少しており、富山県での記録は富山市の砂浜でのみ。

形態

中型のバッタ。灰色の体色に暗褐色の斑点があり、色彩は砂に似る。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市浜黒崎から岩瀬にかけての砂浜から記録されている。長らく記録が無かったが、近年富山市浜黒崎で生息が確認された。

生態・生息環境

自然度の高い海岸の砂浜。

生存への脅威（減少の要因）

砂浜の改変、減少。砂浜への車両の乗り入れ。

保全対策

海岸の良好な砂浜の保全。

引用文献

直 1



(文責：根来 尚)

コオイムシ (カメムシ目・コオイムシ科) *Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の現存産地は 2 か所のみ。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

体は扁平。全身が褐色。前脚は鎌状。オオコオイムシよりも小型の個体が多い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、上市町、魚津市、富山市、南砺市、高岡市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地、河川のよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)3, 半(水)4, 半(水)5



標本提供：澤田 研太

(文責：岩田 朋文)

ホッケミズムシ (カメムシ目・ミズムシ科) *Hesperocorixa distantii hokkensis* (Matsumura, 1905)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

近年の県内記録はない。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

頭部は黄色。前胸背板に横筋状の黒い斑紋が数本ある。上翅に雲状の黒い斑紋がある。大型のミズムシ。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1

(文責：岩田 朋文)

ミヤケミズムシ (カメムシ目・ミズムシ科) *Xenocorixa vittipennis* (Horváth, 1879)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

近年の県内記録はない。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

頭部は黄色。前胸背板に横筋状の黒い斑紋が数本ある。上翅に雲状の黒い斑紋がある。前脚はヘラ状。中型のミズムシ。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1、半(水)8

(文責：岩田 朋文)

ババアメンボ (カメムシ目・アメンボ科) *Gerris babai* Miyamoto, 1958

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内記録はわずか。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

背面は暗褐色。ヒメアメンボよりも一回り小型。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1、半(水)15



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

エサキアメンボ (カメムシ目・アメンボ科) *Limnoporus esakii* (Miyamoto, 1958)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内記録はわずか。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

背面は暗褐色。体の両側は銀色に細く縁どられる。腹端に一対の突起がある。体は他のアメンボ類より細長い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池や湿地のヨシ群落の根際などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地やヨシ群落の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

ヨシ群落にも配慮した湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)14



撮影：岩田 朋文

（文責：岩田 朋文）

オオウスバカゲロウ

Synclisis japonica (Hagen, 1866)

(アミメカゲロウ目・ウスバカゲロウ科)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では近年ほとんど発見されていない。開発・かく乱されやすい海浜や河川敷の砂地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が暗褐色。各翅に小さい黒色の斑紋がある。日本産ウスバカゲロウ科で最大種。



標本提供：
富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市、南砺市、氷見市。

生態・生息環境

海浜や河川の砂地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

海岸開発などによる砂地の消失。車の乗り入れなどによる砂地のかく乱。

保全対策

適度な河川増水などによる砂の供給量維持。車の乗り入れ制限。

引用文献

脈2

（文責：岩田 朋文）

キバネツノトンボ

Libelloides ramburi (McLachlan, 1875)

(アミメカゲロウ目・ツノトンボ科)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は長らく 1940 年代の 1 例のみであったが、2019 年以降、数か所で再発見された。開発や植生遷移の影響を受けやすい裸地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が黒色。後翅は黒色で、黄色の斑紋がある。



撮影：岩田 朋文

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

日当たりがよく乾燥した裸地のある草地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

道路舗装や植生遷移などによる裸地の消失。車の乗り入れなどによる裸地のかく乱。

保全対策

裸地の維持。車の乗り入れ制限。

引用文献

脈1, 脉2

（文責：岩田 朋文）

オオミズスマシ (コウチュウ目・ミズスマシ科) *Dineutus orientalis* Modder, 1776

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では近年ほとんど発見されていない。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

背面は光沢のある黒色。前胸背板と上翅の両側は黄色に細く縁どられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、小矢部市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

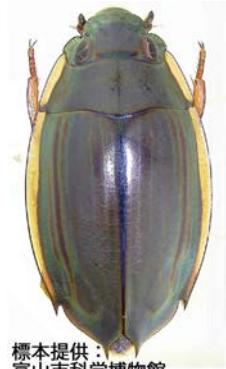
開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a15, 鞘 a35



標本提供：
富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

ヒメミズスマシ (コウチュウ目・ミズスマシ科) *Gyrinus gestroi* Régimbart, 1883

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

全国で激減しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が光沢のある黒色。外見で同属他種との識別は困難。オス交尾器中央片の先端は丸みを帯びる。ミズスマシより小型の場合が多い。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、小矢部市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a35



標本提供：
惣名実

（文責：岩田 朋文）

クロゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Cybister brevis* Aubé, 1838

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しているうえ、県内では 1 地域でのみ現存しているにすぎない。

形態

全身が黒色だが、生時に水中で観察すると深緑色に見えて美しい。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、砺波市、旧西野尻村（現在の小矢部市と南砺市にまたがる地域）。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a29



撮影：澤田 研太

（文責：岩田 朋文）

シャープゲンゴロウモドキ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Dytiscus sharpi* Wehncke, 1875

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

全国で激減しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

背面の大部分は黒色。前胸背板と上翅の両側は黄色。腹面は黒色。メスの上翅には顕著な縦溝がある。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

南砺市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

新鮮な湧き水が流入するような、水質がよい植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬や湧水の枯渇などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湧水にも配慮した湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a35



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

マルチビゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Leiodytes frontalis* (Sharp, 1884)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では 2 か所でのみ記録されている。このうち 1 か所は、2018 年に完全に埋められ、消失した。

形態

体は球型。上翅は赤褐色で、暗褐色の斑紋がある。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、高岡市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a41

（文責：岩田 朋文）

マルガタシマチビゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Oreodytes sanmarkii* (C. R. Sahlberg, 1826)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録はわずか。県内ではもともと個体密度が低いと推測されるうえ、砂防工事などで開発・かく乱されやすい渓流のよどみに生息するため、絶滅に瀕していると考えられる。

形態

体は短卵型。上翅は黄色で、縦筋状の黒い斑紋が数本ある。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

水質がよい渓流の川砂がたまつたよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a47

（文責：岩田 朋文）

コマルケシゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しているうえ、県内では 1950 年代の 1 例が知られているにすぎず、再三の調査にもかかわらず追加記録が一切ない。

形態

体は球型だが、サメハダマルケシゲンゴロウよりやや細長い。全身が赤褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。



標本提供：富山市科学博物館

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a20

(文責：岩田 朋文)

サメハダマルケシゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では 3 か所でのみ記録されている。県内で唯一現存していた既知産地が 2020 年に半分ほど埋められ、それ以降は生息が確認されていない。

形態

体は球型。全身が赤褐色。

国内の分布状況

本州、九州、南西諸島。

県内の分布状況

富山市、射水市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。



標本提供：澤田 研太

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a20

(文責：岩田 朋文)

ケシゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Hyphydrus japonicus* Sharp, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しているうえ、県内では 2000 年を最後に、再三の調査にもかかわらず追加記録が一切ない。

形態

体は球型。上翅は黒色で、黄色の斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a8, 鞘 a15



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

ルイスツブゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国で減少しているうえ、県内で唯一現存していた既知産地が 2020 年に半分ほど埋められ、それ以降は生息が確認されていない。

形態

上翅は薄黄色で、黒色に縁取られた褐色の縦筋状の斑紋が数本ある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

上市町、富山市、砺波市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a8



撮影：澤田 研太

（文責：岩田 朋文）

ホソハンミョウ (コウチュウ目・オサムシ科) *Cylindera gracilis* (Pallas, 1773)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内記録はわずか。全国で減少しているうえ、開発・かく乱されやすい人里近くの草地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

背面は鈍い金属光沢のある黒色。上翅の両側に白い斑紋が二対ある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の湿った草地や河川敷に生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や植生遷移などによる草地の消失。車の乗り入れなどによる草地のかく乱。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

適度な増水などによる草地の維持。車の乗り入れ制限。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a1, 鞘 a2



標本提供：
富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

ナミハンミョウ (コウチュウ目・オサムシ科) *Cicindela japonica* Thunberg, 1781

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では近年ほとんど発見されていない。開発や植生遷移の影響を受けやすい裸地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

背面は鈍い金属光沢のある紺色と赤色。上翅に白い斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

朝日町、立山町、富山市、砺波市、南砺市、高岡市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の日当たりがよい裸地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

道路舗装や植生遷移などによる裸地の消失。車の乗り入れなどによる裸地のかく乱。

保全対策

裸地の維持。車の乗り入れ制限。

引用文献

鞘 a2, 鞘 a9, 鞘 a10, 鞘 a13, 鞘 a16, 鞘 a18, 鞘 b57



撮影：澤田研太

（文責：岩田 朋文）

オオサカアオゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科)

Chlaenius pericallus L. Redtenbacher, 1868

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

県内記録は 1970 年代までの数例のみと思われる。環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

前胸背板は赤色。上翅の両側は橙色に縁取られ、その縁取りは後方で太くなる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、南砺市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の湿地、水田、河川敷などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や管理放棄などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。イノシシの掘り返しこによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。イノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a1



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

オオヨツボシゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科)

Dischissus mirandus Bates, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は 1 例のみと思われる。県内ではもともと個体密度が低いと推測されるうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、絶滅に瀕していると考えられる。

形態

上翅に橙色の斑紋が二対ある。大型のヨツボシゴミムシ。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

高岡市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の湿地や河川敷などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や管理放棄などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。イノシシの掘り返しこによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。イノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a19



標本提供：岩田 朋文
(新潟県産)

（文責：岩田 朋文）

クロマダラタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科) *Nipponobuprestis (Nipponobuprestisia) querceti* (E. Saunders, 1873)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

日本海側の分布北限に近く、県内産地は極めて限定的。全国的に個体数の少ない種であり、本県での個体数も極めて少ない。発生環境は限られているうえに減少傾向にある。本種の発生木となるには多くの年数が必要であり、発生環境は容易に生じない。

形態

体長 17~28mm。背面は光沢を備えた黒銅色の地色に赤銅色の斑紋を散布する。上翅の縦隆脈はやや不明瞭。オスの復端は三角形にえぐられる。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

成虫は6~8月頃に出現する。エノキの葉を後食し、エノキの大木の枯死部につく。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の切除。生息地の整備や公園化等の開発。

保全対策

現存している発生木および周辺環境の保全。平野部や低山帯の発生木となりうるエノキの大木、古木の保全は必須である。

特記事項

氷見市では発生木が切除された例がある。

引用文献

鞘 b12

（文責：澤田 研太）

トオヤマシラホシナガタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科)

Agrilus ventricosus Fairmaire, 1888

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で確認されている産地は 1箇所のみ。その産地は既に消失しており、再発見もできていない。

形態

体長 12mm 前後。体色は青緑色で強い金属光沢を帯びる美麗種。近似種のシラホシナガタマムシに比べて体は太短い。



標本提供・撮影：野村 孝昭

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

成虫は7~8月に出現し、エゾエノキの大木、古木に集まる。県内にエゾエノキは広く分布するが、本種の発生木となる条件は限られている。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の伐採。発生地周辺の環境変化。

保全対策

発生木の保全および、発生木となる大木のエゾエノキが自生する森林環境の保全。

特記事項

南砺市では発生木と思われるエゾエノキから採集されていたが、道路拡幅のためにその木が伐採されてからは全く見られなくなった。その後、県内からは再発見されていない。

引用文献

鞘 b12

（文責：澤田 研太）

ツヤナガタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科) *Agrilus cupes* Lewis, 1893

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地、生息環境が限定的で消失した産地もある。生息密度が低い。

形態

体長 5.5~7.0mm。強い金属光沢を帯びた青色や緑色の体色をした美しい種。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

成虫は6月頃に出現し、バイカウツギにつく。

生存への脅威（減少の要因）

寄生木であるバイカウツギの切除。

保全対策

生息環境の維持、保全。

特記事項

図鑑等ではミツバウツギにもつくとされるが、県内ではミツバウツギから見つかった例はない。

引用文献

鞘 b12

撮影：澤田 研太



(文責：澤田 研太)

ヤマトホソガムシ (コウチュウ目・ホソガムシ科) *Hydrochus japonicus* Sharp, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しているうえ、県内では1970年代以前の1例が知られているにすぎず、追加記録が一切ない。

形態

全身が鈍い金属光沢のある褐色で、うっすらと緑色を帯びる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPMなどによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：岩田 朋文)

マメガムシ (コウチュウ目・ガムシ科) *Regimbartia attenuata* (Fabricius, 1801)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では 2002 年までの数例が知られているにすぎず、再三の調査にもかかわらず追加記録が一切ない。

形態

体は細長い半球型。全身が黒色。小型のガムシ。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、砺波市、南砺市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a9

（文責：岩田 朋文）

ヒメフチケマグソコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Aphodius (Aganocrossus) urostigma* Harold, 1862

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

約 70 年間記録がない。生息環境が減少傾向にある。

形態

体長 4.0～5.0mm。体は黒～黒褐色で光沢がある。前胸背板は膨隆し横長で背面は無毛。側縁には後角付近と前方に数本の毛があるのみ。上翅は基部から 4/5 程度の梢円を描いた範囲で無毛、それより先は有毛。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州、伊豆諸島、隠岐、四国、九州、対馬、五島列島、大隅諸島、吐噶喇列島、奄美群島、沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市。1940 年と 1953 年に採集された県産標本が残されているが、その後の記録は無い。

生態・生息環境

放牧地や荒地など開けた環境に多い。牛、馬、シカ等の糞に集まり、灯火にも飛来する。場所によっては近似種であるフチケマグソコガネと混生する。

生存への脅威（減少の要因）

都市化、放牧地の減少、草原環境の消失等による生息環境の消失。

保全対策

牧場や放牧地、草原等生息環境の保全。

特記事項

以前はフチケマグソコガネと混同されていた種であり、県産標本も同日同所ラベルのフチケマグソコガネの標本から見出されたことから県内でも混生していた可能性がある。

引用文献

鞘 b16

（文責：澤田 研太）

マルエンマコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Onthophagus (Gibbonthophagus) viduus* Harold, 1874

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に減少しており、本県でも約 70 年間記録がない。生息環境も減少している。

形態

体長 5.0～9.0mm。体は黒色～黒褐色でやや光沢を帯びる。頭部には 2～3 本の横隆起をもつ。前胸背板は強く膨隆し、オスは中央部前方に傾斜部があり、傾斜部上縁に 1 対の鈍いこぶをもつ。上翅の基部、翅端部に赤褐色紋をもつことがある。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、奥尻島、本州、佐渡島、飛島、隱岐、四国、九州、対馬、五島列島、大隅諸島、吐噶喇列島、奄美群島、沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島。

県内の分布状況

黒部市、南砺市。1940～1950 年代の標本が残されており、当時は平地を中心広く分布していた可能性があるが、その後は確実な採集例がない。

生態・生息環境

河川敷や荒れ地、放牧地等の開けた環境に生息する。牛、人、犬等の糞に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

都市化、放牧地の減少、草原環境の消失等による生息環境の消失。

保全対策

牧場や放牧地、草原等生息環境の保全。

引用文献

鞘 b16, 鞘 b17

(文責：澤田 研太)

ニセマグソコガネダマシ (コウチュウ目・ゴミムシダマシ科) *Trachyscelis sabuleti* Lewis, 1895

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の産地は極めて少なく、個体数も非常に少ない。生息環境は減少傾向にある。

形態

体長 2.7～3.3mm。背面は非常に強く膨隆し、暗赤褐色で光沢がある。個体によっては前胸背板や上翅会合部は赤褐色となる。前脛節端は広がり、外側は丸い。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、九州、五島列島、天草島。全国的にも産地は限定されている。

県内の分布状況

氷見市。

生態・生息環境

海浜性。自然度の高い海岸砂浜に生息する。春～秋にかけて、草本の根際や打ち上げられた海藻下を篩って見出される。

生存への脅威（減少の要因）

海岸線の整備や公園化。砂浜の後退や減少。

保全対策

海岸砂浜の保護。海浜植生の保護。

引用文献

鞘 b35

(文責：澤田 研太)

フタスジカタビロハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Brachyta bifasciata japonica* (Matsushita, 1933)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境の減少、悪化が著しく、生育地における個体数も少ない。複数の産地が消失している。

形態

体長 12~18mm。体は黒色、上翅は黄色で幅広い。上翅の前方から中央には 3 対、後半には 1 対、翅端付近には帯状の黒紋をもつ。上翅の黒紋には個体変異がある。

国内の分布状況

本州、金華山、隱岐・島後、四国。

県内の分布状況

立山町、南砺市。

生態・生息環境

4~7 月に低山帯~山地帯に出現する。ヤマシャクヤクの花に集まり、その花弁や花粉を食べる。幼虫は土中から根部を食べる。

生存への脅威（減少の要因）

本種の生息に欠かせないヤマシャクヤクの盗掘は最も大きな脅威である。植林等による森林環境の変化。

保全対策

ヤマシャクヤクの保護。生息地とその周辺の植生保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b57



撮影：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

シコクヒメコブハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Pseudosieversia shikokensis* Hayashi, 1959

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が極めて少ない。確認されている県内産地は 1 地点のみであり、日本海側の分布東限と思われる。個体数も少ない。

形態

体長 9~16mm。体は全体がやや艶消しの褐色で変異が多い。県産個体は赤色味を帯びる。前胸背板は全体が球状で正中部は明確に二分されず、後方は浅く陥没する。側縁は瘤状に小さく突出し、その後方のくびれは弱い。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

山地帯のカツラの大木周辺にみられ、ひこばえや周囲の低木の葉や枝に静止している。寄生植物は未知だが、カツラの大木から発生していると考えられる。

生存への脅威（減少の要因）

発生木と考えられるカツラ大木の伐採および周辺環境の変化。

保全対策

発生木および周辺環境の保全。

引用文献

鞘 b5



撮影：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

ヒゲシロホソコバネカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Necydalis (Necydalisca) odai* Hayashi, 1951

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地および生息環境が限定されており、生息密度が極めて低い。

形態

体長 11~25mm。体は細長く、艶消し状。雌雄で形態差が大きい。オスは小さく、上翅は褐色で翅端部のみ黒色。触角の第 8~9 節または 10 節の基半部までが白色。メスは大型で、上翅はほぼ黒色。触角は第 8~10 節が白色。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生息環境

山地帯の自然度の高い森林に生息する。ミズナラの立ち枯れや倒木に飛来する。本種の発生条件を満たす環境は限られていると推測される。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の消失、除去。森林環境の変化。

保全対策

生息地付近の森林環境の保全。発生条件を満たす木では何年にもわたり発生する可能性があり、発生木の保全は特に重要である。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b57

(文責：澤田 研太)

ヨツボシカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Stenylrinum quadrinotatum* Bates, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

全国的に激減しており、県内では近年の記録がない。

形態

体長 8~14mm。体は赤褐色で光沢がある。各上翅には上下に並ぶ黄白色の紋があり、この紋の大きさや形には変異がみられる。

国内の分布状況

北海道、本州、伊豆諸島、飛島、佐渡、隱岐、淡路島、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、屋久島、奄美諸島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、立山町、富山市、砺波市、高岡市。県内の記録は 1980 年代以前のものがほとんどで、近年は確認されていない。

生態・生息環境

低山帯に生息し、各種広葉樹に寄生する。クリなどの花に集まり、灯火にも飛来する。県内の生息地は主に平野部と考えられる。

生存への脅威（減少の要因）

平野部の都市化、宅地造成などの開発。

保全対策

平野部、低山帯の森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2



標本提供：富山市科学博物館

(文責：澤田 研太)

ヒラタネクイハムシ (コウチュウ目・ハムシ科)

Donacia splendens Jacobson, 1894

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は 1 例のみと思われる。県内ではもともと個体密度が低いと推測されるうえ、イノシシの増加などで山間部の湿地も環境が劣化している可能性があり、絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が金属光沢のある赤銅色。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地の湿地に生息し、スゲ類に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a22

(文責：岩田 朋文)

スジグロオオハムシ (コウチュウ目・ハムシ科)

Galeruca spectabilis (Faldermann, 1837)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国で記録が少ない種であり、県内記録も 1 例のみと思われる。2012 年以前に行われた既知産地における再三の調査でも再発見されなかったようで、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が暗褐色。上翅に縦筋状の隆起が数本ある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

砺波市。

生態・生息環境

山地での記録が多い。アザミ類やフキに集まるのではないかとみられている。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動や森林伐採などによる既知産地の環境の変化。

保全対策

森林の維持。気候変動対策。

引用文献

鞘 a45



標本提供・撮影：北村 征三郎

(文責：岩田 朋文)

トヤマオオミズクサハムシ (コウチュウ目・ハムシ科) *Plateumaris constricticollis toyamensis* Tominaga et Katsura, 1984

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録はわずか。県内ではもともと個体密度が低いと推測されるうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が金属光沢のある赤銅色で、うっすらと緑色を帯びるが、黒色個体などの色彩変異がある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

上市町。

生態・生息環境

山地の湿地に生息し、スゲ類に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a46



撮影：澤田 研太

（文責：岩田 朋文）

キゴシジガバチ (ハチ目・アナバチ科) *Sceliphron (Sceliphron) madraspatanum* (Fabricius, 1781)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

確認された産地は一ヵ所のみで、近年の確認が無い。近隣県でも個体数の減少が顕著である。

形態

体長 25mm 程度。体は黒色で、前胸背面に黄色の 2 紹、腹柄は黄色で細く長い。

国内の分布状況

本州（新潟県、福島県以南）、四国、九州、対馬、琉球諸島。

県内の分布状況

黒部市石田のみで記録されている。

生態・生息環境

人家や社寺の壁などに泥で筒状の巣作り、幼虫の餌としてクモ類を詰め、全体を半球形に塗り固める。

生存への脅威（減少の要因）

産地、個体数とともに少なかったものが、1980 年代から富山県でも同様な生態を持つアメリカジガバチが増えてきたことにより、急激に減少したものではないかと思われる。

保全対策

寺社の広い境内や屋敷林のような営巣環境の保全。

引用文献

膜 1

（文責：根来 尚）

クモマツマキチョウ北アルプス・戸隠亜種 (チョウ目・シロチョウ科) *Anthocharis cardamines issikii* Matsumura, 1925

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

山岳地における砂防ダム建設等により生息地が消滅した所がある。また、美麗種であるところから収集家の人気が高い。近年、生息地、個体数ともに激減している。

形態

前翅長 20~22mm の小型のシロチョウ。オスは前翅に鮮やかなオレンジ色の斑紋をもつ。メスは白色でオレンジ色の斑紋はない。

国内の分布状況

本州中部の飛騨山脈と赤石山脈、八ヶ岳などの渓谷地帯を生息地とし、高山蝶として扱われることが多い。しかし、その生息地は標高 350m 程の低地から 2,800m の高地におよぶ。北海道にはいない。

県内の分布状況

中部山岳地帯に源流をもつ各河川の中上流域の渓谷地帯で見られるが、分布は普遍的ではない。

生態・生息環境

成虫は低地の生息地では 5 月上旬より見られ、高地では 7 月下旬となる。幼虫はミヤマハタザオ、イワハタザオ、ヤマガラシなどのアブラナ科植物を食草としているため、主要な生息地は、攪乱頻度の高い渓谷地帯の川原、崩壊地、崖地にある。蛹で越冬する。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の河川上流域では、砂防ダムなどの建設や河川・道路の改修工事に伴って広範囲に生息環境が改変され、複数の生息地が失われている。攪乱頻度が低下することによって植生の遷移が進み、食草が消失し、生息地が消滅した所もある。また、オスは鮮やかなオレンジ色の斑紋をもつ美麗種のため、チョウ愛好家の垂涎の的となっている。

保全対策

1977 年、富山県の種指定天然記念物となり、文化財保護指導員による巡視保護活動が長年実施されてきたが、監視の目が届かない所も多く、十分とは言えない。また、砂防ダムなどの建設工事の際には、本種の生息地を温存する対策をとらねばならない。

特記事項

種指定の天然記念物の保護には、多くの課題がある。

引用文献

蝶 10, 蝶 25, 蝶 26, 蝶 31



撮影：澤田 昭芳



（文責：澤田 昭芳）

クロシジミ (チョウ目・シジミチョウ科) *Niphanda fusca* (Bremer et Grey, 1852)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、生息密度が低く、最近 40 年間以上記録がない。全国的に減少傾向にあり、絶滅が危惧されている。

形態

前翅長 20~22mm のやや大型のシジミチョウ。オスの翅表は暗青紫色、メスの翅表は暗褐色、どちらも裏面に黒っぽい斑点模様をもつ。

国内の分布状況

本州、四国、九州に分布。いずれの地域でも生息地は局地的で、多くの産地で減少傾向が報告されている。

県内の分布状況

県西部の五箇山山塊の南砺市利賀村、上平村、および福光町小矢部川上流の数ヶ所に限られる。

生態・生息環境

低山地の疎林を主要な生息地としている。年 1 回の発生。7~8 月に発生する。1~2 齢幼虫はアブラムシやキジラミの分泌液を食餌とし、その後はクロオオアリの巣中で育つという特異な生態を有する。越冬もクロオオアリの巣中で幼虫期に行われ、翌年、蛹化もアリの巣中で行われる。

生存への脅威（減少の要因）

全国的に減少しており、山地の疎林の荒廃が進み、生息環境の悪化が憂慮される。

保全対策

低山地の疎林の適度な手入れにより、明るい疎林の環境を維持することが最も有効と思われる。

特記事項

絶滅種認定に近い絶滅危惧種。

引用文献

蝶 25, 蝶 26



(文責：澤田 昭芳)

選定理由

生息地が県内において局限され、減少傾向が顕著に見られる。また、日本海側の国内における分布西限である。

形態

前翅長 15~16mm の小型のシジミチョウ。オスの翅表はルリ色、メスは褐色で、共に後翅裏面の縁に橙色の斑点と銀色の小班点をもつ。

国内の分布状況

中部地方と東北地方の一部にのみ分布。

県内の分布状況

1980 年代までは神通川以東の各河川に多く生息していたが、2000 年代に入り、生息地は神通川、常願寺川、黒部川の 3 河川に限られる。

生態・生息環境

県内では、食餌植物のコマツナギが生育する平野部の河川堤防周辺および河川敷の草地にのみ生息し、5 月下旬から 10 月にかけて年 3 回発生する。卵で越冬。成虫はコマツナギ群落の付近を活発に飛び、生息地から離れることはほとんどない。コマツナギ、ヒメジョオン、カワラヨモギなどの花によく止まって吸蜜する。

生存への脅威（減少の要因）

河川敷では各種施設の設置、草刈りの放棄や植生の遷移による草地の消失や植生の変化、河川堤防周辺では定期的な全面除草。神通川以東の各河川ではコマツナギが生育していてもミヤマシジミが消滅したところが多い。衰退の原因ははっきりしないが、生息地の植生の変化や温暖化などの気象条件の変化も要因として考えられる。

保全対策

河川堤防周辺のコマツナギ群落を含む草地において適度な草刈りを行うことによって、ミヤマシジミにとって安定した植生を保ち、生息環境を保全することが望まれる。また、狭い範囲での採集圧は衰退を加速させるので採集の自制が求められる。

特記事項

神通川、常願寺川、黒部川の 3 河川においても生息地、個体数ともに減少し、個体群の孤立化と小規模化が進み、絶滅の危険性が高まっている。

引用文献

蝶 7, 蝶 25, 蝶 26, 蝶 27



撮影：澤田 昭芳



（文責：澤田 昭芳）

コヒョウモンモドキ (チョウ目・タテハチョウ科) *Melitaea ambigua niphona* Butler, 1878

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生息地が県内において局限され、1970 年代の記録以後、全く見られない。

形態

前翅長 24~26mm の小型のヒョウモンチョウ。

国内の分布状況

本州にのみ分布。関東地方の北部と、中部地方の山地に限られる。どこでも減少傾向にある。

県内の分布状況

1950 年代のまだ有峰ダムが完成していないとき、有峰盆地内の草地で多数見られた。ダムの完成（1961 年）後は 1966 年、1975 年の記録はあるが、その後県内での記録はない。



標本提供：富山市科学博物館

生態・生息環境

一般に、山地の谷沿いの草地を生息地としている。年 1 回、7 月中旬から 8 月に発生する。クガイソウを主要な食草としている。成虫はオカトラノオ、ヒメジョオン、クガイソウなど多くの花に止まって吸蜜する。飛翔は緩やかで、草地を小刻みに飛ぶ。

生存への脅威（減少の要因）

有峰盆地の生息地はダム湖に水没したと考えられ、このような事態は二度と繰り返してはならない。

保全対策

食草のクガイソウは有峰を含め、県下の山地に多くはないものの、わりあい広く生育しており、調査をさらに継続する必要がある。

特記事項

絶滅種認定に近い絶滅危惧種。

引用文献

蝶 11, 蝶 25, 蝶 26

（文責：澤田 昭芳）

マエアカヒトリ (チョウ目・ヒトリガ科) *Aloa lactinea* (Cramer, 1777)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国的に減少している。県内では 1951 年の 1 例のみ記録がある。

形態

開張 60~65mm。前翅は白色で前縁が紅色。腹部背面は黄色と黒の縞模様。

国内の分布状況

本州、四国、九州、屋久島、沖縄諸島、八重山諸島。

県内の分布状況

射水市（旧新湊市）。

生態・生息環境

成虫は 5~10 月に発生。食草は主にネギ、ダイズ、トウモロコシなどの農作物。

生存への脅威（減少の要因）

農作物の害虫であることから幼虫の捕殺や農薬の散布が減少要因の一つと考えられている。

保全対策

有機農業の推進。草原環境の保全。

特記事項

県内では 70 年以上記録がなく、絶滅した可能性が高い。

引用文献

蛾 6



標本提供：富沢 章（埼玉県産）

（文責：川端 一旗）

アオモンギンセダカモクメ (チョウ目・ヤガ科) *Cucullia argentea* (Hufnagel, 1766)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国的に局地的で個体数が少ない。1977 年以降の記録が無く、生息地の神通川流域は環境改変が著しい。

形態

開張 35mm 前後。前後翅とも銀白色で前翅には緑色の模様がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

富山市：婦中町成子橋付近。採集地は神通川の河川敷と思われる。

生態・生息環境

年 1 化で、成虫は 8 月後半～9 月に発生する。食草はカワラヨモギで大河川の河川敷に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

河川敷は護岸工事などの土木工事、公園化で河原の原植生が失われつつある。

保全対策

河原の原植生の維持保全が重要である。

引用文献

蛾 21



標本提供：西澤 正隆（長崎県産）

（文責：富沢 章）

ムスジイトトンボ (トンボ目・イトトンボ科) *Paracercion melanotum* (Selys, 1876)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸沿いを中心に記録されており、近年記録が増加しているが、安定した産地は少ない。

形態

全長 30～39mm、腹長 21～31mm、後翅長 13～22mm。オオイトトンボ、セスジイトトンボに酷似するが、オスは尾部付属器の形状、メスは前胸後縁の中央が富士山型に凹むことなどで区別できる。

国内の分布状況

青森県から沖縄県にかけて分布するが、内陸部での記録は少なく、日本海側では富山県が分布東限となっている。

県内の分布状況

入善町、黒部市、魚津市、富山市、射水市、高岡市、氷見市の 7 市町から記録がある。

生態・生息環境

海辺の浮葉植物や沈水植物の繁茂する池沼に生息する。ある程度の水深があることが必要であり、夏期に干上がるような環境ではほとんど見られない。成虫は 5 月から 10 月に見られ、セスジイトトンボと混生することが多い。成熟オスは水面付近の草などに静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の植物に静止して行われ、産卵はおもに連結態で水面付近の植物に行われる。

生存への脅威（減少の要因）

池沼の埋め立て、水生植物の除去、外来生物による捕食圧、水質悪化および殺虫剤や除草剤の使用。

保全対策

海辺の水生植物の繁茂した池沼の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：三橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：二橋 亮）

モートンイトトンボ (トンボ目・イトトンボ科) *Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

近年全国的に減少しており、県内でも安定した産地は局限される。

形態

全長 22~32mm、腹長 17~26mm、後翅長 11~18mm。小型のイトトンボで、オスは成熟すると胸部が緑色、腹端が橙色になる。メスは未成熟なうちは全身が黄橙色であるが、成熟すると緑色に変化する。成熟メスはアジアイトトンボと類似するが、腹部第 8 節腹面に棘状突起がないことや、頭部の斑紋などで区別できる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、特に西日本では産地が激減している。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の 14 市町から記録があるが、現在の安定した生息地は限られる。

生態・生息環境

平地から丘陵地の草丈の短い抽水植物の繁茂する泥深い湿地や池沼の湿地状になった部分に生息し、しばしば放棄水田でも見られる。成虫は 5 月から 8 月に見られる。成虫は発生地周辺で見られることが多く、交尾は早朝に行われる。産卵はメスが単独で短い抽水植物に行う。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや草地化、水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

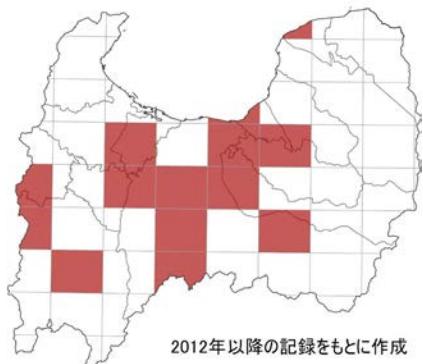
草丈の短い、水量の安定した明るい湿地の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

アオヤンマ (トンボ目・ヤンマ科) *Brachytron longistigma* (Selys, 1883)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

近年激減しており、安定した産地は非常に少ない。

形態

全長 66~79mm、腹長 44~55mm、後翅長 40~50mm。腹部第 3 節がくびれないやや大型のヤンマで、全身緑色をしている。

国内の分布状況

北海道から、宮崎県、熊本県にかけて分布するが、近年各地で減少している。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の計 13 市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地の背丈の高い抽水植物の繁茂する池沼や湿地に生息する。成虫は 4 月末から 8 月にかけて見られるが、9~10 月の記録もある。成熟オスはヨシやマコモの間を縫うように探雌飛翔を行い、交尾は水域周辺の抽水植物や樹木などに静止して行われる。メスは単独で抽水植物の茎に産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや草地化、水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

平野部の抽水植物の繁茂した池沼や湿地の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

オジロサナエ (トンボ目・サナエトンボ科) *Stylogomphus suzukii* (Oguma, 1926)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では産地が局限され、個体数も少ない。

形態

全長 41~47mm、腹長 30~34mm。後翅長 21~27mm。小型のサナエトンボで、胸部に Y 字型の黒条がある。尾部付属器は白く、オスでは牛の角状に湾曲する。

国内の分布状況

日本特産種で、岩手県、秋田県から鹿児島県にかけて分布する。北陸地方では、福井県では比較的広く分布するが、石川県では小松市周辺と能登半島の一部で記録されているのみである。

県内の分布状況

魚津市、滑川市、上市町、立山町、富山市の 5 市町で記録がある。

生態・生息環境

丘陵地の渓流に生息するが、比較的緩やかな流れを好む。成虫は 6 月から 9 月にかけて見られる。成熟オスは木漏れ日の当たるような渓流の石などに静止して縄張りをつくる。交尾は低木の葉などに静止して行われ、産卵はメスが単独で水が浸る程度の砂利の上に打水して行われる。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や砂防ダム工事、生息地周辺の森林伐採。

保全対策

生息地の渓流と周辺部の森林の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

カラカネトンボ (トンボ目・エゾトンボ科) *Cordulia amurensis* Selys, 1887

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での産地数は少なく、多産していた南砺市小瀬では湿地の草地化に伴い個体数が激減している。

形態

全長 42~54mm、腹長 28~35mm、後翅長 29~34mm。全身が鈍い金緑色をしたトンボ。本県産のエゾトンボ科中最も小型の種。

国内の分布状況

国内では北海道から福井県、岐阜県にかけて分布する。

県内の分布状況

上市町、立山町、富山市、南砺市の 4 市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

山地の池沼に生息する。成虫は周囲に樹林のある環境を好む。成虫は 5 月から 8 月にかけて見られる。成熟オスは抽水植物の繁茂する水域をホバリングしながら縄張りをつくる。交尾は水域周辺の樹木の葉の上などで静止して行われ、産卵はメスが単独で植物の繁茂する水域で打水して行われる。

生存への脅威（減少の要因）

山間部の池沼の草地化や水質悪化。

保全対策

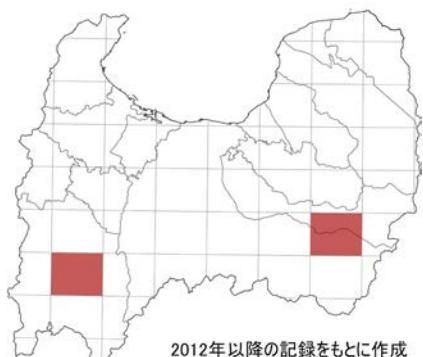
山間部の周囲に林のある水質の良い池沼の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：二橋 亮)

ムツアカネ (トンボ目・トンボ科) *Sympetrum danae* (Sulzer, 1776)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では富山市高天原周辺（北アルプス）に限って見られ、個体数も少ない。

形態

全長 26~38mm、腹長 17~24mm、後翅長 20~26mm。小形のアカトンボで、成熟するとオスは全身が黒化し、メスも黒味が増す。

国内の分布状況

北海道から富山、岐阜、長野の各県にかけて分布するが本州では産地は局所的である。

県内の分布状況

富山市の高天原周辺（北アルプス）に限って生息する。

生態・生息環境

高山の周囲に樹林のある池沼、池塘に生息する。成虫は7月から10月にかけて見られる。成熟オスは水域周辺の草や石に静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の草などに静止して行われ、産卵は正午前後におもに連結態で湿った泥に腹端を打ち付けて行う。

生存への脅威（減少の要因）

遊歩道の設置に伴う生息地の改変や水質悪化。温暖化に伴う乾燥化。

保全対策

高原の水辺環境の保全、維持。

特記事項

県内の生息地はいずれも国立公園の特別保護地区内にある。

引用文献

蜻1, 蜻7



撮影：二橋亮



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：二橋亮）

マイコアカネ (トンボ目・トンボ科) *Sympetrum kunkelii* (Selys, 1884)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では近年減少しており、安定した産地は少ない。

形態

全長 29~40mm、腹長 17~25mm、後翅長 20~28mm。小型のアカネでオスは顔面が緑白色を呈している。マユタテアカネ、ヒメアカネと酷似しているが、胸部の斑紋や尾部付属器、産卵弁の形状の違いで区別できる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、近年各地で減少傾向にある。

県内の分布状況

確実な記録があるのは入善町、黒部市、魚津市、滑川市、立山町、富山市、射水市、高岡市、小矢部市、氷見市の10市町であるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地の抽水植物の繁茂する池沼、湿地に生息する。成虫は6月から12月に見られる。成熟オスは、抽水植物の先などに静止して縄張りをつくり、交尾は水域周辺の抽水植物などに静止して行われる。産卵は連結または単独で打水して行われる。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

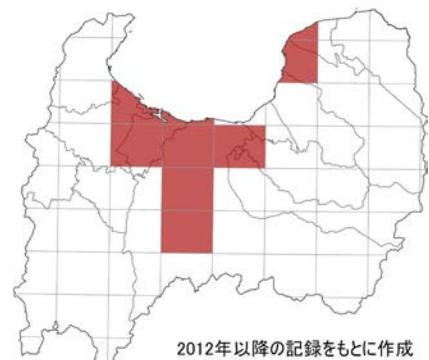
平野部の抽水植物の繁茂した池沼の保全。

引用文献

蜻1, 蜻2, 蜻3, 蜻4



撮影：二橋亮



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：二橋亮）

ウスバカマキリ (カマキリ目・カマキリ科)

Mantis religiosa Linnaeus, 1758

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

生息が大河川の河川敷や海岸の草地などに限られ、産地・個体数ともにたいへん少ない。

形態

中型のカマキリ。体色は淡緑色。前脚基部に黒色斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。全国的に減少している。

県内の分布状況

黒部市黒部川、立山町常願寺川の河川敷や富山市の海岸部等数ヶ所で記録がある。最近、常願寺川河川敷と近隣の公園で記録されたが、他の既知産地での追加の記録は無い。

生態・生息環境

明るく開けた植生のやや粗な広い草地。

生存への脅威（減少の要因）

護岸工事、河川敷の整備工事などによる広い草地の減少、環境改変。

保全対策

明るい草原環境の維持保全。

引用文献

直3, 直4, 直8



撮影：岩田 朋文

(文責：根来 尚)

ヒナカマキリ (カマキリ目・カマキリ科)

Amantis nawai (Shiraki, 1908)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息は照葉樹林林床等に限られ、産地・個体数とも少なく、日本海側分布北限（新潟県）に近い。

形態

小型のカマキリ。体色は褐色。ハネは小さく鱗片状。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

平地～丘陵地の3ヶ所（富山市大沢野町、富山市細入村、氷見市）で記録があるのみ。最近の記録が無い。

生態・生息環境

自然度の高い照葉樹林林床等に生息。飛べないので移動性に乏しい。

生存への脅威（減少の要因）

照葉樹林の開発、伐採、林床の落葉・倒木等の除去。

保全対策

照葉樹林の維持、保全。

引用文献

直1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

カワラバッタ (バッタ目・バッタ科) *Eusphingonotus japonicus* Saussure, 1888

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

大河川の中流域の河原に生息するが、全国的に減少しており、富山県内でも確認された産地は少ない。

形態

中型のバッタ。体色は灰色で河原の石に似る。後翅に黒帯その内側は青色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市黒部川、富山市常願寺川、礪波市庄川の河川敷から記録がある。最近、黒部川河口付近で確認された。他の既知産地の生息環境は安定的だが、最近の確認が無い。

生態・生息環境

河川中流域の草本類の少ない砂礫地。

生存への脅威（減少の要因）

河床の土木工事等、河床の安定化による広い砂礫地の減少。

保全対策

河川敷の自然環境の保全。

引用文献

直1, 直6



撮影：根来 尚

(文責：根来 尚)

セグロイナゴ（セグロバッタ） (バッタ目・バッタ科) *Shirakiacris shirakii* (Bolivar, 1914)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

広い草原に生息するが、県内数カ所の記録があるのみ。二カ所で最近の報告が有るが、他の産地で追加の記録が無い。

形態

中型のバッタ、前胸背面は濃褐色で両側に淡色の細い帯がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

富山市、南砺市城端町、高岡市、氷見市の平地～丘陵地の数カ所で記録がある。最近、礪波市で記録された。

生態・生息環境

広い草原。

生存への脅威（減少の要因）

草原の減少。

保全対策

草原の維持。

引用文献

直1, 直2



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

タイコウチ (カメムシ目・タイコウチ科) *Laccotrephes japonensis* Scott, 1874

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では近年あまり発見されていない。環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が暗褐色。前脚は鎌状。腹端に細長い呼吸管がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、上市町、富山市、射水市、南砺市、小矢部市、高岡市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地、河川のよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1, 半(水)8, 半(水)12, 半(水)13



標本提供：
富山市科学博物館

(文責：岩田 朋文)

ヒメミズカマキリ (カメムシ目・タイコウチ科) *Ranatra unicolor* Scott, 1874

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では近年あまり発見されていない。環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が褐色。体はきわめて細長い。前脚は鎌状。腹端に細長い呼吸管がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

富山市、射水市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1, 半(水)12



標本提供：
富山市科学博物館

(文責：岩田 朋文)

ナベブタムシ (カメムシ目・ナベブタムシ科) *Aphelocheirus vittatus* Matsumura, 1905

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

河川改修などで開発・かく乱されやすい河川内の砂地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体はきわめて扁平で円型。頭部は黄色。胸部と腹部の背面は暗褐色で、黄色の模様がある個体もいる。無翅型がほとんどだが、まれに有翅型が出現する。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市、南砺市。

生態・生息環境

水質がよい河川水路の底にたまたま砂の隙間などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内の砂地の消失。農薬や土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

半(水)2, 半(水)12, 半(水)15



撮影：岩田 朋文

(文責：岩田 朋文)

ヒメマルミズムシ (カメムシ目・マルミズムシ科) *Paraplea indistinguenda* (Matsumura, 1905)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が黄褐色。頭部は大きい。マルミズムシよりも明らかに小型。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)2, 半(水)8, 半(水)9



標本提供：富山市科学博物館

(文責：岩田 朋文)

マルミズムシ (カメムシ目・マルミズムシ科) *Paraplea japonica* (Horváth, 1904)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が黄褐色。頭部は大きい。上翅にうっすらと黒い模様がある。ヒメマルミズムシよりも明らかに大型。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)2, 半(水)12, 半(水)13

(文責：岩田 朋文)



標本提供：富山市科学博物館

ハネナシアメンボ (カメムシ目・アメンボ科) *Gerris nepalensis* Distant, 1910

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

背面は暗褐色。無翅型がほとんどだが、たまに有翅型がいる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)7, 半(水)10, 半(水)11

(文責：岩田 朋文)



標本提供：富山市科学博物館

ゴミアシナガサシガメ (カメムシ目・サシガメ科) *Myiophanes tipulina* Reuter, 1881

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

かつては身近に見られたが、近年ほとんど見られなくなった。

形態

ガガンボに似た細身で淡褐色。腹部に濃淡の斑紋が連続してある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、高岡市で記録がある。

生態・生息環境

里山の環境に生息し、家屋の内外で採集された。

生存への脅威（減少の要因）

里山的環境の消失。

保全対策

里山的環境の回復。

引用文献

半(陸)2



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 譲)

クロホシコガシラミズムシ (コウチュウ目・コガシラミズムシ科) *Haliphus basinotatus* Zimmermann, 1924

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体は短卵型。上翅には黒色の斑紋が散在する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a8, 鞘 a15



標本提供：澤田 研太

(文責：岩田 朋文)

ヒメコガシラミズムシ (コウチュウ目・コガシラミズムシ科) *Haliphus ovalis* Sharp, 1884

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体は長卵型。上翅には黒色の斑紋が散在する。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a2, 鞘 a8, 鞘 a15

(文責：岩田 朋文)

ミズスマシ (コウチュウ目・ミズスマシ科) *Gyrinus japonicus* Sharp, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県内では近年あまり発見されていない。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が光沢のある黒色。外見で同属他種との識別は困難。オス交尾器中央片はやや太く、その先端は裁断状。ヒメミズスマシより大型の場合が多い。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、上市町、富山市、砺波市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく薄暗い池や河川のよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事などによる林内の池の消失。河川改修などによる河川内によどみの消失。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

水脈にも配慮した森林や自然河川の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a9, 鞘 a15

(文責：岩田 朋文)

コオナガミズスマシ (コウチュウ目・ミズスマシ科) *Orecochilus punctipennis* Sharp, 1884

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県内では近年ほとんど発見されていない。全国で減少しているうえ、河川改修などで開発・かく乱されやすい河川内によどみに生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体は流線型。金色が黒色。全身は金色の微毛で覆われる。オナガミズスマシよりも明らか小型。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市、小矢部市。

生態・生息環境

水質がよい河川のヨシ群落の根際などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a47, 鞘 b57

（文責：岩田 朋文）

キベリクロヒメゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Ilybius apicalis* Sharp, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では近年あまり発見されていない。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。



標本提供：澤田 研太

形態

背面の大部分は黒色。前胸背板と上翅の両側は黄色に縁取られる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、砺波市、南砺市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a15, 鞘 a33, 鞘 a35, 鞘 a36

（文責：岩田 朋文）

メススジゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Acilius japonicus* Brinck, 1939

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県が分布西限であり、県内の分布範囲はもともと狭いため、砂防工事などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

前胸背板は黄色で、横筋状の黒い斑紋が2本ある。上翅は褐色。メスの上翅には顯著な縦溝がある。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、富山市、南砺市。

生態・生息環境

水質がよく魚類が生息していない山地の薄暗い池に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事などによる林内の池の消失。森林伐採やシカの増加などによる乾燥化。池への魚類の放流。

保全対策

魚類の放流制限や駆除。水脈にも配慮した森林の維持。シカやイノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a30

(文責：岩田 朋文)

キボシケシゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Allopachria flavomaculata* (Kamiya, 1938)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

河川改修などで開発・かく乱されやすい河川内によどみに生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体は球型。全身の大部分は黒色。上翅に長方形の黄色い斑紋が三対ある。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

高岡市。

生態・生息環境

水質がよい河川の川砂の隙間やヨシ群落などの根際に生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a55

(文責：岩田 朋文)

アイヌハンミョウ (コウチュウ目・オサムシ科) *Cicindela gemmata aino* Lewis, 1891

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の分布範囲はもともと狭いと推測されるうえ、河川改修などで開発・かく乱されやすい礫河原に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

背面は鈍い金属光沢のある深緑色で、うっすらと赤色を帯びる。上翅に白い斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、富山市、南砺市、高岡市。

生態・生息環境

河川上流の礫岩が多い河原に生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や植生遷移などによる礫河原の消失。車の乗り入れなどによる礫河原のかく乱。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

適度な増水などによる礫河原の維持。車の乗り入れ制限。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a1, 鞘 a53



撮影：澤田 研太

(文責：岩田 朋文)

セアカオサムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Carabus tuberculatus* Dejean, 1829

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しているうえ、開発・かく乱されやすい草地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

前胸背板は金属光沢のある赤色。上翅は黒色で、うっすらと赤色を帯びる。上翅の間室に、こぶ状の隆起がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、立山町、富山市、砺波市、高岡市。

生態・生息環境

丘陵地や山地の草原に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発や植生遷移などによる草地の消失。イノシシの掘り返しなどによる草地のかく乱。

保全対策

草刈りなどによる草地の維持。イノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a47



撮影：岩田 朋文

(文責：岩田 朋文)

オオオサムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Carabus dehaanii* Chaudoir, 1848

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県が分布北限であり、県内の分布範囲はもともと狭いため、開発などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

背面は黒色で、うっすらと紺色を帯びる。大型のオサムシ。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

丘陵地や山地の森林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事や伐採などによる森林の消失。シカの増加などによる乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

鞘 a51

(文責：岩田 朋文)

ヤコンオサムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Carabus yaconinus* Bates, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県が分布東限であり、県内の分布範囲はもともと狭いため、開発などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

背面は黒色で、うっすらと緑色を帯びる。中型のオサムシ。



標本提供：惣名 実

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

高岡市、小矢部市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の森林や河川敷に生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や伐採などによる草地や森林の消失。シカの増加による乾燥化。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

草地や森林の維持。シカの個体密度管理。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a54

(文責：岩田 朋文)

カワラゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科)

Omophron aequale Morawitz, 1863

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では近年ほとんど発見されていない。河川改修などで開発・かく乱されやすい河川敷の砂地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体は半球型。上翅は黄色で、深緑色の斑紋がある。



撮影：岩田朋文

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市、南砺市。

生態・生息環境

河川敷の砂地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や植生遷移などによる砂地の消失。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

適度な増水などによる砂地の維持。車の乗り入れ制限。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a1, 鞘 a2, 鞘 a5

(文責：岩田 朋文)

ヒトツメアオゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科)

Chlaenius deliciolus Bates, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内記録はわずか。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地や草地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

前胸背板は赤色。上翅の両側は橙色に細く縁取られる。上翅の正中線上に橙色の斑紋がある。



標本提供：惣名 実

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の河川敷、畑地、草地などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や管理放棄などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。イノシシの掘り返しこそによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。イノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a19

(文責：岩田 朋文)

クロコモンタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科) *Poecilonota variolosa chinensis* Théry, 1926

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内産地は極めて限定的で、開発の影響を受けやすい。

形態

体長 12~17mm。背面は黒~茶褐色、腹面および脚は紫銅色。腹端部はオスで大きく半月状に、メスで三角形にえぐられる。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市、射水市。

生態・生息環境

成虫は5~6月頃に出現し、ドロノキやヤマナラシに集まる。県内では丘陵地や平地のヤマナラシにつく個体が確認されている。

生存への脅威（減少の要因）

ヤマナラシ群落の消滅および減少。平地や丘陵地の開発、過度な整備、都市化が進むと本種が発生する環境は新たに生じない。

保全対策

平地や丘陵地のヤマナラシが自生する環境の保全。

特記事項

日本産の本種は、北海道と本州北部に産する東日本亜種と本州西部に産する西日本亜種の2亜種とされていたが、現在、西日本亜種は東日本亜種のジュニアシノニムとなっている。

引用文献

鞘 b48, 鞘 b57

撮影：澤田 研太



ヨコミゾドロムシ (コウチュウ目・ヒメドロムシ科) *Leptelmis gracilis* Sharp, 1888

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

全国で減少しているうえ、河川改修や流木の減少にともなう餌不足により、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が暗褐色。前胸背板の両側は中央付近でくびれる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよい河川の流木、ヨシ群落の根際、河川敷の水たまりなどに生息。

生存への脅威（減少の要因）

ダム建設や過剰除去などによる流木の減少。洪水の頻発などによる流下の増加。農薬などによる水質汚濁。

保全対策

適度な増水などによる流木供給量の維持。IPMなどによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a38



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

ケスジドロムシ (コウチュウ目・ヒメドロムシ科) *Pseudamophilus japonicus* Nomura, 1957

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

全国で減少しているうえ、河川改修や流木の減少にともなう餌不足により、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が黒色。背面は金色の微毛で覆われる。日本産ヒメドロムシ科で最大の種。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

水質がよい河川の流木やヨシ群落の根際などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

ダム建設や過剰除去などによる流木の減少。洪水の頻発などによる流下の増加。農薬などによる水質汚濁。

保全対策

適度な増水などによる流木供給量の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a37



標本提供：澤田 研太

(文責：岩田 朋文)

ヒメボタル (コウチュウ目・ホタル科) *Luciola parvula* Kiesenwetter, 1874

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は少ない。伐採や光害などで開発・かく乱されやすい森林に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

頭部と上翅は黒色。前胸背板は赤色で、中央に半円型の黒い斑紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

丘陵地や山地の森林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事などによる森林の消失。伐採やシカの増加などによる乾燥化。人工灯による光害。

保全対策

光害にも配慮した森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

鞘 a36



標本提供・撮影：野村 孝昭

(文責：岩田 朋文)

ガムシ (コウチュウ目・ガムシ科) *Hydrophilus acuminatus* Motschulsky, 1854

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体はやや細長い半球型。全身が黒色。日本産ガムシ科で最大級の種。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a9, 鞘 a15



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

アサヒナコマルガムシ (コウチュウ目・ガムシ科) *Anacaena asahinai* Satô, 1982

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は1例のみで、個体密度も低いため、砂防工事などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

体は半球型。全身が暗褐色。微小なガムシ。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水質がよく、薄暗い山林内の水たまりに生息。

生存への脅威（減少の要因）

道路建設などによる林内の水たまりの消失。森林伐採やシカの増加などによる乾燥化。イノシシの掘り返しなどによる水たまりのかく乱。

保全対策

水脈にも配慮した森林の維持。シカやイノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a39



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

マルヒラタガムシ (コウチュウ目・ガムシ科) *Enochrus subsignatus* (Harold, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内記録は1例のみ。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体は半球型。全身が赤褐色。小型のガムシ。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

詳細地点不明の1例。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPMなどによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a40

（文責：岩田 朋文）

マグソクワガタ (コウチュウ目・クワガタムシ科) *Nicagus japonicus* Nagel, 1928

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地および生息環境が限定的で、河川の改修、整備工事の影響を受けやすい。県内では複数の河川で生息が確認されているが、いずれも発生地の範囲は狭い。

形態

体長7.0～9.0mm。体形は長円形でメスはオスより幅広。体は黒褐色で、オスの背面は黄白色の微毛に覆われるため明るく見える。メスは微毛が疎らで点刻が大きい。大あごは発達しない。頭部は小さく、複眼前方部が小さく棘状に突き出す。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

朝日町、魚津市、富山市、南砺市。地域によっては河川の中・下流部にも生息するが、県内の生息地は上流部のみである。

生態・生息環境

成虫は5～6月頃、河川上流部の細かい砂が堆積した河川敷に出現する。オスは午後に発生地周辺の地上から30cmほどの高さを飛び回る。メスは石の上や草に静止していることが多く、交尾をすませると砂に潜り、砂に埋まった朽ち木に産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、ダムの建設、護岸工事、河川敷の整備等による生息河川の環境変化。河川の砂地に埋没した流木で発生するため、発生地周辺だけでなく、流木の供給源である上流部の河川環境および森林環境の変化や消失も影響する。

保全対策

生息地とその上流部の河川環境および森林環境の保全。

引用文献

鞘 b21



撮影：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

ヒメオオクワガタ基亜種 (コウチュウ目・クワガタムシ科) *Dorcus montivagus montivagus* (Lewis, 1883)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。個体数の減少が著しい。

形態

体長 22~58mm。体は黒色でつや消し状。オスの大あごは短く弧を描くように湾曲し、中央よりやや前方に、内側斜め上方を向く 1 本の大きな内歯がある。前胸背板は幅広く、側縁後方 1/3 付近に小さな歯状突起があり、それより後方は斜めに緩やかに湾入する。脚はオスメス共に長い。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、奥尻島、本州、四国。

県内の分布状況

黒部市、立山町、富山市、南砺市。

生態・生息環境

ブナ林に生息する。成虫は 6 月から出現するが 8~9 月に個体数を増す。オノエヤナギの細枝をかじり樹液を吸うほか、ミズナラやダケカンバの樹液にも集まる。ブナの大木の朽ち木に好んで産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。生息地の開発。発生木の除去や破壊。

保全対策

森林環境の保全。発生木、発生環境の破壊を避ける。

特記事項

かつては山地のオノエヤナギに多くの個体が見られたが、数十年の間に大きく個体数を減らしている。

引用文献

鞘 b21, 鞘 b23, 鞘 b33, 鞘 b34

(文責：澤田 研太)

ヒラタクワガタ本土亜種 (コウチュウ目・クワガタムシ科) *Dorcus titanus pilifer* (Snellen van Vollenhoven, 1861)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境の減少が著しい。生息域は人里や市街地と近い場所にあるため、開発による影響を受けやすい。

形態

体長 18~75mm。体は黒色で大型のオスはつや消し状だが、小型のオスやメスは光沢がある。オスの大あごは僅かに下方へ先端は内側へ強く湾曲、基部 1/3 に付近に大きな 1 本の内歯をもち、その前方に数本の鋸歯、先端に 1 本の小歯をそなえる。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州、佐渡島、隱岐、見島、伊豆諸島、淡路島、甑島列島、大隅諸島。

県内の分布状況

朝日町、滑川市、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市。

生態・生息環境

主に平野部、河川敷や丘陵地の林に生息する。成虫はヤナギ類やコナラの樹皮の隙間や幹の穴に潜み、樹液に集まる。夜間に活動する個体が多く、灯火にも飛来する。幼虫は広葉樹の倒木下面や立ち枯れの根部に多い。

生存への脅威（減少の要因）

宅地造成、河川敷の整備や公園化等生息地の開発。河川敷や平地、丘陵地の樹林伐採。倒木の除去。

保全対策

河川敷や平地、丘陵地の樹林等生息環境の保全。

特記事項

県内ではここ数十年のうちに生息環境が大きく減少しており、特に河川敷の生息環境の消滅は著しい。

引用文献

鞘 b21, 鞘 b26, 鞘 b27, 鞘 b28, 鞘 b29, 鞘 b30

(文責：澤田 研太)

オオマグソコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Aphodius (Colobopterus) quadratus* Reiche, 1850

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年の生息情報がない。生息環境が減少傾向にある。

形態

体長 8~12mm。体はやや幅広い長卵形で黒色。上翅は黒褐色~黄褐色。前胸背板は膨隆し表面に微小点刻を散布する。上翅の条溝両側は縁どられ、間室には微小点刻を散布する。

国内の分布状況

北海道、本州、佐渡、四国、九州、五島列島。

県内の分布状況

南砺市、高岡市、小矢部市。1988~1990 年ごろに採集されているがその後は記録が無い。

生態・生息環境

放牧地などの開けた環境に生息する。4~7 月頃にかけて出現し、牛やシカ等の糞に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

都市化、放牧地の減少、草原環境の消失等による生息環境の消失。

保全対策

牧場や放牧地、草原等生息環境の保全。

引用文献

鞘 b16, 鞘 b38



標本提供：惣名 実

(文責：澤田 研太)

コマグソコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Aphodius (Esymus) pusillus* (Herbst, 1789)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年の生息情報がない。生息環境が減少傾向にある。

形態

体長 2.6~4.5mm。体は黒色~黒褐色で淡褐色部をもつが変異が大きい。前胸背板は強く膨隆し大小の点刻を散布する。上翅は条刻があり、間室は微小点刻を散布する。

国内の分布状況

北海道、本州、伊豆諸島、隠岐、四国、九州、壱岐、大隅諸島。

県内の分布状況

富山市。1980~1990 年代に採集されているがその後は記録が無く、近年の調査でも確認されていない。

生態・生息環境

公園や河川敷、放牧地など開けた環境に生息し、牛、馬、シカ等の糞に集まる。犬糞や人糞にも集まる。

生存への脅威（減少の要因）

都市化、放牧地の減少、草原環境の消失等による生息環境の消失。

保全対策

牧場や放牧地、草原等生息環境の保全。

引用文献

鞘 b15, 鞘 b30



標本提供：富山市科学博物館

(文責：澤田 研太)

オオスジマグソコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Aphodius (Carinaulus) ritsukoae* Kawai, 2004

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局限されており、本州における数少ない分布域として貴重。

形態

体長 3.7～6.4mm。体は黒色で長卵形。背面は無毛。頭部には 3 つのこぶをもち、頬は突出する。前胸背板は強く膨隆しオスでは幅広い。上翅は幅広く、強く膨隆する。条溝は強く条刻され太く縁どられる。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

朝日町。

生態・生息環境

急峻な山地に生息する。成虫は春に出現し、柔らかい樹木の新芽や草本の茎や葉を食べたサル糞に集まるが発生時期は短い。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境および動物相の変化。

保全対策

生息地周辺の森林生態系、環境の包括的な保全。

特記事項

記載されて以降、分布が確認されていたのは四国の徳島県のみであったが、近年になって富山県から記録された。本州で確認されている産地は富山県東部～新潟県西部のごく限られた地域のみであり、生息地として貴重である。

引用文献

鞘 b36, 鞘 b40, 鞘 b41

(文責：澤田 研太)

ヨツボシマグソコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Aphodius (Bodilopsis) sordidus sordidus* (Fabricius, 1775)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年の生息情報がない。生息環境が減少傾向にある。

形態

体長 5.0～7.8mm。体は長く両側は平行。背面は無毛で光沢がある。頭部前半部、前胸背板側部、上翅の大部分は黄褐色で残りの部分は褐色～黒褐色。上翅の肩部付近と後方に 1 対ずつの黒斑をもつ。



標本提供：惣名 実

国内の分布状況

北海道、本州、伊豆諸島、四国、九州、対馬、屋久島。

県内の分布状況

南砺市。1990 年前後に南砺市で採集されているが、その後は記録がない。

生態・生息環境

放牧地などの開けた環境に生息する。4～11 月に出現し、新鮮な牛糞や馬糞に集まる。灯火にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

都市化、放牧地の減少、草原環境の消失等による生息環境の消失。

保全対策

牧場や放牧地、草原等生息環境の保全。

引用文献

鞘 b16, 鞘 b37

(文責：澤田 研太)

ミヤマダイコクコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Copris (Copris) pecuarius* Lewis, 1884

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限定的。県西部の個体群が近年確認できない。

形態

体長 17~24mm。体は黒色で光沢は鈍い。頭部は半円形で頭楯前縁中央は切れ込み、オスは1本の角、メスは横隆起をもつ。前胸背板の前角は丸く、中央の縦溝は明瞭。大型のオスは2対の突起が発達する。上翅の条溝はやや深い。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、高岡市。

生態・生息環境

山地の森林に生息。林内のシカやサル等の獣糞に集まる。土中にトンネル状の穴を掘り、運び込んだ糞で糞玉を作り、幼虫の餌とする。夜行性で灯火にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境および動物相の変化。

保全対策

生息地周辺の森林生態系、環境の包括的な保全。

特記事項

県内分布はオオセンチコガネと類似する。県西部では高岡市から1例のみ記録があるが、近年の調査では全く確認できない。個体群消滅の可能性も懸念される。

引用文献

鞘 b16, 鞘 b36, 鞘 b42

(文責：澤田 研太)

カドマルエンマコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Onthophagus (Strandius) lenzii* Harold, 1874

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年減少が著しく、確実な産地が少なく個体数も少ない。

形態

体長 6~12mm。体は黒色でやや光沢がある。上翅の基部、翅端部に赤褐色紋をもつことがある。頭部には2本の横隆起があり、頭楯には明瞭な横しわがある。前胸背板は強く膨隆し、背の両側部にこぶ状の突起をもつ。前角は鋭く前方に突出する。上翅条溝は細く、間室には微小点刻を散布する。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、奥尻島、本州、佐渡島、粟島、伊豆諸島、隱岐、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、大隅諸島、吐噶喇列島、奄美群島。

県内の分布状況

黒部市、立山町、砺波市、南砺市、小矢部市、高岡市。

生態・生息環境

放牧地等の開けた環境に生息する。牛、馬、シカ、人、犬等の糞に集まる。灯火にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

都市化、放牧地の減少、草原環境の消失等による生息環境の消失。

保全対策

牧場や放牧地、草原等生息環境の保全。

引用文献

鞘 b14, 鞘 b16, 鞘 b17, 鞘 b20, 鞘 b28, 鞘 b29, 鞘 b30

(文責：澤田 研太)

コセスジダルマガムシ (コウチュウ目・ダルマガムシ科) *Ochthebius satoi* Nakane, 1963

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では 2024 年に初めて記録され、これまでに 1 か所でのみ発見されている。河川改修などで開発・かく乱されやすい河川内によどみに生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が鈍い金属光沢のある黒色で、うっすらと深緑色を帯びる。上唇の前縁は凹む。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水質がよい河川の砂地や河川敷の水たまりなどに生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a31

（文責：岩田 朋文）

ヤマトモンシデムシ (コウチュウ目・ハネカクシ科) *Nicrophorus japonicus* (Harold, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しており、河川改修などで開発・かく乱されやすい河川敷に生息するうえ、動物死骸の減少にともなう餌不足により、容易に絶滅する可能性がある。

形態

上翅には橙色の大きな斑紋が二対あり、その橙色の斑紋内に点状の黒い斑紋はない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

平地の河川敷などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる草地の消失。動物死骸の過剰除去による餌不足。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

河川植生の維持。動物死骸の維持。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a1, 鞘 a6, 鞘 a14



標本提供：惣名 実

（文責：岩田 朋文）

オニヒラタシデムシ (コウチュウ目・ハネカクシ科) *Thanatophilus rugosus* (Linnaeus, 1758)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では近年、発見されていない。河川改修などで開発・かく乱されやすい河川敷に生息するうえ、動物死骸の減少とともに餌不足により、容易に絶滅する可能性がある。

形態

体は扁平。全身が黒色。上翅には縦筋状の隆起が3本ある。上翅の間室に皺がある。小型のシデムシ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、富山市、砺波市。

生態・生息環境

平地の河川敷や海浜などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

海岸開発や河川改修などによる草地の消失。動物死骸の過剰除去による餌不足。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

海浜植生や河川植生の維持。動物死骸の維持。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a6, 鞘 a9, 鞘 a11, 鞘 a14, 鞘 a17

(文責：岩田 朋文)

ニセノコギリカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Prionus sejunctus* Hayashi, 1959

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的で生息密度が低い。

形態

体長 24～46mm。体は黒褐色でオスは赤味がかる個体もみられる。前胸背板は点刻で覆われ光沢がない。触角はオスが12節でメスは11節。後脛節の上面に縦溝がない。

国内の分布状況

本州、隠岐、四国、九州、対馬、馬渡島、五島列島、種子島、屋久島、口永良部島。

県内の分布状況

朝日町、立山町。

生態・生息環境

暖地性。アカマツ、クロマツを寄生木とする。夜行性で灯火に飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

平野部の樹林の伐採。マツ枯れ等による生息環境の減少。

保全対策

主に平野部のマツ類が生育する森林環境の保全。

引用文献

鞘 b5



標本提供：澤田 研太

(文責：澤田 研太)

ケブカヒラタカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Nothorhina muricata* (Dalman, 1817)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境および生息地が限定的。生息情報が少ない。

形態

体長 6~11mm。体色は褐色から黒褐色。体は平たい。前胸背板の中央部には円形の褐色紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、佐渡、四国、九州。

県内の分布状況

滑川市、富山市、砺波市。県内においてアカマツは広く分布するが、本種の生息地は限られている。

生態・生息環境

低山帯のアカマツ、クロマツに見られる。昼間は樹皮下に潜んでいることが多い。

生存への脅威（減少の要因）

寄生木であるアカマツの消失。マツ枯れ等による生息環境の減少。

保全対策

寄生木および周辺環境の保全。

引用文献

鞘 b1, 鞘 b57



標本提供：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

キベリカタビロハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Pachyta erebia* Bates, 1884

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境および分布域が限定的。個体数が少ない。日本海側の産地として貴重。

形態

体長 13~27mm。体は黒色で厚みがある。前胸背板中央側方は突出する。上翅は肩部が幅広く、側縁部中央付近から翅端近くまで縁どられるように黄色部をもつが、この黄色部の範囲や形には様々な個体変異、地域変異がある。脚は長い。

国内の分布状況

北海道、千島列島、本州。

県内の分布状況

立山町、富山市。

生態・生息環境

亜高山帯針葉樹林に生息する。寄主植物はオオシラビソ、コメツガ、トウヒ、カラマツ等の針葉樹。盛夏にノリウツギの花に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。立ち枯れの除去。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b61



撮影：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

クビアカハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Gaurotes (Carilia) atripennis* Matsushita, 1933

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境および分布域が極めて限られる。産地における個体数も少ない。

形態

体長 7~11mm。前胸背板は赤色。上翅は光沢を備えた赤銅色、紫色、青色、青緑色などで、個体変異と地域変異が多い。

国内の分布状況

本州、佐渡、淡路島、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、富山市、南砺市。

生態・生息環境

アカマツやゴヨウマツなどマツ類に寄生し、マツ類の倒木や各種の花に集まる。県内では山地帯のゴヨウマツの花や枯れ枝から採集されている。

生存への脅威（減少の要因）

ゴヨウマツが生育する森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

特記事項

本種の体色は地域によって傾向がみられ、現在は東日本型と西日本型の2型に大別されている。県内では朝日町産個体が東日本型、南砺市および富山市産個体は西日本型の特徴を備えている。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b4, 鞘 b31



標本提供：澤田 研太

(文責：澤田 研太)

クロホソコバネカミキリ本州亞種 (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Necydalis (Necydalisca) harmandi harmandi* Pic, 1901

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が極めて少ない。生息環境が限定的。

形態

体長 10~21mm。体は黒色部が多く、艶消し状。オスは上翅が黄褐色で側縁から翅端部にかけては黒化する。触角は長く、腹部末端にほぼ達する。メスは上翅がほぼ黒色だが、小さな黄褐色部をもつ個体もみられる。体は幅広く、触角は短い。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市南部の1地点からのみ記録がある。

生態・生息環境

山地帯上部～亜高山帯の針広混交林に生息。カンバ類、ブナなど各種広葉樹の立ち枯れに飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の消失。森林環境の変化。

保全対策

発生木および生息地付近の森林環境の保全。

引用文献

鞘 b5



標本提供：澤田 研太

(文責：澤田 研太)

コトラカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Plagionotus pulcher* (Blessig, 1872)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地が限られ、生息密度も低い。全国的にも産地は局所的。

形態

体長 12~19mm。体はやや幅広い。前胸背板の前縁直後と中央部には黄色の帯がある。上翅の基部は黒く縁どられ、その後方には褐色帯がある。褐色帯の後方には 4 本の黄色帯がある。触角は太くやや長く、オスでは翅端部の紋に達する。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

低山帯～山地帯に生息する。クヌギ、コナラ、ミズナラなどブナ科コナラ属を主な寄生植物とする。成虫は 6~8 月に出現し、コナラやミズナラの伐採木、倒木に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化、観光開発など。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2

（文責：澤田 研太）

アカジマトラカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Akajimatora bellus* (Matsumura & Matsushita, 1933)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限定的で生息密度も低い。

形態

体長 12~20mm。体は黒色で、頭部と前胸背板は赤色微毛で覆われる。前胸背板には 1 対の黒円紋をもつ。上翅には 4 本ずつの赤色帯、黒色帯があり、翅端の外角は鋭く尖る。触角は黒色で 4~8 節の基部は白いまだら状。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

成虫は晩夏～秋に出現し、山地帯にあるケヤキの枯死部に産卵する。イタドリやウドの花にも集まる。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の消失。森林環境の変化。

保全対策

ケヤキの大木、老木が生育する森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2

（文責：澤田 研太）

ナカバヤシモモブトカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Leiopus guttatus* Bates, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息地および生息環境が限定的。

形態

体長 5~9mm。体は赤褐色で全体に灰色の微毛がある。上翅には不規則な黒色紋と中央後方に黒色の帯をもつ。触角は長く、メスでも体長の 2 倍を超える。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島。

県内の分布状況

朝日町の 1 地点からのみ記録がある。

生態・生息環境

マツ類に寄生する。県内では山地帯のゴヨウマツの枯れ枝から採集されている。

生存への脅威（減少の要因）

ゴヨウマツの消失。森林環境の変化。

保全対策

ゴヨウマツが生育する森林環境の保全。

引用文献

鞘 b5

(文責：澤田 研太)

ネクイハムシ (コウチュウ目・ハムシ科) *Donacia lenzi* Schönfeldt, 1888

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録はわずか。県内ではもともと個体密度が低いと推測されるうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が金属光沢のある紫色で、うっすらと緑色を帯びる。触角の第 3 節は第 2 節とほぼ同じ長さ。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよい平地や丘陵地の池や湿地に生息し、ジュンザイとヒツジグサによく集まる。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a48, 鞘 b57

(文責：岩田 朋文)

フジジガバチ (ハチ目・アナバチ科) *Ammophila atripes japonica* Kohl, 1906

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

産地・個体数ともに少なく、近年記録がない。

形態

大型のジガバチ。体は黒色で腹柄節は赤褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。各地とも少なく、減少している種。

県内の分布状況

立山町と富山市大山町の山地での記録はあるが、最近の記録はない。

生態・生息環境

裸地に坑道を掘り、ヤガ類の幼虫を狩る。

生存への脅威（減少の要因）

低山から山地の土地造成、草原開発等による営巣地の減少。

保全対策

森林周辺部の草原、裸地の維持・保全。

引用文献

膜 1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

ニッポンハナダカバチ (ハチ目・ハナダカバチ科) *Bembix niponica* F. Smith, 1873

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

海浜、河原の堆積砂丘の乾燥した砂地に生息するが、生息環境の改変などで減少したと考えられ、産地・個体数とも少ない。

形態

中型のカリバチ。上唇が細く三角状に前方に突出する、腹部に黄白色の斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。ほぼ全国的に減少している。

県内の分布状況

富山市、氷見市の海岸や黒部川、常願寺川の中流部の数ヶ所で記録があるが、最近の記録は少ない。

生態・生息環境

海岸、河川敷の良質な砂地に営巣する。獲物はハエ、アブ類。好繁殖地では集団で営巣することがある。

生存への脅威（減少の要因）

砂浜や河川敷の砂地の環境改変、減少。

保全対策

広い良好な砂地の維持・保全。

引用文献

膜 1



標本提供：
富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

キアシハナダカバチモドキ (ハチ目・ハナダカバチ科) *Stizus pulcherrimus* (F. Smith, 1856)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

海岸や河川下流域に生息するが、県内では1ヶ所のみで記録があるが、近年の生息状況は不明。

形態

中型のカリバチ。体は黒色、黄色の斑紋があり、脚が赤褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。各地とも産地は散発的で大変少ない。

県内の分布状況

高岡市で1ヶ所の記録があるのみ。近年の記録はない。

生態・生息環境

海岸や河川の砂質の裸地に坑を掘り営巣する。バッタ類等を狩る。

生存への脅威（減少の要因）

砂浜や河川敷の砂地の環境変化、減少。

保全対策

広い良好な砂地の維持・保全。

引用文献

膜1

(文責：根来 尚)

ニトベギングチ（バチ） (ハチ目・ギングチバチ科) *Spadicocrabro nitobei* (Matsumura, 1912)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

朽ち木に営巣するが、産地・個体数ともに少なく、近年記録がない。

形態

日本産ギングチバチ類中最大の種。

国内の分布状況

本州中北部。

県内の分布状況

朝日町と富山市の低山地の2ヶ所で記録されているにすぎず、最近の記録がない。

生態・生息環境

雑木林の朽木の虫孔に営巣し、ヤガ類の成虫を狩る。

生存への脅威（減少の要因）

樹林の伐採や開発・整備。営巣可能な立ち枯れ木や倒木の減少。

保全対策

樹林の環境保全。

引用文献

膜1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

アカオビケラトリバチ (ハチ目・ギングチバチ科) *Larra amplipennis* (F. Smith, 1873)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

海岸の砂浜や湿地の草原に生息するが、確認された産地は 1 カ所のみである。分布の北限と思われる。

形態

体色は黒で、腹部の第 1~3 環節に赤色の帯がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

氷見市島尾で記録が有るのみ。

生態・生息環境

海岸の砂浜や河川、湿地の草原に営巣。ケラを狩り幼虫の餌とする。

生存への脅威（減少の要因）

海岸の砂浜や河川、湿地等の環境変化。

保全対策

海岸の砂浜や河川、湿地等の自然環境の保全。

引用文献

膜 1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

ギンイチモンジセセリ (チョウ目・セセリチョウ科) *Leptalina unicolor* (Bremer et Grey, 1852)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、生息密度が低く希少である。

形態

前翅長 15~17mm の小型の暗褐色のセセリチョウ。後翅裏面の白色帯が、草むらの中で銀白色の一文字に映える。

国内の分布状況

北海道から九州まで全国的に分布するが、どこでも、局地的。

県内の分布状況

魚津市、滑川市の平地～低山地、富山市（大山町）有峰。

生態・生息環境

林縁の草地、河川堤防や路傍の草地を生息地とする。イネ科植物を食草とし、年 1~2 回発生。

生存への脅威（減少の要因）

平地の草地は野焼き、刈り取り、除草剤散布などで失われ、山地の草地は遷移が進み失われつつある。

保全対策

山地の草地は、開発・植林事業などによって失われないように配慮する。

特記事項

魚津市、滑川市の産地では 1970 年以後、また、大山町有峰では 1986 年以後、記録がない。飛翔力が弱く目立たないので、未記録の産地が他にある可能性もあり、さらなる調査が必要である。

引用文献

蝶 25, 蝶 26



標本提供：富山市科学博物館

(文責：澤田 昭芳)

ミヤマモンキチョウ北アルプス亜種 (チョウ目・シロチョウ科) *Colias palaeno sugitanii* Esaki, 1929

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

立山弥陀ヶ原を代表する高山蝶であるが、減少傾向が顕著である。

形態

前翅長 23~26mm で翅の地色はオスが黄色、メスは白色である。

国内の分布状況

本州、飛騨山脈の高地および浅間山に生息する。

県内の分布状況

弥陀ヶ原、大日平、薬師岳・太郎兵衛平、高天原などでは高層湿原に生息し、赤牛岳、長野県境山岳地帯では稜線部が生息地となる。

生態・生息環境

メスはクロマメノキの葉表に 1 個ずつ産卵し幼虫で越冬する。成虫の発生は生息地の標高に関わり、7月上旬から 8 月にかけて見られる。生息地は高層湿原では 2,000m 前後の草原であるが、2,700m 付近では稜線の草付きである。

生存への脅威（減少の要因）

高層湿原の乾燥化。

保全対策

登山道外への踏み込み禁止の徹底。

特記事項

生息地はすべて国立公園内にあり、一部を除いて特別保護地区内にある。

引用文献

蝶 12, 蝶 15, 蝶 17, 蝶 25, 蝶 26, 蝶 29, 蝶 32

(文責：澤田 昭芳)



撮影：澤田 昭芳



2012年以降の記録をもとに作成

ゴマシジミ中部高地帯亜種 (チョウ目・シジミチョウ科) *Phengaris teleius hosonoi* (A. Takahashi, 1973)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県内の生息地はいずれも局限的かつ局地的である。また、本種は全国各地の生息地で斑紋に微妙な差異があるため、一部の愛好家による過度のコレクションの対象となっており、採集圧によって消滅したと考えられる生息地もある。

形態

前翅長 21~23mm。翅長、翅表の青色紋、翅裏の色には全国的に変化が多く、数種類の亜種名が付けられている。県内では中部山岳周辺部と県西部の山地に生息地があるが、変異の詳しい検討はされていない。

国内の分布状況

北海道・本州・九州に分布しているが、生息地は分散的でそれらの間には分布の空白地がある。それぞれの生息地は他の生息地から隔離されているため、形態に差異が生じている。

県内の分布状況

県東部から南西部の主に山地（標高 1,200m~2,000m）に分散的に生息地がある。いずれの産地も局地的で、生息数は少ない。

生態・生息環境

成虫はカライトソウやワレモコウなどの花穂に一個ずつ産卵し、終齢までこれらの花芯を食べて育つ。その後、アリ（クシケアリ属の一種）の巣に入り幼虫を食べて育つ。翌年、蛹になって、7月頃成虫になる。県内の生息地は分散的で、いずれも山地の緩斜面の食草のある草付きである。

生存への脅威（減少の要因）

本種は観光開発や道路建設などの環境破壊により生息地の消滅した地域はないが、著名な産地であった大山町の祐延湖畔の生息地では、現在全く見られない。環境変化はほとんど見られないので、採集圧による消滅と考えられている。

保全対策

いずれの生息地も国立公園内や、県立自然公園内にある。保全への十分な啓蒙が必要。

引用文献

蝶 6, 蝶 25, 蝶 26, 蝶 30



標本提供：澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：澤田 昭芳)

オオゴマシジミ (チョウ目・シジミチョウ科) *Phengaris arionides takamukui* (Matsumura, 1919)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、生息密度が低く希少である。また、個体数の減少が著しい。日本における分布西限に近い。

形態

前翅長 22mm 前後のやや大型のシジミチョウ。翅表は鈍い青色で縁が褐色である。表裏共に暗褐色の班紋をもつ。

国内の分布状況

北海道と本州に産する。どこでも局地的で少ない。富山県～岐阜県の産地が分布西限である。

県内の分布状況

黒部川流域、早月川上流、常願寺川流域などの山地に限られる。概ね標高 1,000～1,500m の地域。

生態・生息環境

食草のカメバヒキオコシやクロバナヒキオコシ（シソ科）が自生する溪畔の落葉広葉樹林内の開けた草地や林縁を生息地とする。年1回の発生で、7月下旬から8月に見られる。幼虫時代の前半は植物食（食草の蕾や花穂）、後半はアリ（シワクシケアリ）の巣中に運ばれて、アリの幼虫を食べて育つ。

生存への脅威（減少の要因）

観光地に近い生息地周辺での草むらの刈り取りや整地による生息環境の変化、植生の遷移に伴う林縁草地の減少や生息地の植生の変化。

保全対策

黒部峡谷、称名峡、有峰などでは観光地に隣接する草地が主要な産地で、その整備には細心の注意が必要である。

引用文献

蝶3, 蝶15, 蝶19, 蝶25, 蝶26

撮影：澤田 昭芳



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：澤田 昭芳）

アサマシジミ本州高地亞種 (チョウ目・シジミチョウ科) *Plebejus subsolanus yarigadakeanus* (Matsumura, 1929)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生息地は分散し、かつ、狭い範囲に限られ、生息数も少ない。近年、生息地、個体数ともに減少している。

形態

前翅長 16～18mm。オスの翅表は白味を帯びた明るい青色、メスは茶褐色。産地ごとに翅表の色調に変化がある。

国内の分布状況

北海道、本州の中部地方および関東地方の一部に分布するが、発生地は局地的で個体数はいずれの産地でも少ない。

県内の分布状況

北アルプスの山麓地および県西部の石川県との県境山地に生息地があり、亜高山帯にまで及ぶ。いずれの発生地も局地的で個体数も少ない。

生態・生息環境

生息地は、主に山地の沢沿い斜面、川原、崖地などの不安定な環境にある。食草はマメ科のイワオウギ、タイツリオウギなど。メスは食草付近に産卵し、卵で越冬する。翌年孵化し、幼虫は体表から出す蜜状のものをアリに提供し、守られて育ち、成虫は7～8月に発生する。

生存への脅威（減少の要因）

採集圧による個体数の減少。また、砂防ダム建設などに伴う工事によって生息環境が破壊され、さらに、環境が安定化すると、植生が遷移し食草が減少する。これらの要因が度重なり生息地が消滅している所がある。

保全対策

昆虫採集に際してのモラルの向上をPRする必要がある。

特記事項

産地の多くは国立公園内、または、県立自然公園内にある。

引用文献

蝶7, 蝶25, 蝶26, 蝶29



撮影：水野透

（文責：澤田 昭芳）

選定理由

標高 2,500m 以上の高山帯のみを生息地とする種であり、本州の唯一の純粋な高山蝶として貴重である。

形態

前翅長 22~26mm の中型のジャノメチョウ。メスはオスよりやや大きい。全体が茶褐色の地味な種である。裏面は岩肌と同じような模様をもち、止まる時、羽を横に倒す習性を有し、保護色となっている。

国内の分布状況

飛驥山脈および八ヶ岳の標高 2,500m 以上の山岳地帯を生息地とし、北限は後立山連峰の雪倉岳である。

県内の分布状況

薬師岳の稜線では北薬師岳が北限である。その他、赤牛岳や長野、岐阜県の県境の山岳地帯から南沢岳まで生息地がある。しかし、南沢岳と鹿島槍ヶ岳までの間には分布の空白地がある。そこから北方に断続的に生息地があり、雪倉岳が本種の分布北限である。立山や剣岳周辺には本種が生息できると思われる環境が存在するが、生息していない。

生態・生息環境

イワスゲ、ヒメスゲなどのカヤツリグサ科を食草としている。幼虫は 2~3 歳で石の下などで越冬し、翌年、晚秋までに終齢となり、2 度目の越冬をする。3 年目に蛹になり、7 月頃成虫になる。山稜のタカネスマレなどが咲く風衝地の砂礫地帯が発生地である。斜面の向きや傾斜など種々の要因により、生息地は虫食い状に見られる。

生存への脅威（減少の要因）

稜線の登山道沿いに生息地が多く、生息地への登山者の踏み込み、ケルンの石積みが生息環境の悪化要因となっている。さらに近年では、温暖化による生息環境への悪影響が懸念されている。

保全対策

特別保護地区は厳しく環境保護が実施されていることになっているが、登山道も含めて、環境改変には細心の注意が必要である。

特記事項

県内における生息地は、すべて国立公園の特別保護地区内にある。

引用文献

蝶 15, 蝶 25, 蝶 26, 蝶 28



撮影：澤田 昭芳

オオヒカゲ (チョウ目・タテハチョウ科) *Ninguta schrenckii* (Ménétrier, 1858)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

食草のカサスグ、テキリスグの分布に依存して、県下では産地が限定される。

形態

前翅長 40~45mm。本邦産ジャノメチョウ亜科の中で最大クラスの蝶。メス、オスによる班紋の違いはほとんど無いが、オスの後翅表基部付近に白色の長毛があり、メスには無い。

国内の分布状況

北海道、本州に分布。産地はどこでも局地的である。

県内の分布状況

八尾町での古い記録を除けば、県西部の小矢部川左岸に位置する平地～低山地の高岡市、氷見市に限られる。高岡市内の生息地は減少しているが、氷見市では最近放棄田などの草(くさ)藪(やぶ)で観察されており、今後の環境変化に伴う本種の動向が注目される。

生態・生息環境

食草はカヤツリグサ科のカサスグ、テキリスグなど。平地～山地にかけての湿性草原や農地周辺のやや湿った場所に生息し、成虫は6月下旬～8月に発生する。薄暗い樹林内や林縁部を緩やかに飛翔し、早朝や夕方には開けた場所にも現れ、湿地や水田の上を活発に飛翔する。コナラ、クヌギ、ヤナギ類の樹液を好んで吸う。

生存への脅威（減少の要因）

生息地が水田の周辺や休耕田・放棄田など人里の中にあり、極めて不安定な環境の下にある。そのため、里山森林整備や過疎対策の諸事業で容易に生息地が破壊される。

保全対策

現在は、過疎化・農業離れの進行などがオオヒカゲにとって、むしろ良好な環境を増やしているように見受けられるが、このような状態がこれからも続いている保障は全くない。生息環境の変化を継続的に注意深く見ていく必要がある。

特記事項

小矢部川下流の左岸一帯は、かつて、手工業のスゲ笠作りが盛んだった地域である。

引用文献

蝶 25, 蝶 26

(文責：澤田 昭芳)



撮影：澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成

ハスオビカバエダシャク (チョウ目・シャクガ科) *Pseudaspilates obliquizona* (Inoue, 1953)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が本州中部山地に限られ、個体数も少ない。

形態

開張 21~30mm。前翅は翅頂から後縁にかけて白色に縁取られた弓状の褐色帯がある。

国内の分布状況

本州中部地方。

県内の分布状況

立山町：弥陀ヶ原。立山弥陀ヶ原でのみ記録がある。

生態・生息環境

成虫は7~10月に発生。主に亜高山帯に生息。食樹は不明。

生存への脅威（減少の要因）

観光客の増加に伴い生息環境が悪化する可能性がある。

保全対策

生息地には特別保護地区も含まれるが観光地であるので生息環境の保全が必要。

引用文献

蛾 13, 蛾 20

標本提供：山中 浩



(文責：川端 一旗)

オオシモフリスズメ (チョウ目・スズメガ科)

Langia zenzeroides nawai Rothschild & Jordan, 1903

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

日本海側の記録地の北限（新潟県）に近く、近年個体数が減少傾向にある。

形態

開張 140~160mm。日本最大のスズメガ。前翅は翅頂が尖り、外縁部は鋸歯状を呈する。

国内の分布状況

本州中部地方以西、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

朝日町：笛川；南保；湯ノ瀬、黒部市：宇奈月；柄屋、富山市：大山町小見；呉羽山；小杉；寺家；城山；寺町；婦中町長沢；舟倉；舟新；三熊、高岡市：頭川。

生態・生息環境

年1化で成虫は4~5月に発生。平地~山地に生息する。食樹はサクラ類、ウメ、モモなど。

生存への脅威（減少の要因）

里山の開発による環境の改変。今後はソメイヨシノの老衰化の影響も懸念される。

保全対策

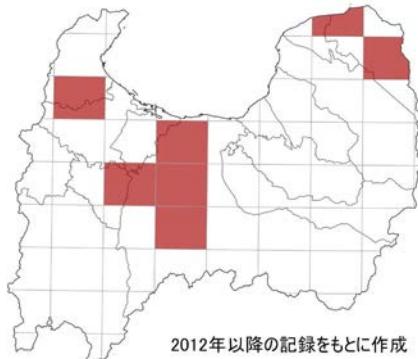
里山環境の保全。

引用文献

蛾7, 蛾21, 蛾32



標本提供：川端 一旗



（文責：川端 一旗）

フシキキシタバ (チョウ目・ヤガ科)

Catocala separans Leech, [1889]

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に産地が局地的で個体数が少ない。近年県内では有峰以外から発見されていない。

形態

開張 50~60mm 程度。前翅の斑紋はやや不明瞭。後翅は濃黄色で細めの黒帯がある。腹部は黄色い。

国内の分布状況

本州、四国、対馬。

県内の分布状況

富山市：有峰、高岡市：伏木。

生態・生息環境

年1化。成虫は6~8月に発生。食樹はクヌギやアベマキなどが知られるが、有峰ではミズナラと推定されている。

生存への脅威（減少の要因）

生息地である有峰は工事による開発や観光地化が続いている、生息環境の破壊が懸念される。

保全対策

生息地の環境改変は最小限に抑えるべきである。

特記事項

和名は Leech が本種を記載した際の採集地の一つ、高岡市伏木にちなむ。

引用文献

蛾2, 蛾22, 蛾28



標本提供：澤田 研太



（文責：川端 一旗）

ホッキョクモンヤガ (チョウ目・ヤガ科) *Agrotis ruta* (Eversmann, 1851)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

高山帯での分布範囲は狭く、個体数が少ない。

形態

開張 40~45mm。翅の地色は灰褐色で、前翅には複雑で目立つ斑紋がある。

国内の分布状況

北海道および本州の高山帯。

県内の分布状況

朝日町：朝日岳；雪倉岳；白馬岳、黒部市：唐松山荘、立山町：立山雷電；室堂；淨土山。

生態・生息環境

生息地は標高 2,500m 以上の高山帯で成虫は 8 月に発生する。高山性昆虫の中で最も高標高地に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

室堂周辺は開発が進み生息環境が改変されている。また、温暖化が進行すれば絶滅する可能性がある。

保全対策

生息地は特別保護地区に属するので大きな問題はないが、開発や登山客の増加に留意する必要がある。

引用文献

蛾 10, 蛾 23



撮影：根来 尚



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：富沢 章)

ニホンカワトンボ (トンボ目・カワトンボ科) *Mnais costalis* Selys, 1869

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

平地から丘陵地の清流に生息するが、河川改修の影響などで近年減少している。

形態

全長 47~68mm、腹長 35~54mm、後翅長 31~43mm。北陸地方では、オスは一般に翅が橙色を呈し、メスは無色透明の翅をもつタイプと淡橙色の翅をもつタイプが見られる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、山梨県、高知県、長崎県には分布していない。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の計 13 市町から記録がある。

生態・生息環境

平地から丘陵地の抽水植物や沈水植物の繁茂する清流に生息する。成虫はおもに 4 月から 7 月にかけて見られるが、上市町では 12 月初旬まで連続的に記録されている。成熟オスは流畔の草や石に静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の植物などに静止して行われ、メスは単独で水面付近の植物組織内に産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や水生植物の除去、水質悪化および殺虫剤や除草剤の使用。

保全対策

水生植物の繁茂した河川環境の保全、維持。

特記事項

核 DNA の解析に基づき、2004 年に分類が見直された。従来、「オオカワトンボ」の和名でよばれていた。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之

(文責：二橋 亮)

セスジイトンボ (トンボ目・イトトンボ科) *Paracercion hieroglyphicum* (Brauer, 1865)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

平野部を中心に生息するが、県内では産地、個体数ともに減少している。

形態

全長 27~37mm、腹長 21~29mm、後翅長 13~22mm。オオイトトンボ、ムスジイトトンボに酷似するが、オスは尾部付属器の形状、メスは胸部の斑紋や前胸後縁が凹まないことなどで区別できる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、近年各地で減少している。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、上市町、立山町、舟橋村、富山市、射水市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の 12 市町から記録がある。

生態・生息環境

平地から丘陵地の、浮葉植物や沈水植物の繁茂する池沼や、流れの緩やかな河川中～下流域、用水路に生息する。成虫は 4 月から 11 月に見られ、ムスジイトトンボと混生することも多い。成熟オスは水面付近の草などに静止して縛張りをつくる。交尾は水域周辺の植物に静止して行われ、産卵はおもに連結態で水面付近の植物に行われる。

生存への脅威（減少の要因）

池沼の埋め立てや河川改修、水生植物の除去、外来生物による捕食圧、水質悪化および殺虫剤や除草剤の使用。

保全対策

水生植物の繁茂した池沼や河川環境の保全、維持。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4

撮影：二橋 弘之

(文責：二橋 亮)

ムカシトンボ (トンボ目・ムカシトンボ科) *Epiophlebia superstes* (Selys, 1889)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では山間部を中心に生息するが、個体密度は低く、河川改修や林道建設に伴い、見られなくなった産地もある。

形態

全長 45~56mm、腹長 35~44mm、後翅長 26~32mm。黄色と黒の縞模様を持つ中形のトンボで、サナエトンボのような体形とアオイトトンボのような翅を持つ。雌雄で体色や模様に大きな差はなく、複眼は銀白色～灰褐色。

国内の分布状況

日本特産種で北海道から鹿児島県にかけて生息するが、千葉県には分布しない。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、立山町、上市町、富山市、南砺市、氷見市の計 9 市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

丘陵地から山地にかけての林に囲まれた渓流に生息し、生息地の背後にはまとまった山塊が必要である。成虫は 4 月から 6 月にかけて見られる。成熟オスは流れに沿って探雌飛翔を行い、静止するときは翅を半開きにした後に、翅を閉じて腹部の片側に寄せる。交尾は水域周辺の樹木に静止して行われ、産卵はメスが単独でウワバミソウやフキ、ワサビ、ジャゴケなどに行う。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や砂防ダム工事、生息地周辺の森林伐採。

保全対策

生息地の渓流と周辺部の森林の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之

(文責：二橋 亮)

マルタンヤンマ (トンボ目・ヤンマ科) *Anaciaeschna martini* (Selys, 1897)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では丘陵地の湿地で一時的に発生する例が多く、安定した産地は少ない。

形態

全長 65~84mm、腹長 43~63mm、後翅長 41~50mm。成虫は褐色味の強いヤンマ。未成熟個体は黄色い斑紋を持つが、成熟すると体斑がオスはコバルトブルー、メスは緑色に変化する。



撮影：二橋 亮

国内の分布状況

岩手県から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の 14 市町から記録がある。

生態・生息環境

平地から丘陵地の抽水植物の繁茂する池沼や湿地に生息する。成虫は 6 月から 10 月にかけて見られる。成熟オスは、林縁を飛んでメスを探すほか、薄暮時に谷あいの上空や抽水植物の茂る池面を直線的に高速で飛翔し、ホバリングを交えた探雌飛翔も観察される。黄昏活動性が強いが、秋には日中も活動する。交尾の観察例は少ない。メスは単独で抽水植物の茎に産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや草地化、水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、生息地周辺林の伐採。

保全対策

周辺林を伴う抽水植物の繁茂した池沼や湿地の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4

(文責：二橋 亮)

オナガサナウ (トンボ目・サナエトンボ科) *Melligomphus viridicostus* (Oguma, 1926)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では 1959 年から長らく記録が途絶えていたが、2016 年に再発見された。新産地の発見が相次いでいるが、多産地は少ない。

形態

全長 55~66mm、腹長 38~46mm、後翅長 31~38mm。中型のサナエトンボで、オスは腹端がふくらみ、尾部付属器は長く先端が曲がっている。メスの尾毛は白い。



撮影：三橋 弘之

国内の分布状況

日本特産種で青森県から鹿児島県にかけて分布する。富山県、石川県では長らく記録が途絶えていたが、近年新産地の発見が相次いでいる。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、富山市、南砺市の 9 市町で記録がある。

生態・生息環境

丘陵地の河川上～中流域にかけて生息する。成虫は 6 月から 10 月にかけて見られる。成熟オスは流畔の石などに静止して縄張をつくり、交尾は水域から離れた高い樹木の葉上で静止して行われる。産卵はメスが単独で卵塊を作った後、流れの上でホバリングしたまま放卵して行われるが、敏捷に飛翔しながら水面に打水することもある。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、生息地周辺の森林伐採。

保全対策

生息地の渓流と周辺部の森林の保全。

引用文献

蜻 2, 蜻 3, 蜻 4, 蜻 6

(文責：二橋 亮)

ミヤマサナエ (トンボ目・サナエトンボ科) *Anisogomphus maacki* (Selys, 1872)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

平地から丘陵地にかけての河川の中～下流域に生息するが、県内では安定した産地が少ない。かつて多産した小矢部川中流域では、個体数が減少している。

形態

全長 50～59mm、腹長 36～43mm、後翅長 29～36mm。細身の中形のサナエトンボで、腹部第 7～9 節が著しく膨らむ。

国内の分布状況

青森県から鹿児島県にかけて分布する。



撮影：三橋 弘之

県内の分布状況

黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、舟橋村、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市の計 12 市町村で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地にかけての河川の中～下流域に生息する。未成熟成虫は大きな分散性を持ち、高い山の尾根筋などで見つかることが多い。成虫は 5 月から 10 月にかけて見られ、4 月の羽化記録もある。成熟オスは、流畔の石などに静止して縄張りをつくる。交尾は樹葉の上に静止して行われ、産卵はメスが単独で岸辺の草などに静止して卵塊を作った後、数回打水を繰り返して行う。はっきりした卵塊を作らずに飛翔したまま打水を繰り返して行うこともある。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修や水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用。

保全対策

河川中流域の汚染が少なく、自然度の高い環境の保全、維持。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4

(文責：二橋 亮)

トラフトンボ (トンボ目・エゾトンボ科) *Epitheca marginata* (Selys, 1883)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

平地から丘陵地にかけての池沼に生息するが、安定した産地は少ない。

形態

全長 50～58mm、腹長 33～39mm、後翅長 33～39mm。黒色と黄褐色の虎斑模様をした中型のトンボで、メスは翅の前縁にそって黒褐色のバンドが現れる。



撮影：三橋 弘之

国内の分布状況

青森県から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の 9 市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地の水生植物の豊富な池に生息する。成虫は 4 月から 6 月にかけて見られる。成熟オスはホバリングを交えながら水面を縄張り飛翔する。交尾は水域からやや離れた樹木の枝などに静止して行われ、交尾態のまま水域に飛来し、浮遊物のある周辺で交尾を解く。産卵はメスが単独で水辺の植物に静止して卵塊を作ったのち、水面をひっかくように打水して行う。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧、生息地周辺林の伐採。

保全対策

平野部～丘陵地の水生植物の豊富な池沼および周辺林の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4

(文責：二橋 亮)

チョウトンボ (トンボ目・トンボ科) *Rhyothemis fuliginosa* Selys, 1883

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

平地から丘陵地かけての池沼に生息するが、安定した産地は少ない。

形態

全長 31~42mm、腹長 19~26mm、後翅長 31~39mm。全身黒色のトンボで、大部分が黒い幅広い翅をもち、オスは青紫色、メスは緑色もしくは青紫色に輝く。

国内の分布状況

青森県から鹿児島県にかけて分布し、北海道でも飛来記録がある。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の 14 市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地にかけての抽水植物や浮葉植物の繁茂する池沼に生息する。成虫は 5 月から 10 月にかけて見られる。成熟オスは水面を活発に飛翔して縄張りを作るが、水辺の抽水植物に静止する個体もよく観察される。交尾は終始飛翔して行うものもいるが、水域周辺の抽水植物に短時間静止することが多い。産卵はメスが単独で打水して行い、しばしばオスの警護飛翔を伴う。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

水生植物の豊富な池沼の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 亮

(文責：二橋 亮)

ミヤマアカネ (トンボ目・トンボ科) *Sympetrum pedemontanum* (Müller in Allioni, 1766)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては県下全域で普通に見られたが、多くの地域で減少しており、県西部では現存産地が少ない。

形態

全長 30~41mm、腹長 19~28mm、後翅長 23~32mm。翅の縁紋付近に褐色のバンドがあるアカネ。未成熟個体は翅脈が橙色に輝く。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、舟橋村、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市の計 14 市町村で記録があるが、県西部では現存産地が少ない。

生態・生息環境

平地から山地にかけての水田や緩やかな流れに生息し、大河の河川敷でも見られる。成虫は 6 月から 12 月にかけて見られる。成熟オスは水辺の抽水植物などに静止してメスを待つ。交尾は水域周辺の草などに静止して行われる。産卵は連結態もしくはメスが単独で連続的に打水もしくは打泥して行う。

生存への脅威（減少の要因）

水田の圃場整備や生息地の埋め立て、水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

河川敷の生息環境の保全。山間水田における生息地の環境維持。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4



撮影：二橋 弘之

(文責：二橋 亮)

キトンボ (トンボ目・トンボ科) *Sympetrum croceolum* (Selys, 1883)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では主に丘陵地の池沼に生息するが、産地、個体数ともに減少している。

形態

全長 37~47mm、腹長 21~31mm、後翅長 25~32mm。全身橙黄色のアカネで、翅にも大きな橙色斑がある。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の計 13 市町から記録があるが、安定した産地は少ない。



撮影：二橋 亮

生態・生息環境

平地から丘陵地にかけての周囲に樹林のある水質の良い池沼に生息する。成虫は 6 月に羽化して 12 月まで見られる。成熟オスは水辺の枝先や水面の浮葉植物などに静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の抽水植物や倒木などに静止して行われる。産卵は連結態もしくはメスが単独で打水した後、水際の泥などに腹端を打ち付けて行うことが多いが、連続的に打水もしくは打泥して産卵することもある。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の埋め立てや水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

周囲に林のある水質の良い池沼の保全。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4

(文責：二橋 亮)

ハッチョウトンボ (トンボ目・トンボ科) *Nannophya pygmaea* Rambur, 1842

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では放棄水田や土砂採取跡地などに生じた草丈の短い湿地で一時的に見られることが多く、安定した産地は少ない。

形態

全長 17~21mm、腹長 9~14mm、後翅長 12~16mm。日本最小のトンボで、オスは成熟に伴い全身が橙黄色から赤色へと変化する。メスは黒地に淡黄色と橙褐色の斑紋が並ぶ。



撮影：二橋 亮

国内の分布状況

青森県から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、南砺市、高岡市、小矢部市、氷見市の 14 市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

丘陵地の丈の短い植物の繁茂する湿地に生息し、しばしば放棄水田や土砂採取跡地でも見られる。成虫は 5 月から 10 月にかけて見られるが、8 月頃から個体数は激減する。成熟オスは湿地内の草などに静止して縄張りをつくる。交尾は午前中に多く観察され、短時間で行い、飛翔中の時間が多いが、一度は周囲の植物に静止する。産卵はメスが単独で植物の際の浅い水面を連続的に打水して行い、オスが警護飛翔することが多い。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の草地化、埋め立て、水質悪化、殺虫剤や除草剤の使用、外来生物による捕食圧。

保全対策

草丈が短い湧水のある湿地環境の保全と維持。

特記事項

小矢部市興法寺の産地は県の、小矢部市末友の産地は市の天然記念物に指定されている。

引用文献

蜻 1, 蜻 2, 蜻 3, 蜻 4

(文責：二橋 亮)

オオゴキブリ (ゴキブリ目・オオゴキブリ科) *Panesthia angustipennis spadica* (Shiraki, 1906)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

照葉樹林林床などに生息環境が限定され、産地・個体数とも少なく、近年確認された産地は地域的に限られる。

形態

体長 40 ～ 45mm で大型種。体は黒または黒褐色でつやがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、屋久島。

県内の分布状況

朝日町、魚津市、富山市、高岡市、氷見市の平地～丘陵地の数ヶ所から記録がある。氷見市、朝日町では最近も確認されているが、生息環境の安定性に懸念が有る。

生態・生息環境

平地～丘陵地の照葉樹林やその周辺部の雑木林の林床の朽ち木中に集団で生息。

生存への脅威（減少の要因）

照葉樹林やその周辺部の雑木林の開発、伐採、立枯れ木・倒木の除去等林床の整備。

保全対策

照葉樹林やその周辺部の雑木林の保全。

引用文献

直 1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

エゾハサミムシ (ハサミムシ目・クギヌキハサミムシ科) *Eparchus yezoensis* (Shiraki, 1905)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地のブナ林で見られるが生息場所が限られ、個体数も少ない。

形態

体長は 18mm ほど。体色は黒色で翅に黄色斑紋がある。腹端にたいへん細長い尾鉄を持つ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州の山地に分布。

県内の分布状況

立山町、富山市大山町、南砺市上平村等の 5 カ所で確認されているのみ。

生態・生息環境

山地性で、ブナの樹皮下や倒木で見かける。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の改変。

保全対策

立ち枯れ、倒木等を含めた安定した森林環境の保全。

引用文献

直 1



標本提供：
富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

クロハサミムシ (ハサミムシ目・クロハサミムシ科) *Nesogaster lewisi* (Bormans, 1903)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地のブナ林で見られるが生息場所が限られ、個体数も少ない。

形態

体長は 18mm ほど。体色は全身黒色で模様などは無い。腹端に長いハサミを持つ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国の山地に分布。

県内の分布状況

県内では 3 カ所 (富山市八尾町、南砺市利賀村、朝日町) で確認されているのみ。

生態・生息環境

山地性で、ブナの樹皮下や倒木で見かける。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の改変。

保全対策

立ち枯れ、倒木等を含めた安定した森林環境の保全。

引用文献

直 1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

ササキリ (バッタ目・キリギリス科) *Conocephalus melaenus* (de Haan, 1843)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも少なく、日本海側の分布北限 (新潟県) に近い。

形態

小型のキリギリス類。体側から前翅にかけ黒帯がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

上市町、小矢部市の丘陵地の数ヶ所から記録がある。長らく報告がなかったが、最近小矢部市で確認された。

生態・生息環境

林縁、木陰の低木や竹笹葉上、草上。

生存への脅威（減少の要因）

林の伐採、開発等生息環境の改変。

保全対策

林の維持等林縁環境の維持・保全。

引用文献

直 1



撮影：根来 尚

(文責：根来 尚)

クツワムシ (バッタ目・クツワムシ科) *Mecopoda nippensis* (de Haan, 1842)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地は狭い場所に限定され、生息個体数が少なく、日本海側分布北限（新潟）に近い。

形態

大型のキリギリス類。緑色型・褐色型の2型がある。夜間「ガチャガチャ」と大きな声で鳴く。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬、隠岐。



撮影：根来 尚

県内の分布状況

富山市八尾町・婦中町、高岡市、小矢部市の丘陵地の4ヶ所のみから記録がある。現在生息していると思われる場所は2ヶ所だが、一ヵ所では安定して発生している。

生態・生息環境

林縁や丈の高い草原。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の開発行為や草原の環境悪化。

保全対策

林縁や丈の高い草原の保全。

引用文献

直1

(文責：根来 尚)

カワラエンマコオロギ（エゾエンマコオロギ） (バッタ目・コオロギ科) *Teleogryllus infernalis* (Saussure, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

大河川の河原や砂浜海岸に生息するが、生息環境の変化などで減少したと考えられ、近年確認されていない。

形態

大型のコオロギ。エンマコオロギによく似るが、頭部の眉斑は小さい。リーリーと鳴く。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市、氷見市の砂浜海岸と黒部川、庄川の河川敷から記録があるが、最近の記録がない。

生態・生息環境

海岸の植生のまばらな砂浜、大河川の砂礫地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

護岸工事、河床の土木工事等、砂浜・砂礫地の変化、減少。

保全対策

海岸の良好な砂浜の保全、河川敷の自然環境の保全。

引用文献

直1



標本提供：
富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

カワラスズ (バッタ目・ヒバリモドキ科) *Dianemobius furumagiensis* (Ohmachi et Furukawa, 1929)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

砂礫の河川敷に生息するが、産地・個体数とも少なく、近年確認されていない。

形態

小型のコオロギ。灰色に黒斑がありハネの基部は白い。チリチリチリと鳴く。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市黒部川、立山町常願寺川、礪波市庄川の河川敷から記録があるが、近年の記録がない。

生態・生息環境

河川敷の砂礫地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川の改修、河川敷の砂礫地の利用・改变。

保全対策

河川敷の自然環境の保全。

引用文献

直 1

撮影：根来 尚



(文責：根来 尚)

ヒロバネカンタン (バッタ目・マツムシ科) *Oecanthus euryelytra* Ichikawa, 2001

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

海浜の草原に生息するが、特定の植物群落を好む傾向があり、生息場所が狭く個体数も少ない。

形態

体長約 15mm 程度、体色は薄い緑色で腹部腹板も淡緑色。雄のハネは幅広い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

最近、朝日町、黒部市、富山市の海浜で記録された。

生態・生息環境

砂浜の草原に生息し、晩夏から秋に成虫が見られる。近似のカンタンとは異なりルー・ルー・ルーと区切って鳴く。

生存への脅威（減少の要因）

砂浜の海浜植生の減少。

保全対策

海岸の良好な砂浜の保全。

引用文献

直 7

標本提供：
富山市科学博物館



(文責：根来 尚)

ショウリョウバッタモドキ (バッタ目・バッタ科) *Gonista bicolor* (de Haan, 1842)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

明るい草原に生息するが、産地・個体数とも少なく、生息環境の改変などで減少したと考えられ、近年確認された産地も少ない。

形態

ショウリョウバッタに似るが小型で脚は短い。鳴き声は出さない。



撮影：根来 尚 (石川県産)

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、富山市、小矢部市の丘陵地数ヶ所から記録があるが、最近の記録がない。

生態・生息環境

チガヤなどの明るいイネ科草原に生息。

生存への脅威（減少の要因）

明るく広いイネ科草原の縮小、消滅。

保全対策

明るいイネ科草原の維持・保全。

引用文献

直 1

(文責：根来 尚)

オオコオイムシ (カメムシ目・コオイムシ科) *Appasus major* (Esaki, 1934)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、減少しやすい。

形態

体は扁平。全身が褐色。前脚は鎌状で、コオイムシより若干太い。コオイムシよりも大型の個体が多い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市、南砺市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富でやや薄暗い池、湿地、水路のよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1, 半(水)13



撮影：岩田 朋文

(文責：岩田 朋文)

ムモンミズカメムシ (カメムシ目・ミズカメムシ科) *Mesovelia miyamotoi* Kerzhner, 1977

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、減少しやすい。

形態

全身が黄緑色。無翅型がほとんどだが、たまに有翅型が出現する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)7



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

オオアメンボ (カメムシ目・アメンボ科) *Aquarius elongatus* (Uhler, 1896)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、減少しやすい。

形態

背面は黒色。腹端に一対の突起がある。日本産アメンボ科で最大級の種。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、上市町、富山市、南砺市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよい池や河川のよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1, 半(水)12, 半(水)13



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

アヤヘリハネナガウンカ (カメムシ目・ハネナガウンカ科) *Losbanosia hibarensis* (Matsumura, 1935)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生息地は局地的で少ない。

形態

体は橙褐色、翅は体の2倍以上の長さで透明、前翅の周囲は赤黒褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

南砺市利賀村。

生態・生息環境

低山地の雑木林樹木や下草の葉裏で見つかる。灯火に飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

寄生植物のアオダモやマルバアオダモの減少。

保全対策

アオダモやマルバアオダモ林の再生。

引用文献

半(陸)2



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 護)

イブキコガシラウンカ (カメムシ目・コガシラウンカ科) *Errada ibukisana* (Matsumura, 1914)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地に生息するが、県内では産地、個体数とともに極めて希。

形態

全体が淡褐色。前翅に暗褐色の斑紋がある。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市有峰。

生態・生息環境

寄生植物はスギと言われているが、生態の詳細は不明。

生存への脅威（減少の要因）

個体群の存続が危惧される。

保全対策

森林の保全。

引用文献

半(陸)7

(文責：渡辺 護)

クロテングスケバ (カメムシ目・テングスケバ科) *Saigona ussuriensis* (Lethievry, 1905)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生息地は限定され、個体数も少ない。

形態

頭部が天狗の様に突き出す。体は黒褐色。翅は透明、前翅の後縁部に黒斑がある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町立山弥陀ヶ原、有峰で記録がある。

生態・生息環境

山地性、落葉広葉樹林帯に生息、個体数は少ない。

生存への脅威（減少の要因）

山地の落葉広葉樹林の開発、伐採。

保全対策

山地の落葉広葉樹林の保護。

引用文献

半(陸)2, 7



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 護)

アカエゾゼミ (カメムシ目・セミ科) *Auritibicen flammatus* (Distant, 1892)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

ブナ林に生息するが、県内では産地、個体数ともに少ない。

形態

全体が黄褐色から赤褐色に見える。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市黒部峡谷阿曾原・北又・鐘釣・宇奈月、立山町称名滝、利賀村坂上で報告があるが、最近の記録が無い。

生態・生息環境

山地のブナ林に生息、成虫は7~9月に出現。

生存への脅威（減少の要因）

ブナ林の減少。

保全対策

ブナ林の保全。

引用文献

半(陸)2



標本提供：惣名 実

(文責：渡辺 護)

ハルゼミ (カメムシ目・セミ科) *Terpnosia vacua* (Oliver, 1790)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

丘陵地の松林に生息するが、近年減少が著しい。

形態

翅は透明、頭胸腹部は黒みを帯びた灰色の小型のセミ。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市、上市町、射水市太閤山、南砺市上平村から記録がある。

生態・生息環境

アカマツ林に生息し、成虫期は4月から6月。

生存への脅威（減少の要因）

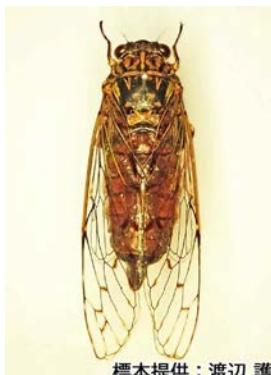
アカマツ林の減少。

保全対策

アカマツ林の保全。

引用文献

半(陸)2



標本提供：渡辺 護

(文責：渡辺 護)

タケウチトゲアワフキ (カメムシ目・トゲアワフキ科) *Machaerota takeuchii* Kato, 1931

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地は限定され、個体数も少ない希な種。

形態

小楯板の後部が刺状に鋭く翅端まで伸びる。体は黒色。胸部に黄斑がある

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市黒部峡谷鐘釣。

生態・生息環境

山地のシナノキ、ヘラノキなどに寄生。幼虫は春に枝に石灰質の筒を作りその中で生活。

生存への脅威（減少の要因）

シナノキ、ヘラノキの減少。

保全対策

シナノキ、ヘラノキなどの生育する自然林の保護。

引用文献

半(陸)5



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 護)

タカイホソアワフキ (カメムシ目・アワフキムシ科) *Neophilaenus sachalinensis* (Matsumura, 1915)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地は限られ、個体数も少ない。近年記録が無い。

形態

頭胸部は褐色、前羽は白色に濃茶色の部分が目立つ。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地の広葉樹林林縁部に見られる。

生存への脅威（減少の要因）

山地の広葉樹林の開発、伐採。

保全対策

山地の広葉樹林の保全。

引用文献

半(陸)6

(文責：渡辺 護)

オオイナズマヨコバイ (カメムシ目・ヨコバイ科) *Metalimnus steini* (Fieber, 1845)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年減少が著しく、最近の記録が無い。

形態

白地に濃茶と黒色が目立つ。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山林低木のカクミノスノキ、スノキ、ウスノキに寄生。

生存への脅威（減少の要因）

山林の開発、伐採。

保全対策

山林の開発、伐採の抑制。

引用文献

半(陸)6

(文責：渡辺 護)

スナヨコバイ (カメムシ目・ヨコバイ科) *Psammotettix kurilensis* Anufriev, 1976

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧種

選定理由

砂浜海岸に局地的に生息し、個体数も少ない。

形態

透明に見える前翅に微小黒点がる。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市浜黒崎で記録されていたのみであったが、最近、朝日町から氷見市にかけての海浜数か所で確認された。

生態・生息環境

コウボウムギに寄生。

生存への脅威（減少の要因）

砂丘防風林の開発、コウボウムギを含む海浜植生の減少。

保全対策

砂浜海岸の保全、拡大。海浜植生の保護。

引用文献

半(陸)4, 8



標本提供
・撮影：神尾 大地

(文責：渡辺 護)

ズイムシハナカメムシ (カメムシ目・ハナカメムシ科) *Lyctocoris bennificus* (Hiura, 1957)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

かつては、平地から丘陵地にかけ広く見られたが、近年、ほとんど見られなくなった。

形態

全体が黒色にみえる濃褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部。

生態・生息環境

里山的環境の昆虫、軒に積まれた稻藁に生息し小昆虫を襲う。ニカメイガの天敵。

生存への脅威（減少の要因）

里山的環境での稻藁の蓄積の減少、消失。農薬の散布。

保全対策

里山的環境の回復、有機農業、無農薬栽培の奨励。

引用文献

半(陸)2

(文責：渡辺 護)

キイロサシガメ (カメムシ目・サシガメ科) *Sirthenea flavipes* (Stål, 1855)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては身近に見られたが、近年ほとんど見られなくなった。

形態

体全体が黄色、小楯板と前翅の多くは黒色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

上市町湯上野、富山市呉羽丘陵、富山市（旧大山町）。

生態・生息環境

平野部の水田など湿潤な環境に生息、人家の周辺にも生息していた。灯火に飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

里山的環境の消失、農薬の多使用。

保全対策

里山的環境の回復、有機農業減農薬農業の奨励。



標本提供：渡辺 護

(文責：渡辺 護)

ヨツモンカメムシ (カメムシ目・クヌギカメムシ科) *Urochela quadrinotata* (Reuter, 1881)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地の広葉樹林に生息し、産地、個体数が極めて少ない。

形態

長楕円形の中型種。全体が茶色もしくは赤褐色、前翅に4個の黒い斑点がある。

国内の分布状況

北海道（比較的多数）、本州、九州。

県内の分布状況

黒部市黒部峡谷鐘釣、富山市有峰、立山町千寿ヶ原、南砺市上平村・利賀村で記録がある。

生態・生息環境

山地のハシバミやハルニレに寄生。成虫は秋に建物に越冬飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

山地の広葉樹林の開発やダム建設、道路工事。

保全対策

山地の開発、工事の抑制。

引用文献

半(陸)1



標本提供：渡辺 護

(文責：渡辺 護)

シロヘリツチカメムシ (カメムシ目・ツチカメムシ科) *Canthophorus niveimarginatus* Scott, 1874

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

近年、ほとんど見られなくなった希少種。

形態

全体が金属的な輝きの黒色で、胸腹部の縁が白色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市常願寺川の中・下流の河川敷。

生態・生息環境

カナビキソウに寄生、実を吸汁する。雌成虫は卵を保護する。

生存への脅威（減少の要因）

カナビキソウが河川敷の改変（整備）で減少。

保全対策

河川敷など、寄生植物であるカナビキソウが生育する環境の保全。

引用文献

半(陸)2

(文責：渡辺 護)



標本提供：富山市科学博物館

チャイロカメムシ (カメムシ目・キンカメムシ科) *Eurygaster testudinaria* (Geoffroy, 1785)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

産地、個体数が極めて少ない。

形態

全体淡褐色で目立たない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市呉羽山、高岡市、小矢部市で記録がある。

生態・生息環境

湿地性のイネ科植物に寄生。

生存への脅威（減少の要因）

低地の湿地植生の減少。

保全対策

河川敷や湿地植生の保全。

引用文献

半(陸)2, 3



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 護)

ナカボシカメムシ (カメムシ目・カメムシ科) *Menida musiva* (Jakovlev, 1876)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

低山、山地の広葉樹林で発生するが、県内では生息地は限定的で個体数も少ない希少種。

形態

小型で淡褐色。小楯板の上方に黒斑点があり、下方末端は白色。スコットカメムシに似る。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町芦嶺、富山市大山原、富山市細入、南砺市福光吉見で記録がある。スコットカメムシに混じって見られる。

生態・生息環境

幼虫はクヌギ、コナラ、ミズナラなどに寄生。成虫は秋に建物に越冬飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

食樹になる樹木の伐採。

保全対策

低山、山地の広葉樹林の保全。

引用文献

半(陸)1, 3



標本提供：渡辺 護

(文責：渡辺 護)

トゲツノカメムシ (カメムシ目・ツノカメムシ科) *Lindbergicoris gramineus* (Distant, 1883)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地性で産地、個体数とも極めて少ない希少種。

形態

鮮やかな緑色。前胸側角は黒色で側方に突き出し尖端は鋭く尖る。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市有峰、大山町原で記録されているのみ。

生態・生息環境

山林低木のカクミノスノキ、スノキ、ウスノキに寄生。

生存への脅威（減少の要因）

山林の開発、伐採。

保全対策

山林の保護、保全。



標本提供：渡辺 譲

(文責：渡辺 譲)

オナガミズスマシ (コウチュウ目・ミズスマシ科) *Orectochilus regimbarti* Sharp, 1884

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

河川改修などで開発・かく乱されやすい河川内によどみに生息するため、減少しやすい。

形態

体は流線型。金色が黒色。全身は金色の微毛で覆われる。コオナガミズスマシよりも明らか大型。

国内の分布状況

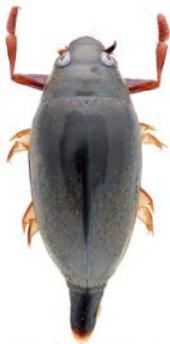
本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市、砺波市。

生態・生息環境

水質がよい河川によどみやヨシ群落の根際などに生息。



標本提供：澤田 研太

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a3

(文責：岩田 朋文)

クロマメゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Platambus stygius* (Régimbart, 1899)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

砂防工事などで開発・かく乱されやすい林内の中渓流に生息するため、減少しやすい。

形態

全身が黒色。上翅に微小な点状の黄色い斑紋が二対ある。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市、砺波市。

生態・生息環境

水質がよく薄暗い山地の中渓流や林道脇の染み出し水に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事などによる林内の湿地の消失。森林伐採やシカの増加などによる乾燥化。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

水脈にも配慮した森林の維持。シカやイノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a6, 鞘 a9

(文責：岩田 朋文)

ヒメシマチビゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Nebrioporus nipponicus* (Takizawa, 1933)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

河川改修などで開発・かく乱されやすい河川内によどみに生息するため、減少しやすい。

形態

体は卵型。上翅は黄色で、縦筋状の黒い斑紋がたくさんある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

黒部市、立山町、富山市。

生態・生息環境

水質がよい河川の川砂の隙間やヨシ群落などの根際に生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a2, 鞘 a3



標本提供：澤田 研太

(文責：岩田 朋文)

カノシマチビゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Oreodytes kanoi* (Kamiya, 1938)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

砂防工事などで開発・かく乱されやすい溪流のよどみに生息するため、減少しやすい。

形態

体は長卵型。上翅は黒色で、縦筋状の黄色い斑紋が数本ある。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

水質がよい溪流の川砂がたまつたよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a3



標本提供：澤田 研太

(文責：岩田 朋文)

ニセコウベツブゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Laccophilus yoshitomii* Watanabe & Kamite, 2018

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、減少しやすい。

形態

上翅は薄黄色で、黒色に縁取られた褐色の縦筋状の斑紋が数本ある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a25



標本提供：富山市科学博物館

(文責：岩田 朋文)

コクロナガオサムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Carabus arboreus* Lewis, 1882

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

高山に生息する種であり、県内の分布範囲はもともと狭いため、気候変動などで減少しやすい。

形態

全身が黒色。小型のオサムシ。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町。

生態・生息環境

亜高山帯や高山帯の森林や草原に生息。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発などによる森林の消失。気候変動やシカの増加などによる乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。気候変動対策。

引用文献

鞘 a47

標本提供：惣名 実



クロオサムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Carabus albrechti* A. Morawitz, 1862

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県が分布西限であり、県内の分布範囲はもともと狭いため、開発などの生息地の改変で減少しやすい。

形態

背面は赤銅色。小型のオサムシ。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

朝日町。

生態・生息環境

丘陵地や山地の森林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事や伐採などによる森林の消失。シカの増加などによる乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

鞘 a47



標本提供：澤田 研太

ホソヒメクロオサムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Carabus harmandi* Lapouge, 1909

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地に生息する種であり、県内ではもともと個体密度が低いと推測されるため、開発などの生息地の改変で減少しやすい。

形態

全身が黒色。上翅の間室はやや隆起する。小型のオサムシ。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、立山町、富山市、南砺市。

生態・生息環境

標高 1,000m 以上の山地の森林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事や伐採などによる森林の消失。気候変動やシカの増加などによる乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。気候変動対策。

引用文献

鞘 a47



標本提供：惣名 実

(文責：岩田 朋文)

ヒヨウタンゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科)

Scarites aterrimus A. Morawitz, 1863

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

開発・かく乱されやすい海浜の砂地に生息するため、減少しやすい。

形態

全身が黒色。頭部は大きく、大あごが発達する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市、高岡市、氷見市。

生態・生息環境

海浜の砂地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

海岸開発などによる砂地の消失。車の乗り入れや漂着物の過剰除去などによる砂地のかく乱。

保全対策

適度な河川増水などによる砂の供給量維持。車の乗り入れや漂着物除去の制限。

引用文献

鞘 a44



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

オサムシモドキ (コウチュウ目・オサムシ科)

Craspedonotus tibialis Schauf, 1863

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

開発・かく乱されやすい海浜や河川敷の砂地に生息するため、減少しやすい。

形態

全身がやや灰色がかった黒色。前胸背板は後方で強くくびれる。脚の脛節は薄黄色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市。

生態・生息環境

河川や海浜の砂地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発や植生遷移などによる砂地の消失。海岸林の伐採などによる乾燥化。車の乗り入れなどによる砂地のかく乱。

保全対策

適度な河川増水などによる砂の供給量維持。車の乗り入れ制限。海岸林の維持。

引用文献

鞘 a1, 鞘 a2, 鞘 a12



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

オオトックリゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Oodes vicarius* Bates, 1873

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内記録はわずか。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、減少しやすい。

形態

体は扁平。全身が黒色。前胸背板は半月状。大型のトックリゴミムシ。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市、氷見市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の湿地、池の岸辺、河川敷などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や管理放棄などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。イノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a15, 鞘 b57



標本提供：澤田 研太

（文責：岩田 朋文）

アオマダラタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科)

Nipponobuprestis (Nipponobuprestis) amabilis (Snellen van Vollenhoven, 1864)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の産地は限定的で個体数が少ない。生息地は主に丘陵地であるため開発の影響を受けやすい。

形態

体長 16~29mm。金緑色の金属光沢をもつ美麗種。稀に橙色や赤色を帯びる個体もある。上翅には 2 対の丸い陥凹紋がある。オスの復端は三角形にえぐられる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

富山市、射水市。

生態・生息環境

成虫は 6~7 月に出現し、ソヨゴ、サクラ、ツゲに集まる。

生存への脅威（減少の要因）

開発や植林のための樹林伐採による生息環境の減少。

保全対策

寄生木であるソヨゴが自生する丘陵地や低山帯の森林保全。

引用文献

鞘 b12



標本提供：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

ミヤマナカボソタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科) *Coraebus daisenensis* Miwa, 1940

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録が少なく、生息環境が限定的。産地における個体数が少ない。

形態

体長 10~13mm。体色は青緑色で光沢を備える美麗種。上翅端部は半月状にえぐられ、会合部はトゲ状となる。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市。県内に食樹であるタンナサワフタギは広く分布しているが、本種の生息地は限定されている。

生態・生息環境

成虫は 6~8 月に出現し、山地の開けた環境にあるタンナサワフタギにつく。

生存への脅威（減少の要因）

発生環境の消失。山間湿地やその周辺植生の変化および消失。

保全対策

発生地周辺の環境保全。山間湿地の保全。

引用文献

鞘 b12

(文責：澤田 研太)

ニッポンカタスジナガタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科) *Agrilus japanocarinatus* Ohmomo, 2002

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。生息情報が少ない。

形態

体長 4.2~5.6mm。体色は唐金色で緑色を帯びた個体も出現する。オスの触覚は長い。前胸腹板突起は三叉状。上翅は短い銀灰色毛を密生し、肩部に隆起線がある。



標本提供：惣名 実

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市から 1 例記録があるのみ。

生態・生息環境

成虫は盛夏に出現し、ヤチダモにつく。

生存への脅威（減少の要因）

山間湿地とその周辺の植生、森林環境の変化および消失。

保全対策

山間湿地等ヤチダモの生育する環境の維持、保全。

引用文献

鞘 b58

(文責：澤田 研太)

シナノキチビタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科)

Trachys aurifluus Solsky, 1875

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

多くの産地で個体数が少ない。

形態

体長 4.1～5.2mm。日本産チビタマムシ属の最大種。頭胸部は真鍮色。上翅は銅色で後方に向け紫色が強まる。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州北部。

県内の分布状況

黒部市、立山町、富山市、南砺市。

生態・生息環境

シナノキの葉上に見られる。越冬した成虫は春から出現する。

生存への脅威（減少の要因）

開発、植林による森林伐採。

保全対策

シナノキが自生する落葉広葉樹林の維持、保全。

特記事項

南砺市のおよそ一部以外の地域では個体数が少ない。

引用文献

鞘 b12

（文責：澤田 研太）

シバタニセヒラタコメツキ (コウチュウ目・コメツキムシ科)

Eanus (Pareanus) costalis shibatai Kishii, 1968

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。

形態

体長 8～9mm。前胸背板は幅広い台形で、後角は後外方向に突出する。上翅は後方で幅広く、側縁部は黄褐色。全身に黄白色の毛を密生する。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

上市町、立山町。

生態・生息環境

主に亜高山帯～高山帯の針葉樹林内やハイマツ帯から確認されている。生態の詳細は解明されておらず、県内では高山帯の石の下や雪渓上で発見されている。

生存への脅威（減少の要因）

亜高山帯、高山帯の環境変化。

保全対策

亜高山帯、高山帯の植生保全。

特記事項

タイプ産地は剣岳剣沢。

引用文献

鞘 b34

（文責：澤田 研太）

スジヒラタガムシ (コウチュウ目・ガムシ科) *Helochares nipponicus* Hebauer, 1995

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内記録は少ない。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、減少しやすい。

形態

体はやや細長い半球型。全身が褐色。小型のガムシ。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a15, 鞘 a34, 鞘 a35

(文責：岩田 朋文)

ヘリトゲコブスジコガネ (コウチュウ目・コブスジコガネ科) *Glyptotrox mandli* (Balthasar, 1931)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の記録は平野部の 1 地点からのみであり、生息地は人里近くのため開発の影響を受けやすい。

形態

体長 5.1~6.9mm。体は太短く黒色。全身光沢を欠く。口器や触角は赤褐色。前胸背板には複数のくぼみがある。上翅には 10 本の条溝があり、間室には細かな起伏がある。上翅側縁には断続的に淡褐色の短毛群がある。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

成虫は春に出現し、動物の死骸、鳥類のペリット、肉食獣の糞等に集まる。

草原を好む傾向が強いとされ、河川敷や都市に残された緑地など人里近くに生息地が多い。

生存への脅威（減少の要因）

都市化、宅地造成、河川敷の整備や公園化等生息地の開発。平野部に残存した樹林の伐採。

保全対策

河川敷や平地の緑地、樹林等生息環境の保全。

引用文献

鞘 b16

(文責：澤田 研太)

マダラクワガタ 基亜種 (コウチュウ目・クワガタムシ科) *Aesalus asiaticus asiaticus* Lewis, 1883

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息地、生息環境が限定的。

形態

体長 4.0～7.0mm。国内最小のクワガタムシ。体は褐色で体高が高い。背面には鱗片上の毛がある。大あごは小さくオスは 1 本の突起をもつ。頭部は小さく複眼前方が角ばる。前胸背板は背面が隆起し、黒色の毛束をもつ。上翅には黄色と黒色の毛束からなる 5 条の縦条があり、まだら模様を形成する。



国内の分布状況

北海道、奥尻島、本州、佐渡、伊豆諸島、隱岐島後、四国、九州、対馬、種子島、屋久島。

県内の分布状況

黒部市、立山町、富山市、南砺市。

標本提供：澤田 研太

生態・生息環境

主に山地帯の自然度の高い森林に生息する。成虫は夏期に活動するが朽ち木の外で見られる機会は少ない。メスはナツツバキやカツラなどの褐色腐朽材に好んで産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

腐朽木の除去。森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b21

(文責：澤田 研太)

ツヤハダクワガタ 中部近畿亜種 (コウチュウ目・クワガタムシ科) *Ceruchus lignarius monticola* Nakane, 1978

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限定的。産卵木となる状態の木は少なく、生息密度が低い。

形態

体長 12～16mm。体は円筒形、黒色で光沢がある。頭部は大きく前縁中央部は湾入し、複眼の後方に数本の横溝がある。前胸背板は方形。上翅には 10 条の縦溝をもつ。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

ブナやミズナラの大木が生育する自然度の高い森林に生息する。成虫は盛夏に野外活動し、まれに朽ち木の表面を歩く個体が見られる。灯火にも飛来する。メスはやや湿った褐色腐朽材に産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の除去。森林環境の変化。生息地の開発。

保全対策

森林環境の保全。

特記事項

県内では主にミズナラの大径木が産卵に利用されているが、本種が利用できる状態の木は少ない。

引用文献

鞘 b21

(文責：澤田 研太)

オニクワガタ 基亜種 (コウチュウ目・クワガタムシ科) *Prismognathus angularis angularis* Waterhouse, 1874

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。生息密度が低い。

形態

体長 15~27mm。体色は褐色を帯びた黒色。大あごは太短く直線的に上方に湾曲し、先端付近に 1 本の大きな内歯がある。

国内の分布状況

北海道、利尻島、本州、四国、九州北部。

県内の分布状況

黒部市、立山町、富山市、南砺市。

生態・生息環境

主に山地帯の大木のブナが生育する森林に生息する。成虫は 8~9 月に出現し、ブナやミズナラの立ち枯れや倒木を歩いている個体が見られる。灯火にもよく飛来する。メスは水分含有量の高い広葉樹の朽ち木に産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の除去。森林環境の変化。生息地の開発。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b21, 鞘 b23, 鞘 b33, 鞘 b34



撮影：澤田 研太

(文責：澤田 研太)

ウスイロマグソコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Aphodius (Labarrus) sublimbatus* Motschulsky, 1860

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息地が限定的で、確実な産地は 1 地点のみ。

形態

体長 3.5~5.5mm。体は長く背面は無毛で光沢がある。体色は黄褐色で、頭部、前胸背板、上翅の中央部は暗褐色～褐色になるが、その範囲や色は変異が大きい。全体が暗色の個体もいる。頭部は前縁が弱く湾入し、3 つのこぶ状突起がある。前胸背板は膨隆し、大小の点刻を散布する。上翅は細長く両側平行。

国内の分布状況

本州、伊豆諸島、隠岐、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、大隅諸島、吐噶喇列島、奄美群島、沖縄諸島、宮古諸島、石垣島、南大東島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市。1950 年前代には黒部市と魚津市から、近年は黒部市の 1 地点からのみ記録がある。

生態・生息環境

放牧地などの開けた環境に生息する。牛、馬、シカ、ヤギ、ヒツジ等家畜の糞や犬、人の糞にも集まる。灯火にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

都市化、放牧地の減少、草原環境の消失等による生息環境の消失。

保全対策

牧場や放牧地、草原等生息環境の保全。

引用文献

鞘 b16, 鞘 b17



標本提供：澤田 研太

(文責：澤田 研太)

クロカナブン (コウチュウ目・コガネムシ科) *Rhomphorhina (Rhomphorhina) polita* Waterhouse, 1875

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が減少傾向にある。生息域は人里と近い場所にあるため開発による影響を受けやすい。個体数も少ない。

形態

体長 25~32mm。全身が光沢のある黒色。中胸腹板突起前方、中および後脛節内側の毛は黄褐色。中胸腹板突起は前方に向かってゆるやかに幅が広くなる。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、佐渡島、伊豆諸島、四国、九州、対馬、平戸島、五島列島、甑島列島、種子島、屋久島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市、射水市、砺波市、南砺市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

低山帯に生息する。平野部や河川敷に残された林にも見られる。成虫は盛夏から晩夏にかけて出現し、コナラやヤナギの樹液に集まる。幼虫は樹洞の中で育つ。

生存への脅威（減少の要因）

宅地造成、河川敷の整備や公園化等生息地の開発。河川敷や平地、丘陵地の森林伐採。

保全対策

河川敷や平地、丘陵地の樹林等生息環境の保全。

引用文献

鞘 b14, 鞘 b17, 鞘 b29, 鞘 b30

(文責：澤田 研太)

アカマダラハナムグリ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Anthracophora rusticola* Burmeister, 1842

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

生息密度が低い。発生環境が限られる。生息域は人里と近い場所にあるため開発による影響を受けやすい。

形態

体長 15~21mm。背面は赤褐色に黒色斑紋を散布したまだら模様。腹面はつやのある黒色で中胸腹板突起と中胸腹板側面の一部は赤褐色。



標本提供：惣名 実

国内の分布状況

北海道、本州、佐渡島、隱岐、淡路島、向島、四国、小豆島、九州、平戸島、伊王島、五島列島、下甑島、屋久島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市、射水市、砺波市、南砺市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

主に低山帯に生息。平野部や丘陵地に残された緑地でみつかることがある。成虫は4月~10月にかけて出現し、コナラ等の樹液に集まる。ワシタカ類、カワウ、コウノトリ等の巣およびその周辺の残滓から発生が確認されており、特にワシタカ類との関係が注目されている。

生存への脅威（減少の要因）

宅地造成、河川敷の整備や公園化等生息地の開発。河川敷や平地、丘陵地の森林伐採。本種の生息と関連のある鳥類の減少。

保全対策

平地、丘陵地、河川敷、里山、低山地の樹林等生息環境の保全。ワシタカ類が営巣、繁殖できる環境の保護。

引用文献

鞘 b14, 鞘 b17, 鞘 b29, 鞘 b30

(文責：澤田 研太)

オオチャイロハナムグリ

Osmoderma opicum Lewis, 1887

(コウチュウ目・コガネムシ科)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息密度が低い。生息環境が限定的。

形態

体長 26~36mm。体全体が鈍いつやのある黒褐色。頭部は密に点刻される。前胸背板の正中部には縦溝がありその外側は隆起する。上翅は幅広い。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州、宮島、四国、九州、馬渡島、平戸島、屋久島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、上市町、立山町、富山市、砺波市、南砺市。

生態・生息環境

主に山地帯の樹洞を備えた大木が生育する自然度の高い森林に生息する。幼虫は森林内のミズナラ、ブナ、スギ等の巨木、老木の樹洞内に堆積したフレークの中で育つ。成虫は盛夏に出現し、発生地となる樹洞周辺や林内を飛ぶ個体が見られる。花には集まらない。成虫は麝香のような芳香を放つ。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。発生木の伐採。

保全対策

発生木となる樹洞を伴う大木および森林環境の保全。

特記事項

立山周辺や有峰地内からの確認例が多い。

引用文献

鞘 b14, 鞘 b15, 鞘 b17, 鞘 b33

(文責：澤田 研太)

ジュウシチホシハナムグリ

Paratrichius septemdecimguttatus (Snellen van Vollenhoven, 1864)

(コウチュウ目・コガネムシ科)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息地が限定的。

形態

体長 11~14mm。腹面、背面ともに黒色。前胸背板に 5 個、上翅に 12 個の黄白紋があるが、体色や斑紋の数には変異がある。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州、壱岐、五島列島、平戸島、屋久島。

県内の分布状況

黒部市、立山町の限られた地域のみ。

生態・生息環境

山地帯に生息。成虫は夏期に出現し各種の花に集まる。幼虫は林床の朽ち木中から見つかる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b17, 鞘 b43

(文責：澤田 研太)

ヤマトアオドウガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Anomala viridana* (Kolbe, 1886)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年個体数が少なく減少傾向にある。

形態

体長 17~26mm。背面は緑色~赤銅色、腹面は赤銅色で全身に鈍い金属光沢を帯びる。上翅の側縁隆起は後半 2/3 付近で消失する。前尾節板には黄褐色の短毛をまばらにそなえる。



標本提供：惣名 実

国内の分布状況

本州、佐渡島、粟島、伊豆諸島、小笠原諸島、四国、九州、壱岐、五島列島、甑島列島、男女群島、屋久島。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市、射水市、高岡市、氷見市。

生態・生息環境

海岸、河川沿い、丘陵地の砂地や草地に生息し、海岸寄りの地域に多い。県内では成虫は 6~8 月にかけて出現し、個体数のピークは 6 月にある。夕方から夜間に活発に活動し、灯火によく飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

海岸線および河川敷の整備や開発。砂地や草地の消失や減少。

保全対策

砂浜、草地の保全。

特記事項

近縁であるアオドウガネと生息域が重複しており、全国的に近年のアオドウガネの分布域拡大に伴う本種への影響が懸念されている。

引用文献

鞘 b17, 鞘 b20, 鞘 b25, 鞘 b28, 鞘 b29, 鞘 b30, 鞘 b45, 鞘 b46, 鞘 b47

(文責：澤田 研太)

アカマダラセンチコガネ基亜種 (コウチュウ目・アカマダラセンチコガネ科) *Notochodaeus maculatus maculatus* (Waterhouse, 1875)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息密度が低い。

形態

体長 6~11mm。頭部は黒色。触角は黒色で先端部のみ黄褐色。前胸背板は大部分が黒色、両側縁は黄褐色でその中に 1 個の小黒斑がある。上翅は黄褐色の地色に黒色の斑紋や帯をもつ。背面は長毛を密生する。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、佐渡、壱岐、四国、九州、五島列島。

県内の分布状況

朝日町、富山市、砺波市。

生態・生息環境

主に低山帯に生息する。成虫は春~秋にかけて出現し、日中に林内や林縁部の地面近くをハエのように飛びまわる。陸上植物の根と共生するアーバスキュラーアン根菌 (AM 菌) の子実体を食べる。

生存への脅威（減少の要因）

低山帯の森林環境、里山環境の変化。宅地造成、観光地化等生息地の開発。

保全対策

森林環境、里山の保全。

引用文献

鞘 b16, 鞘 b36

(文責：澤田 研太)

セスジダルマガムシ (コウチュウ目・ダルマガムシ科) *Ochthebius inermis* (Sharp, 1884)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

河川改修などで開発・かく乱されやすい河川内によどみに生息するため、減少しやすい。

形態

全身が鈍い金属光沢のある黒色で、うっすらと深緑色を帯びる。上唇の前縁は凹まない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水質がよい河川の砂地や河川敷の水たまりなどに生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a31

(文責：岩田 朋文)

ヒメヒラタシデムシ (コウチュウ目・ハネカクシ科) *Thanatophilus sinuatus* (Fabricius, 1775)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

河川改修などで開発・かく乱されやすい河川敷に生息するうえ、動物死骸の減少にともなう餌不足により、減少しやすい。

形態

体は扁平。全身が黒色。上翅には縦筋状の隆起が 3 本ある。上翅の間室に皺はない。小型のシデムシ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、富山市、高岡市、氷見市。

生態・生息環境

平地の河川敷や海浜などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

海岸開発や河川改修などによる草地の消失。動物死骸の過剰除去による餌不足。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

海浜植生や河川植生の維持。動物死骸の維持。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a1, 鞘 a2, 鞘 a14, 鞘 a17

(文責：岩田 朋文)



標本提供：富山市科学博物館

マルクビツチハンミョウ (コウチュウ目・ツチハンミョウ科) *Eurymeloe corvinus* Marseul, 1877

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

寄主であるハナバチ類の存在が必須であるうえ、開発・かく乱されやすい人里近くの森林に生息するため、減少しやすい。

形態

全身が紺色。前胸背板は円状。上翅は短く、腹部が露出する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町、富山市、高岡市、南砺市。

生態・生息環境

平地から丘陵地の草地に生息し、ハナバチ類に寄生する。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採やシカの増加による乾燥化。農薬などによるハナバチ類の減少。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。IPM などによる農薬使用の低減。

引用文献

鞘 a1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：岩田 朋文)

ハネナシセスジナガキマワリ (コウチュウ目・ゴミムシダマシ科) *Strongylium marseuli* Lewis, 1894

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。

形態

体長 9~13mm。暗赤褐色~黒褐色。頭部は密に点刻される。前胸背板は六角形で密に点刻され前縁、基縁、側縁が完全に縁どられる。上翅は強く膨隆し、肩が落ち、下膨れ。後翅は退化しており細く短い。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州、雄島、冠島、隱岐、四国、沖ノ島、九州、馬渡島、平戸島、五島列島、壱岐、対馬、甑島列島、大隅諸島、伊豆諸島。

県内の分布状況

朝日町、氷見市。

生態・生息環境

照葉樹林に生息する。成虫は盛夏に出現し、夜間に広葉樹の朽ち木にいる。

生存への脅威（減少の要因）

生息地である照葉樹林の消失、森林環境の変化。丘陵地の開発。立ち枯れや倒木の除去等の整備。

保全対策

照葉樹林の保全。社叢林の保全。

引用文献

鞘 b7, 鞘 b8, 鞘 b38

(文責：澤田 研太)

シワナガキマワリ (コウチュウ目・ゴミムシダマシ科) *Strongylium japanum* Marseul, 1876

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限定的。生息情報が少ない。

形態

体長 18~24mm。黒褐色~黒色。背面は細毛で密に覆われ、金属光沢をもつことが多い。脚は藍色。頭部は粗く点刻され、複眼は大きい。前胸背板の基縁と前縁は完全に縁どられる。上翅中央とその前後が浅く横に窪み、翅端は開く。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、冠島、隱岐、四国、九州、五島列島、下甑島、大隅諸島。

県内の分布状況

富山市、砺波市の限られた地域のみ。

生態・生息環境

主に照葉樹林に生息する。成虫は盛夏に出現し、日中、立ち枯れ等に見られる。よく飛翔する。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。丘陵地、低山帯の開発。立ち枯れや倒木の除去等の整備。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b14

(文責：澤田 研太)

スナムグリヒヨウタンゾウムシ (コウチュウ目・ゾウムシ科) *Scepticus tigrinus* (Roelofs, 1873)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

開発・かく乱されやすい海浜の砂地に生息するため、減少しやすい。

形態

体はひょうたん型。全身が白色、茶色、黒色から成るまだら模様がある。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市。

生態・生息環境

海浜の砂地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

海岸開発などによる砂地の消失。車の乗り入れや漂着物の過剰除去などによる砂地のかく乱。

保全対策

適度な河川増水などによる砂の供給量維持。車の乗り入れや漂着物除去の制限。

引用文献

鞘 a2, 鞘 a7



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

トドマツカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Tetropium castaneum* (Linnaeus, 1758)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。個体数が少ない。

形態

体長 7~19mm。体は太短いが体長と体形は変異が大きい。小循板は点刻が少なく光沢をもつ。後肢腿節基部は細く、先に向かって急に太くなる。

国内の分布状況

北海道、利尻島、千島列島、本州。

県内の分布状況

富山市南部の山地から記録がある。

生態・生息環境

山地帯上部～亜高山帯の針葉樹林に生息する。針葉樹の衰弱木や伐採木に見られる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

針葉樹林帯の保全。

引用文献

鞘 b2



標本提供：惣名 実

（文責：澤田 研太）

ヒラヤマコブハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Enoploderes (Pyrenoploderes) bicolor* Ohbayashi, 1941

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。生息密度が低く個体数が少ない。

形態

体長 9~17mm。体は黒色~黒褐色、上翅は赤色で艶消し状、触角と脚は赤味がかる。前胸背板の側縁は三角形に尖り、背面の中央には 1 対の瘤状突起がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市、南砺市。

生態・生息環境

県内では主に山地帯の自然度の高い落葉広葉樹林に生息する。各種広葉樹の洞で繁殖する。林間を飛翔中の個体や、花に来ていた個体が採集されている。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化、樹洞を伴う樹木の伐採。

保全対策

発生木となる樹洞を伴う樹木および森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b57



標本提供：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

アラメハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Sachalinobia koltzei* (Heyden, 1887)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。個体数が少ない。

形態

体長 12~19mm。体は黒色でやや光沢をもつ。上翅表面は粗目状に彫刻され、中央部やや後方には黄色の帯がある。

国内の分布状況

北海道、千島列島、本州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地帯上部～亜高山帯にかけての針葉樹林に生息する。オオシラビソ、コメツガ、カラマツ等針葉樹の立ち枯れやナナカマドの花に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。立ち枯れの除去。台風等の暴風による針葉樹およびその立ち枯れへの被害。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b61



撮影：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

ミヤマヒメハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Pseudopidonia sylvicola* (Kuboki, 1977)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境、地域が限定的。産地での個体数が少ない。

形態

体長 6.8～9.5mm。頭部、前胸背板、小楯板は赤褐色だが、黒ずむ個体もある。上翅の紋はオスでは小さく時に消失するが、メスは明瞭で太い。基縁紋から肩部紋、翅端紋は安定して存在する。側部後方紋は内側に向かって伸び、よく会合紋と結合する。これら上翅の斑紋には個体変異と地域変異がある。触角は黄褐色で、第3～10節の先端が黒ずむダンダラ模様だが、メスでは黒い部分が広く触角全体が黒ずむ個体も散見される。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市南部の岐阜県境に近い一部地域に限られている。

生態・生息環境

山地帯上部～亜高山帯の針葉樹林に生息する。7～8月に出現し、オニシモツケやヤマブキショウマの花に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b49, 鞘 b50

(文責：澤田 研太)

ヒゲブトハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Pachypidonia bodemeyeri* (Pic, 1934)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定され、県内における生息地は少なく生息密度が低い。

形態

体長 10～21mm。中型で体と触角は太短い。頭部と前胸背板は暗赤色。上翅は暗赤色～黒色で弱い光沢をもつ。触覚と脚は黒い。体色には個体変異がある。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、佐渡、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

山地帯の自然度の高い森林のトチノキ、ミズナラ、エゾエノキなど広葉樹大木の樹洞に生息する。稀に花や螢火にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

生息地である森林環境の変化。発生木の伐採。

保全対策

発生木となる樹洞を伴う樹木および森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2

(文責：澤田 研太)

ムナミゾハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Munamizoa maculata* (Matsushita & Tamanuki, 1935)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定され、個体数も少ない。

形態

体長 11~17mm。体、触角、脚は黒色。和名のとおり前胸背板の中央に深い縦溝があり、その両側は大きく膨隆する。上翅は黒色と黄色の斑紋をもつ。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

立山町、富山市。

生態・生息環境

山地帯上部の針葉樹林、針広混交林に生息する。薄暗い時間にヒノキ、スギ、トウヒ、カラマツなどの腐朽部に集まるほか、ノリウツギなどの花にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

生息地である森林環境の変化。発生木の消失、除去。

保全対策

発生木と成り得る大木の針葉樹が生育する森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2

(文責：澤田 研太)



撮影：澤田 研太

ヤマトキモンハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Judolia japonica* (Tamanuki, 1942)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地における個体数が少なく、近年の生息情報が少ない。

形態

体長 7~11mm。体、触角、脚は黒色。上翅には黄色の紋があり変異がみられる。触角の第4節は第3節とほぼ同長。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

富山市、南砺市。1980年代に富山市でややまとまって採集されているが、近年は採集例が少ない。

生態・生息環境

クリ、ミズナラ、コナラといったブナ科の枯死部に産卵し、クリなどの花に来る。県内では富山市と南砺市の低山帯で採集されている。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b51



標本提供：惣名 実

(文責：澤田 研太)

ベニバナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Paranaspia anaspoides* (Bates, 1873)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地および生息環境が限定的。生息地における個体数も少ない。

形態

体長 8~15mm。上翅は通常赤色~暗赤色だが、地色と微毛の色は地域によって異なる傾向がみられる。体、触角、脚は黒色。頭部は小さく、前胸背板は釣鐘型、上翅はやや平たく、触角は太い棒状。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、佐渡、伊豆諸島、冠島、四国、九州、対馬、五島列島、屋久島。

県内の分布状況

富山市、南砺市。地域によっては都市部の林にも生息するが、県内の生息地は山地の森林に限られている。

生態・生息環境

樹洞性で、ケヤキ、トチノキ、ブナ、ハンノキ類、カエデ類など各種広葉樹の洞で発生する。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の消失。森林環境の変化。

保全対策

発生木となる樹洞を伴う樹木および森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b52

(文責：澤田 研太)

コウヤホソハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Strangalia koyaensis* Matsushita, 1933

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報および生息地における個体数が少ない。生息地が限定的。

形態

体長 13~20mm。体は細長い。頭部と前胸背板は黒色。上翅は黒色で黄色の紋があり、紋の形や大きさには変異がある。



標本提供：惣名 実

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

朝日町、富山市。

生態・生息環境

スギ、ヒノキ、アスナロを寄生植物とする。リョウブ、ノリウツギなどの花に飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

特記事項

朝日町の丘陵地で採集された個体は西日本産個体の特徴を示す。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b53, 鞘 b54, 鞘 b57

(文責：澤田 研太)

キイロミヤマカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Margites (Margites) fulvidus* (Pascoe, 1858)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限定的。生息地における個体数も少ない。

形態

体長 12~20mm。体は赤褐色から黒色。黄色微毛に覆われる。前胸背板は黒褐色で全面に皺状の隆起がある。上翅は黄色の微毛を密生する。

国内の分布状況

本州、冠島、淡路島、四国、竹ヶ島、沖ノ島、鵜来島、九州、対馬、平戸島、甑島列島、黒島、種子島、屋久島、口永良部島、トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島。

県内の分布状況

朝日町、富山市。

生態・生息環境

低山帯に生息。広葉樹の枯れ木に集まり、花や灯火にも飛来し、樹液で採集されることもある。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2



標本提供：富山市科学博物館

（文責：澤田 研太）

シラホシヒゲナガコバネカミキリ北海道亜種 (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Caenoptera minor fuscus* Hayashi, 1955

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少なく、生息環境が限定的。生息地における個体数も極めて少ない。

形態

体長 6~11mm。頭部と胸部は黒色。前胸背板の中央部には 1 対の隆起部がある。中、後腿節は端部が膨隆する。上翅は短く褐色で光沢があり、逆八の字状の白色紋をもつ。オスの触角は暗褐色で細長く、12 節で体長の 2 倍前後。メスの触角は短く腹端をわずかに超える程度で 11 節。

国内の分布状況

北海道、千島列島、本州。本州では北アルプス等でごく少数が採集されているのみの稀な種である。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

亜高山帯針葉樹林に生息する。モミ、オオシラビソ、カラマツ等マツ科を寄生植物とする。針葉樹の伐採木に見られ、花にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

山地帯上部～亜高山帯針葉樹林の保全。

引用文献

鞘 b8, 鞘 b11



標本提供：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

クロツヤヒゲナガコバネカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Molorchus (Yamatoglaphyra) hattori*K. Ohbayashi, 1953

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的で、改修、整備工事の影響を受けやすい。

形態

体長 4.9~8.0mm。体は細長く黒色で、鈍い光沢をもつ。上翅はやや長く前方から中央にかけて光沢をもつ。後脚は短く、基部付近から緩やかに膨らむ。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、本州、佐渡。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、滑川市、立山町、富山市、砺波市。

生態・生息環境

ナツグミ、アキグミといったグミ科の細枝に寄生する。県内の主な生息地は平野部の河川敷であり、成虫は春期に出現してアキグミの花にも集まる。

生存への脅威（減少の要因）

開発、土木工事等による河川敷の環境および植生の変化。

保全対策

アキグミが生育する河川敷の植生、環境の保全。

特記事項

石川県が国内分布の西限と思われる。

引用文献

鞘 b2

（文責：澤田 研太）

トラフカミキリ本土亜種 (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Xyloclytus (Xyloclytus) chinensis kuroswawai*Fujita, 2010

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

発生環境が少なく、減少傾向にある。生息地は開発の影響を受けやすい場所にある。

形態

体長 15~27mm。頭部は黄褐色で中央に縦条がある。前胸背板の前縁は黄褐色、中央には赤褐色の帯がありその間と後方は黒色。上翅は黄褐色で基部から中央部に八の字状の黒色帯があるが、体の模様には地域変異がある。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、奥尻島、本州、伊豆諸島、粟島、佐渡、四国、九州、対馬、五島列島、種子島。

県内の分布状況

立山町、富山市、砺波市、南砺市、高岡市。

生態・生息環境

クワ、ヤマグワを寄生植物とする。県内では平地および低山帯に生息し、クワの古い木や衰弱木に見られる。

生存への脅威（減少の要因）

発生木の消失。生息地は人里近くであるため、開発や過度な環境整備による影響を受けやすい。また、都市化や宅地化が進むと発生源となる環境は新たに生じにくくなる。

保全対策

発生木および生息環境の保全。

特記事項

養蚕の衰退と共に人里周辺のクワも減り、本種の生息環境も減少していると思われる。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b53, 鞘 b54, 鞘 b57

（文責：澤田 研太）

フタオビミドリトラカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Humeromaculatus (Humeromaculatus) muscosus muscosus* (Bates, 1873)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息地が限定的。

形態

体長 7.6～16mm。体は細く、黄緑色の微毛に覆われる。上翅は基部と肩部に黒色紋、中央から後方にかけて 2 本の黒色帯をもつが変異がある。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

北海道、奥尻島、本州、飛島、粟島、佐渡、伊豆諸島、冠島、隱岐、四国、沖ノ島、九州、対馬、壱岐、平戸島、五島列島、甑島列島、新島、種子島、屋久島、口永良部島、トカラ列島。

県内の分布状況

朝日町、富山市。現在、安定した産地は朝日町のみ。

生態・生息環境

低山帯に生息。成虫は 7 月ごろ出現し、アカメガシワなどの花に集まり。各種広葉樹の枯れ枝にも見られる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b10, 鞘 b17, 鞘 b54, 鞘 b60

(文責：澤田 研太)

ヒゲナガカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Monochamus (Monochamus) grandis* Waterhouse, 1881

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息地が限定的。

形態

体長 26～49mm。触角は長く、オスは体長の約 2.5～2.8 倍、メスでは体長の約 1.2～1.3 倍。前胸背板は側方の突起の基部から後方にかけて黄色の斑紋をもつ。小楯板も黄色。メスの上翅は光沢を欠き、灰白色や黄白色の不規則な斑紋をもつ。



標本提供：
富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市。

生態・生息環境

モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属などの針葉樹に寄生する。成虫は夜間に活動し、灯火にも飛来する。県内の産地は山地帯の一部に限られている。

生存への脅威（減少の要因）

山地帯の森林環境の変化。針葉樹の消失。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b23, 鞘 b33, 鞘 b56

(文責：澤田 研太)

ホシベニカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Eupromus ruber* (Dalman, 1817)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

暖地性で生息地が限定的。平野部に生息するため開発の影響を受けやすい。

形態

体長 18~25mm。体は黒色で、第 2 節以降の触角と腹面、脚を除いて鮮やかな赤色微毛に覆われる。上翅には不規則な黒点をもつ。触角はオスで体長の約 2 倍、メスでは約 1.4 倍。

国内の分布状況

本州、伊豆諸島、隱岐、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、甑島列島、種子島、屋久島、口永良部島、奄美諸島。

県内の分布状況

氷見市。

生態・生息環境

クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキといったクスノキ科に寄生する。暖地性の種で、県内では県北西部の照葉樹林に生息し、主にタブノキの巨木で見られる。



撮影：澤田 研太

生存への脅威（減少の要因）

発生木および生息地である照葉樹林の消失。

保全対策

発生木および生息環境の保全。社叢林の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b57

(文責：澤田 研太)

ヒゲナガモモブトカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Acanthocinus orientalis* K. Ohbayashi, 1939

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年の生息情報がなく、急激に減少している可能性がある。

形態

体長 9~14mm。体は黒褐色から黒色で、上翅中央には白色帯がある。触角は長くオスは上翅の 3 倍を超える。メスの第 5 腹板と産卵管は長く後方に突出する。



標本提供：惣名 実

国内の分布状況

北海道、本州、伊豆諸島、飛島、佐渡、隱岐、四国、九州、対馬、種子島、屋久島。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、富山市、砺波市、南砺市、氷見市。山地にも産する種であるが、県内では主に低山帯から記録されている。

生態・生息環境

マツ科に寄生する。低山帯から山地帯にかけて生息し、アカマツの衰弱木や伐採木に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

マツ枯れ等による生息環境の消失および減少。森林環境の変化。

保全対策

アカマツ林の保全。森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b14, 鞘 b17, 鞘 b23, 鞘 b25, 鞘 b54

(文責：澤田 研太)

ヒゲナガヒメルリカミキリ基亜種 (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Praolia citrinipes citrinipes* Bates, 1884

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息地が限定的。

形態

体長 5.3～7.3mm。頭部、前胸、中胸、脚は黄色～黄褐色。後胸、上翅、末端節を除く腹部は黒色。全体に灰白色の微毛を密生する。触角の長さはオスで体長の 2.2～2.4 倍。メスで約 1.8～2.0 倍。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬、屋久島、種子島、トカラ列島。

県内の分布状況

富山市南部の限られた地域のみ。

生態・生息環境

低山帯から山地帯下部に生息。主にクスノキ科のアブラチャン、ダンコウバイ、ヤブニッケイなどを寄生植物とする。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b57

(文責：澤田 研太)

イネネクイハムシ (コウチュウ目・ハムシ科) *Donacia provostii* Fairmaire, 1885

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、減少しやすい。

形態

全身が金属光沢のある紫色で、うっすらと橙色を帯びる。触角の第 3 節は第 2 節より長い。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

富山市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよい平地や丘陵地の池や湿地に生息し、ヒシ、アサザ、ヒルムシロなどに集まる。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a28, 鞘 a49, 鞘 b57

(文責：岩田 朋文)

キンイロネクイハムシ (コウチュウ目・ハムシ科) *Donacia japonica* (Chujo & Goecke, 1956)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、減少しやすい。

形態

全身の大部分は金属光沢のある緑色。上翅に金属光沢のある赤色の細長い斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市、高岡市、小矢部市、氷見市。



撮影：岩田 朋文

生態・生息環境

水質がよい平地や丘陵地の池や湿地に生息し、ミクリ類によく集まる。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a35, 鞘 a47, 鞘 a50

(文責：岩田 朋文)

ウマノオバチ (ハチ目・コマユバチ科) *Euurobracon yokahamae* Dalla Torre, 1898

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

里山や低山地に局所的に生息し産地は少なく、里山環境の減少もあり、記録は大変少ない。

形態

体は黄赤褐色、大変長い産卵管を有す。



標本提供：
富山市科学博物館

国内の分布状況

本州、四国、九州。ほぼ全国的に減少している。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、富山市、南砺市の丘陵地の数ヶ所で記録があるのみ。

生態・生息環境

雑木林中で、ミヤマカミキリの蛹に寄生。

生存への脅威（減少の要因）

ミヤマカミキリの生息する里山や雑木林の減少、消失。

保全対策

里山や雑木林の維持・保全。

引用文献

膜 1

(文責：根来 尚)

ツヤクシケアリ (ハチ目・アリ科) *Manica yessensis* Azuma, 1955

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息場所が限られ、県内では記録が大変少なく山地河原の 1 カ所のみ。

形態

体長 5~8mm。頭部と腹部は黒色でその他の部分は赤褐色。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州中部以北に分布。生息地は散発的。

県内の分布状況

県内の記録は、立山町有峰折立のみ。

生態・生息環境

山地の明るい岩礫地や川原などに営巣し、生息地は散発的である。

生存への脅威（減少の要因）

生息場所の環境変化。

保全対策

生息場所の環境保全。

引用文献

膜 1

(文責：根来 尚)

フカイオオドロバチ (ハチ目・ドロバチ科) *Rhynchium quinquecinctum fukaii* Cameron, 1911

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数ともに少なく、日本海側分布北限（新潟県）に近い。

形態

大型のドロバチ。体は黒色、頭部、前胸部、脚、腹節後縁は赤褐色。

国内の分布状況

本州（新潟県、茨城県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、高岡市の平地 2ヶ所で記録があったのみだが、最近、富山市内で発見された。

生態・生息環境

海岸から低山地にみられ、孔筒中に泥の仕切りをして、メイガ類の幼虫を狩る。

生存への脅威（減少の要因）

竹筒や木材の虫食い孔に営巣するカリバチ類の生息可能な里山的環境の減少、消失。

保全対策

里山的環境の保全。

引用文献

膜 1



標本提供：富山市科学博物館

（文責：根来 尚）

ヤマトアシナガバチ (ハチ目・スズメバチ科) *Polistes japonicus japonicus* Saussure, 1858

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

近年、減少が著しく営巣の確認された場所は大変少ない。アシナガバチ属中では最も少ない。

形態

中型のアシナガバチ。中胸背板に黄褐色の細い 2 縦紋と前伸腹節に黄色の太い 2 縦紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州に広く分布するが、近年、全国的に減少が言われている。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、富山市、氷見市等平地から低山地の 8 カ所から記録がある。

生態・生息環境

平地から山地の林縁、草地。樹木の細枝に営巣し、繭のふたの色は黄緑色。攻撃性は弱い。

生存への脅威（減少の要因）

林地、草地の開発。宅地化など里山的環境の改変。

保全対策

雑木林、草地など里山的環境の保全。

引用文献

膜 1



撮影：根来 尚（石川県産）

（文責：根来 尚）

ヤマトスナハキバチ (ハチ目・ハナダカバチ科) *Bembicinus hungaricus japonicus* (Sonan, 1934)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

海岸の砂浜、河川敷の砂地に生息するが、安定的に発生している産地は少なく、個体数も少ない。

形態

体色は黒く光沢に富む。腹部1、2、4節背板に白黄色の横帯がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に、全体に減少している。

県内の分布状況

黒部市と氷見市の海岸の砂浜で2カ所、立山町の河川敷の砂地に1カ所の記録が有るのみ。

生態・生息環境

夏季、砂地に営巣。ヨコバイ類やキジラミ類を狩り幼虫の餌とする。

生存への脅威（減少の要因）

海浜や河川敷の環境改変。

保全対策

海岸の砂浜や河川の自然環境の保全。

引用文献

膜1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

エサキムカシハナバチ (ハチ目・ムカシハナバチ科) *Colletes esakii* Hirashima, 1958

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では3ヶ所での記録があるのみ。営巣場所は開発工事等で環境が改変されることが多い。日本海側分布北限。

形態

ミツバチに似るが、黄褐色の短毛を密生する。腹部第一背板基部左右に黄灰色の短毛を密生する。

国内の分布状況

本州中西部、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市の3ヶ所で記録があるのみ。

生態・生息環境

粘土質の崖斜面や平坦地の裸地に坑を掘って営巣する。集団営巣することがある。

生存への脅威（減少の要因）

土地の造成、開発等での営巣地の破壊。

保全対策

営巣地となる粘土質の崖斜面や平坦地の裸地の維持・保全。

引用文献

膜1



撮影：根来 尚 (石川県産)

(文責：根来 尚)

ヤスマツヒメハナバチ (ハチ目・ヒメハナバチ科) *Andrena (Parandrena) yasumatsui* Hirashima, 1952

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

河川敷の砂地等に生息場所が限られ、個体数も少ない。

形態

体長 10mm 程度、中型のハナバチ類。体色は黒で灰白色の毛を密生する。
雄の頭楯には黄色斑がある。雌の腹部は赤みがかる。

国内の分布状況

本州。生息地が限られ、減少が報告されている。

県内の分布状況

富山市常願寺川河川敷の 2 カ所から記録が有るのみ。

生態・生息環境

早春、ヤナギ類に訪花。砂地に営巣。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、河川敷の開発などの環境変化。

保全対策

河川敷の自然環境保全。

引用文献

膜 1



撮影：根来 尚

(文責：根来 尚)

クズハキリバチ (ハチ目・ハキリバチ科) *Megachile (Megella) pseudomonticola* Hedicke, 1925

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

産地、個体数共にたいへん少なく、既知産地での最近の記録が無い。

形態

体長 18mm 程度の大型のハナバチ。体は黒色で、胸部の毛は黄褐色、腹部第 1、2 背板に黄褐色の毛帯がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。全国的に広く分布するが、個体数は少なく近年減少している。

県内の分布状況

富山市、礪波市の河川敷から丘陵地にかけての 3 カ所で記録が有るのみであったが、最近、黒部川下流部で記録された。

生態・生息環境

老木の洞やカミキリの脱出坑などに営巣し、育房の仕切りにクズの葉を使う。クズ、ハギなどに訪花する。

生存への脅威（減少の要因）

土地開発等による営巣場所である老木の洞やカミキリの脱出坑などの減少。

保全対策

営巣可能な環境の保全。

引用文献

膜 1



標本提供：
富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

ウスリーマルハナバチ (ハチ目・ミツバチ科) *Bombus (Megabombus) ussurensis* Radoszkowski, 1877

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

分布が局限されており、個体数が少ない。生息場所である高原的環境の変化が危惧される。

形態

黄褐色からやや緑がかったの体毛に覆われている。腹部の黒と灰白色の縞が目立つ。

国内の分布状況

本州中部地方、関東北部に分布し、高標高の冷涼な地域を好む。全体に減少している。

県内の分布状況

富山市大山町有峰でのみ記録され、近年の確認が無い。

生態・生息環境

生息地は高標高の山林の林縁部、草原、スキー場など。アザミ等に訪花する。

生存への脅威（減少の要因）

高原の観光開発、草地や茅場の減少などの生息環境の悪化。

保全対策

山地から高山の草原的環境の保全。

引用文献

膜 1

標本提供：富山市科学博物館



(文責：根来 尚)

クロキンメアブ (ハエ目・アブ科) *Chrysops japonicus* Wiedemann, 1828

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

里山および山地で発生するが、県内では 1978 年以後確認されていない。

形態

小型で細身、翅を含め全体が黒色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

1980 年以前には黒部市、高岡市、有峰六郎谷で採集されているが、近年の記録が無い。

生態・生息環境

幼虫は清い小川・溪流および池沼の岸に生息する。成虫は動物に吸血飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

水質等の勝れた小川や池沼等、優良な淡水環境の減少、消失。

保全対策

優良な淡水環境の保全。

引用文献

双 1, 2



標本提供：渡辺 護

(文責：渡辺 護)

ヨスジキンメアブ (ハエ目・アブ科) *Chrysops vonderwulpi* Krober, 1929

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

里山および山地で発生するが、県内では 1971 年以後確認されていない。

形態

小型細身で翅に褐色斑があり、腹部は黄色地に 4 本の黒い筋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

1971 年以前に黒部市（旧宇奈月町）、で記録されているのみ。

生態・生息環境

幼虫は池沼の岸に生息する。動物に吸血飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

里山景観の消失。

水質等の勝れた池沼等、優良な淡水環境の減少、消失。

保全対策

優良な淡水環境の保全。

特記事項

近県では、岐阜県飛騨市神岡町下之本（山之村）に僅かに生息が確認されるのみ。

引用文献

双 1, 2



標本提供：渡辺 譲（岐阜県産）

（文責：渡辺 譲）

ハマベニクバエ (ハエ目・ニクバエ科) *Leucomyia alba* (Schiner, 1868)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては、海浜で見られたが、最近では確認できない。

形態

翅は極めて薄い灰色、頭部の赤褐色複眼が目立つ、胸腹部は灰白色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市浜黒崎で記録がある。

生態・生息環境

海浜性で海藻や魚の死骸などに群れる。

生存への脅威（減少の要因）

海岸砂浜の消失。

保全対策

砂浜の回復。

引用文献

双 6



標本提供：富山市科学博物館

（文責：渡辺 譲）

タカネキマダラセセリ飛騨山脈亜種 (チョウ目・セセリチョウ科) *Carterocephalus palaemon satakei* (Matsumura, 1919)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地が亜高山帯に限られ、記録は極めて少ない。

形態

前翅長 13~15mm の小型のセセリチョウ。濃い茶色の基調色に黄色の鮮やかなまだら模様をもつ。

国内の分布状況

本州中部地方の飛騨山脈と赤石山脈の亜高山帯のごく限られた地域にのみ分布する高山蝶。標高 2,000m 前後に産地が多い。

県内の分布状況

爺ヶ岳冷池小屋付近、鷺羽岳～三俣蓮華小屋、薬師沢～高天原などで記録されている。

生態・生息環境

イネ科のイワノガリヤスを食草とする。年 1 回の発生で、7 月中旬～8 月上旬に見られる。1 年目の冬は 3 齢幼虫、2 年目の冬は 5 齢幼虫で越年、3 年目の春に越冬より目覚めた幼虫は、その後蛹化し、羽化する。一世代の完了にあしかけ 3 年を要する。亜高山帯の沢沿いや涸れ沢、圈谷の下部に広がる樹林周辺の高茎草原、草付きなどに生息する。成虫は活発に訪花して吸蜜活動を行う。

生存への脅威（減少の要因）

亜高山帯を生息地とし、人為的な環境破壊の影響は少ないと思われる反面、黒部川上流域では、しばしば、水害による大規模な環境破壊が起きていて、生息地が奪われて行きつつあることが懸念される。

保全対策

生息地の現況調査を継続的に行う必要がある。

特記事項

既知産地の多くは国立公園内の特別保護地区に属する。

引用文献

蝶 25, 蝶 26



標本提供：富山市科学博物館

（文責：澤田 昭芳）

スジグロチャバネセセリ名義タイプ亜種 (チョウ目・セセリチョウ科) *Thymelicus leoninus leoninus* (Butler, 1878)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

産地・個体数とも極めて少なく、有峰湖周辺でのみ記録されているが、最近 40 年間は記録されていない。

形態

前翅長 13~15mm の小型のセセリチョウ。前翅・後翅の表面の縁取りは黒褐色で、内部は広く黄褐色。翅脈に添って黒褐色の細い筋がある。オスの前翅表中室下方に黒色の細い線状の性標をもつ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布。中部地方に産地が多い。

県内の分布状況

富山市（大山町）有峰地域のみで記録されている。

生態・生息環境

イネ科を食草とする。年 1 回の発生で、7 月中旬～8 月に見られる。草原に樹林が混在する環境を好み、次種のヘリグロチャバネセセリより林縁部を好む。

生存への脅威（減少の要因）

目立たない蝶の一種で、分布が確認されないうちに、開発や植林事業などによって、生息地が消滅すること。

保全対策

生息分布確認調査を継続的に行うこと。森林周辺の草地の維持・管理。

引用文献

蝶 25, 蝶 26



標本提供：富山市科学博物館

（文責：澤田 昭芳）

ヘリグロチャバネセセリ (チョウ目・セセリチョウ科) *Thymelicus sylvaticus sylvaticus* (Bremer, 1861)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

庄川流域の山地でのみ記録されているが、産地・個体数とも極めて少ない。

形態

前翅長 13~14mm。スジグロチャバネセセリに大変よく似た小型のセセリチョウ。前翅・後翅の表面の縁取りはスジグロチャバネセセリよりやや濃い黒褐色で、内部は広く黄褐色。翅脈に添って黒褐色の細い筋がある。全体に、スジグロチャバネセセリより暗い色調をもつ。スジグロチャバネセセリのオスがもっている前翅表中室の性標は、本種のオスには無い。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。各地とも局地的な分布をする。

県内の分布状況

県西部の庄川流域の山間地でのみ記録されている。

生態・生息環境

イネ科を食草とする。年1回の発生で、7月中旬~8月上旬に見られる。前種と同様に、樹林と草原が適度に混じり合った環境を好むが、本種の方が生息環境の幅が広い。垂直分布の幅も本種の方が広い。成虫は樹林の周辺部の草地や疎林の混じる草原、溪流沿いの草地などを敏速・小刻みに飛び、各種の花に吸蜜に訪れる。

生存への脅威（減少の要因）

目立たない蝶の一種で、分布が確認されないうちに、開発や植林事業などによって、生息地が消滅すること。

保全対策

生息分布確認調査を継続的に行うこと。森林周辺の草地の維持・管理。

引用文献

蝶 22, 蝶 23, 蝶 25, 蝶 26

(文責：澤田 昭芳)

カラスシジミ (チョウ目・シジミチョウ科) *Fixsenia w-album fentoni* (Butler, 1882)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも極めて少なく、有峰湖周辺と庄川・小矢部川流域の山地でのみ記録されている。

形態

前翅長 14~16mm。前後翅表が濃褐色の小型のシジミチョウ。裏面の白条は明瞭で、後翅ではやや中央寄りを走り、肛角部付近でW状に波曲する。後翅裏面の外縁に添って鮮やかな橙色班紋列をもつ。オスは前翅表中室に橢円形の性班をもつ。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。北海道と九州南半では低地～山地に広く産するが、東北地方～九州北部では少なく、局地的となる。

県内の分布状況

本県では極めて稀で、富山市（大山町）有峰一帯、砺波市（庄川町）湯山、南砺市利賀村水無、袴腰山、福光町下小屋 650~800m など数カ所でのみ記録されている。

生態・生息環境

食樹はニレ科のハルニレ、オヒヨウ。県内ではハルニレの自生地は少なく、オヒヨウは溪谷に自生するが多くない。年1回の発生。7月上旬~9月上旬に記録されている。成虫はノリウツギ、シシウド、ヨツバヒヨドリ、イタドリ、ヒメジヨンなど吸蜜する。

生存への脅威（減少の要因）

開発や森林事業により、発生木のハルニレやオヒヨウが伐採されること。

保全対策

食樹のハルニレやオヒヨウの自生する樹林の維持・保全。発生状況の継続観察。

特記事項

本種は有峰ダムが完成前、旧有峰盆地で多産していた。水没後、多産地は見つかっていない。

引用文献

蝶 23, 蝶 25, 蝶 26

(文責：澤田 昭芳)

ミヤマカラスシジミ (チョウ目・シジミチョウ科) *Fixsenia mera* (Janson, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では、黒部川の山地、有峰湖周辺、庄川・小矢部川流域の山地などで記録されているが、産地、個体数ともに極めて少ない。

形態

前翅長 14~17mm。カラスシジミに酷似する。前後翅表は濃褐色、裏面の白条はカラスシジミと比較すると細く、後翅では外縁寄りを走り、肛角部付近で波曲しない。また、オスの性斑はカラスシジミより大きい。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。本州の東北地方から中部地方にかけては山地に広く生息している。

県内の分布状況

黒瀧川上流の朝日町北又小屋、黒部市宇奈月温泉、富山市有峰、南砺市縄ヶ池、利賀村大勘場・水無、平村上松尾、袴腰山、福光町医王山・刀利ダムなど、県内の山地に分布は散在するが、普遍的ではない。

生態・生息環境

食樹はクロウメモドキ、クロツバラ。年1回の発生。7月中旬~8月中旬に見られる。樹林の中の開けた空間や樹林周辺部の明るいところを好む。ヒメジョオン、ヨツバヒヨドリ、イタドリなどに飛来し、吸蜜する。

生存への脅威（減少の要因）

雑木林を伐採して、針葉樹を植林することにより、生息環境が奪われること。

保全対策

食樹のクロウメモドキ、クロツバラの自生する樹林の保全。未知の生息地が開発や植林事業などによって消滅する可能性があり、県内の分布調査の継続が必要である。

特記事項

本種は有峰ダムが完成前、旧有峰盆地で多産していた。水没後、多産地は見つかっていない。

引用文献

蝶5,蝶23,蝶25,蝶26

(文責：澤田 昭芳)



標本提供：富山市科学博物館

オオイチモンジ (チョウ目・タテハチョウ科) *Limenitis populi jezoensis* Matsumura, 1919

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

立山町黒部湖底（黒部ダム工事中）での記録（1960年）の1例のみが知られていた。近年、大山町有峰地域で連続して記録されたが、2013年以降、この県内唯一の生息地での記録が途絶えている。

形態

前翅長 37~45mm。タテハチョウ科のイチモンジチョウの仲間では、最大の蝶で、黒褐色の地色に大きな一文字模様が映え、珍しさとの相乗効果から、蝶愛好家の垂涎の的となっている。メスはオスより二回りほども大きく、白帯も太い。

国内の分布状況

北海道、本州に分布。北海道では低山地～山地に広く生息しているが、本州では関東北部～中部山岳の亜高山帯に局地的に分布する高山蝶。

県内の分布状況

黒部ダム工事中の黒部川河原と富山市（大山町）有峰地域。

生態・生息環境

食樹はドロノキ（ヤナギ科）など。標高 1,000~2,000m の山地の河川や渓流沿いの河畔林や山腹斜面の樹林に生息する。年1回の発生。7月中旬~8月上旬に見られる。成虫の飛び方は力強く、林間や梢上を滑空する。あまり花には飛来しない。樹液や獣糞、小動物の死体に飛来して吸汁し、河原や林道湿地に下りて吸水することが多い。

生存への脅威（減少の要因）

有峰地域は開発が進んでおり、また、水害対策の治山事業や河川改変工事が盛んな地域であり、貴重な生息環境が破壊されやすい。

保全対策

ドロノキの保護と採集圧の抑制。

特記事項

日本産蝶の中で、人気の高さでトップクラスの種。特に、有峰地域は富山県における唯一の確実な産地である。

引用文献

蝶24,蝶25,蝶26



標本提供：富山市科学博物館

コムラサキ黒色型（クロコムラサキ）（チョウ目・タテハチョウ科） *Apatura metis substituta* Butler, 1873

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

石川県の能登半島は黒色型の出現率が極めて高いことが知られ、本県でも、能登半島基部に位置する氷見市では比較的、高率で現れることが知られていた。しかし、食樹であるヤナギの伐採が進み、コムラサキそのものが激減し、黒色型は極めて記録困難な事態となっている。

形態

前翅長 32～35mm。コムラサキには褐色型と黒色型の 2 遺伝型があり、黒色型のオスは翅表の紫色の幻色と白色の帯とが対比となって、際だって美しい。翅の形状、大きさなどには、褐色型と黒色型とに差異は見られない。



国内の分布状況

褐色型が全国に広く分布しているのに対して、黒色型は一般には極めて少ない。例外的に、東海地方の一部、石川県の能登半島、九州東南部の一部に黒色型の出現率が高い所がある。特に、能登半島の一部の産地では黒色型しか見られない所がある。

県内の分布状況

能登半島の基部に位置する氷見市では、10%ぐらいの比率で黒色型が現れることが報告されているが、県内の他の産地（十数ヶ所）では、いずれも散発的に記録されているだけである。

生態・生息環境

食樹はヤナギ類に限られている。年 2～3 回の発生。1 回目は 6 月上旬～下旬、2 回目は 7 月下旬～8 月中旬に発生し、3 回目は少数が 9 月中旬以降に見られる。樹液によく集まる。花にはほとんど飛来しない。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修工事等で、ヤナギ類が皆伐されること。

保全対策

ヤナギの皆伐をやめ、所々に残すような管理をすること。

特記事項

コムラサキ（黒色型）の分布に関して、能登半島は特異な地域であり、その基部に位置する氷見市は貴重な生息地である。

引用文献

蝶 25, 蝶 26

（文責：澤田 昭芳）

オオムラサキ（チョウ目・タテハチョウ科） *Sasakia charonda charonda* (Hewitson, 1863)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

分布は広範囲にわたるが生息密度が低く、近年、個体数は著しく減少している。

形態

前翅長 55～65mm のタテハチョウ科最大のチョウ。オスの翅表は紫の幻色、メスは褐色で、共に白～黄色の斑点を有する。



国内の分布状況

北海道から九州まで全国に分布。

県内の分布状況

標高 100～1,300m の丘陵地・山地に広く産する。しかし、どこでも個体数が少ない。

生態・生息環境

食樹はエゾエノキとエノキ。年 1 回 7～9 月に発生する。樹液に好んで飛来し、花にはほとんど来ない。山頂を占有飛行することが多い。

生存への脅威（減少の要因）

エノキ類の伐採が最大の脅威。また、生息環境となる里山の落葉広葉樹二次林の減少および管理放棄による荒廃。

保全対策

寺院の境内や河川堤防などに遺存的に生育しているエノキの大木も重要な発生源となるので切除しないように留意する。また、生息環境となる二次林は、間伐や草刈りなど積極的な環境管理が必要である。

特記事項

良好な里山の象徴的な存在で、日本の国蝶とされる。各種の調査の指標昆虫に選ばれることが多い。

引用文献

蝶 13, 蝶 25, 蝶 26

（文責：澤田 昭芳）

オオギンスジコウモリ (チョウ目・コウモリガ科) *Gazoryctra macilenta* (Eversmann, 1851)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が高標高地に限られるうえ、個体数が少ない。

形態

開張 35mm 前後。前翅は褐色で銀色の斑紋がある。後翅は暗褐色。

国内の分布状況

本州の中部山岳地帯（亜高山帯、高山帯）に生息する。

県内の分布状況

立山町：弥陀ヶ原；室堂。

生態・生息環境

成虫は年1化で8~9月にかけて出現する。日没時に活発に飛翔することが知られている。

生存への脅威（減少の要因）

高標高地で人為的影響が少ない所であるが、観光客の増加やそれに伴う環境改変が懸念される。

保全対策

やむを得ない環境改変でも最低限に抑える。

引用文献

蛾3, 蛾20, 蛾21

(文責：富沢 章)

ルリハダホソクロバ (チョウ目・マダラガ科) *Rhagades pruni esmeralda* (Butler, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

産地が限定され個体数も少ない。改変されやすい河川敷の草原環境に生息する。

形態

開張 17~22mm。頭部、胸部、前翅は黒色で美しい金属光沢がある。

国内の分布状況

本州、九州、対馬、五島列島。

県内の分布状況

朝日町：南保、黒部市：愛本新；柄屋。

生態・生息環境

年1化で成虫は6~7月に発生。食樹はズミ。昼行性で火山性草原や河川敷等の明るい草原を好む。

生存への脅威（減少の要因）

河川敷環境の改変や草原の減少により生息地が消滅する恐れがある。

保全対策

河川敷の草原環境の保全が必要である。

引用文献

蛾14, 蛾21



標本提供：川端 一旗

(文責：川端 一旗)

フジキオビ (チョウ目・アゲハモドキガ科) *Schistomitra funeralis* Butler, 1881

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地に生息するが個体数が多くなく、日本海側の分布北限である新潟県に近い。

形態

開張 46~53mm。前翅後翅ともに黒色の地に独特な淡黄色の紋が並ぶ。



国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町：芦嶺寺；大品山；材木坂、富山市：有峰；千長原；長棟；八尾町、南砺市：小瀬；利賀村；繩ヶ池。

生態・生息環境

年1化。成虫は5~6月に出現。食樹であるナツツバキがある山地に生息。
昼行性。

標本提供：澤田 研太

生存への脅威（減少の要因）

食樹のナツツバキは日本海側の北限が新潟県であり、開発による伐採には注意を要する。

保全対策

山地の植生の継続的保全。

引用文献

蛾 23, 蛾 35, 蛾 36

(文責：川端 一旗)

オナガミズアオ (チョウ目・ヤママユガ科) *Actias gnoma* (Butler, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

産地が限られており個体数も多くない。



形態

開張 80~100mm。前翅後翅ともに青緑白色で眼状紋があり、前翅前縁は赤く縁取られる。オオミズアオに似る。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町：北又；平柳、黒部市：鐘釣、立山町：芦嶺寺千寿ヶ原；作廊谷、富山市：有峰；立山カルデラ；本宮、南砺市：利賀村。

生態・生息環境

年1~2化。成虫は5~8月に発生。食樹であるハンノキ類が生えている低地～山地に生息する。

標本提供：川端 一旗

生存への脅威（減少の要因）

ハンノキ類の自生林がある湿地帯は開発工事等による伐採で消滅する恐れがある。

保全対策

ハンノキ類が生育する湿地環境の保全。

引用文献

蛾 8, 蛾 14, 蛾 21

(文責：川端 一旗)

スキバホウジャク (チョウ目・スズメガ科) *Hemaris radians* (Walker, 1856)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国的に生息地が減少している。本県では近年の記録が無い。

形態

開張 40~45mm。前後翅は透明で黒く縁どられる。後翅基部が橙色で目立つ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

砺波市：頼成、南砺市：山の神、氷見市：稻積、において 1980 年以前の記録がある。

生態・生息環境

生息地は灌木が混じる明るい草地である。オミナエシ等のスイカズラ科の植物が食草である。

生存への脅威（減少の要因）

低標高地の食草を含む草地環境が開発により減少したことが要因である。

保全対策

食草の生育する低標高地の草地環境を保全、維持する。

特記事項

過去に富山県昆虫研究会編（1979）に多くの記録があるが、誤同定が多い。

引用文献

蛾 18, 蛾 21



標本提供：
富山市科学博物館

（文責：富沢 章）

キハダカノコ (チョウ目・ヒトリガ科) *Amata germana germana* (Felder & Felder, 1862)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に減少しており、県内では近年記録がない。

形態

開張 30~37mm。前翅は黒色で、半透明の水玉模様がある。腹部は黄色い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

黒部市：浦山；大布施地区；下立；沓掛；柄屋。

生態・生息環境

成虫は 7~9 月に発生。食樹はオニグルミ、ハコネウツギ、シロタエギク、ササ。昼行性。

生存への脅威（減少の要因）

河川敷の整備や、開発などによる草原の減少。

保全対策

平地～山地の草原的環境の保全。

引用文献

蛾 11, 蛾 12, 蛾 14



標本提供：富山市科学博物館

（文責：川端 一旗）

オレクギリンガ (チョウ目・コブガ科) *Parhylophilacelsiana* (Staudinger, 1887)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本州山地に分布するが、極めて局地的である。有峰では限られた所にだけ生息し個体数が少ない。

形態

開張 26mm 前後。前翅は緑色で白色の外横線が目立つ。後翅は暗灰色。

国内の分布状況

本州の中部および北部の山地。

県内の分布状況

富山市：立山カルデラ；有峰。

生態・生息環境

ドロヤナギが食樹と考えられている。詳しい生態は不明である。

生存への脅威（減少の要因）

生息地のひとつ有峰は徐々に開発が進行しているので、生息地が狭められている。

保全対策

生態が不明なので言及できないが、開発を最小限に抑えなければならない。

引用文献

蛾 23, 蛾 31, 蛾 34

標本提供：山中 浩



(文責：富沢 章)

キシタアツバ (チョウ目・ヤガ科) *Hypena claripennis* (Butler, 1878)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

主に低地の草地に生息しているが、全国的に少ない。

形態

開張 30mm 前後。前翅は基半が黄褐色を呈し、外半は暗紫灰色。後翅は黄色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

朝日町：笛川；南保、黒部市：新堂；柄屋、上市町、富山市：庵谷；呉羽丘陵；浜黒崎、南砺市：医王山。

生態・生息環境

成虫は4~9月に出現。食草はヤブマオ。低地～里山の草地に生息している。

生存への脅威（減少の要因）

低地の草地が宅地開発などにより減少している。

保全対策

低地の草地環境の改変は最小限に抑えるべきである。

引用文献

蛾 14, 蛾 24, 蛾 33



標本提供：川端 一旗

(文責：川端 一旗)

カギモンハナオイアツバ (チョウ目・ヤガ科) *Cidariplura signata* (Butler, 1879)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国的に減少している。

形態

開張 28~32mm。前翅は淡灰褐色で L 字の黒い紋がある。



国内の分布状況

本州、四国、九州、屋久島。

県内の分布状況

朝日町：南保；山崎、黒部市：新堂、上市町、富山市：池多。

生態・生息環境

成虫は 6 月~9 月に出現。食草や生態は不明だが河川敷などの水に近い草原で見られる。

標本提供：川端 一旗

生存への脅威（減少の要因）

河川敷などの水辺の草原が改修により減少している。

保全対策

生態が明らかではないが、河川敷や水辺の草原の改変は最小限に留める必要がある。

引用文献

蛾 14, 蛾 25, 蛾 38

(文責：川端 一旗)

ミヤマキシタバ (チョウ目・ヤガ科) *Catocala ella ella* Butler, 1877

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

分布が全国的に局地的で、県内産地も限られる。

形態

開張 55mm 前後。後翅は濃い黄色で、中央黒帯は外縁の黒色部とつながらない。



国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以東）。

標本提供：富山市科学博物館

県内の分布状況

黒部市：阿曾原；鐘釣；樺平、富山市：立山カルデラ；有峰。

生態・生息環境

年 1 化で 7~9 月に発生する。標高 300m 以上のハンノキ林に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

林道工事や開発によりハンノキ林が消滅する恐れがある。

保全対策

生息地のハンノキ林の保全。

特記事項

低標高地の記録（呉羽山、宇奈月町赤田）は移動個体と思われる。

引用文献

蛾 9, 蛾 22, 蛾 37

(文責：富沢 章)

ナマリキシタバ (チョウ目・ヤガ科) *Catocala columbina yoshihikoi* Ishizuka, 2002

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が山間地の岩場に限られていて局地的な種である。個体数も少ない。

形態

開張 50mm 前後。前翅は鉛色で後翅は黒地に黄色の帯を持つ。



国内の分布状況

本州（新潟県および関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市：阿曽原、立山町：称名峠、富山市：立山カルデラ。

生態・生息環境

年 1 化で、8~10 月に発生する。山間地の岩場に生育するシモツケ属が食樹である。

標本提供：澤田 研太

生存への脅威（減少の要因）

観光開発や林道工事などで生息環境が破壊される恐れがある。

保全対策

生息地のひとつ称名峠は今後、開発が進行する恐れがあるので、保全に配慮すること。

引用文献

蛾 27, 蛾 29, 蛾 31

（文責：富沢 章）

コシロシタバ (チョウ目・ヤガ科) *Catocala actaea* Felder & Rogenhofer, 1874

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地は低標高地がほとんどで、開発されやすい地域であり、全国各地で減少している。

形態

開張は 55mm 前後。前翅は黒褐色、後翅は黒色で大きな白斑がある。



国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市：有峰、南砺市：医王山、福光町：小院瀬見、高岡市：伏木、小矢部市：埴生、氷見市：白ヶ峰。

標本提供：
富山市科学博物館

生態・生息環境

年 1 化で、成虫は 6~9 月まで発生し、食樹はクヌギなどである。生息地は標高 200m 以下に多く、有峰は特異的である。

生存への脅威（減少の要因）

低標高地では宅地開発や道路建設などの土地開発が進み、生息地が減少している。

保全対策

クヌギの多い平地林や里山の保全が本種の保護につながる。

引用文献

蛾 1, 蛾 34, 蛾 40

（文責：富沢 章）

キスジウスキヨトウ (チョウ目・ヤガ科) *Globia sparganii* (Esper, 1790)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

環境が変化しやすい湿地の指標種として多くの県でレッドリストに選出されている。

形態

開張 29~44mm。前翅は灰黄褐色~赤褐色の変異があり、不鮮明な腎状紋は下端が黒点に挟まれる。



標本提供：川端 一旗

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

朝日町：笛川；山崎、富山市：呉羽丘陵。

生態・生息環境

年1化。成虫は6~9月に出現。食草はガマ、ミクリなど。湿地環境に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

湿地性の植物に依存するため、湿地帯の開拓や狭小化が脅威となる。

保全対策

湿地帯の改変が行われないよう現状を維持する。

引用文献

蛾 16

(文責：川端 一旗)

ミネトワダカワゲラ (カワゲラ目・トワダカワゲラ科) *Scopura montana* Maruyama, 1987

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地から高山域の清冽な溪流に生息する。生息環境が限定され、近年確認された産地も少ない。

形態

体は細長い円筒形で暗褐色。幼虫では腹端に糸状の鰓束が環状に配列する。成虫は無翅。



標本提供：
富山市科学博物館

国内の分布状況

本州中部。

県内の分布状況

朝日町から立山町、南砺市にかけての高山から山地の溪流。

生態・生息環境

水温の低い源流域や山間の細流。淵の周辺部や落ち葉の間などに見られる。成虫は無翅であり、移動性が乏しいと考えられる。

生存への脅威（減少の要因）

溪流の環境変化。

保全対策

溪流の環境保全、水質汚染防止。

引用文献

直 1

(文責：根来 尚)

ヒメカマキリ (カマキリ目・ヒメカマキリ科) *Acromantis japonica* Westwood, 1889

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

平地～丘陵地の林内・林縁に生息するが、産地は限定され個体数は少なく、近年確認された産地も少ない。

形態

小型のカマキリ。緑色型、褐色型がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

滑川市や礪波市、小矢部市等平地～丘陵地の数ヶ所で記録されている。最近では朝日町で生息確認がされている。

生態・生息環境

平地～丘陵地の照葉樹林、雑木林の林縁樹上、灌木(かんぼく)上に棲む。

生存への脅威（減少の要因）

樹林の開発伐採、環境変化。

保全対策

照葉樹林、雑木林の環境保全。

引用文献

直 1

撮影：根来 尚

(文責：根来 尚)



ニホントビナナフシ (ナナフシ目・トビナナフシ科) *Micadina phluctaenoides* (Rehn, 1904)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

寺社の境内などの照葉樹林にみられ、生息場所が限られる。県内では 1 カ所で確認されているのみ。

形態

短い翅をもつナナフシ類。頭部から胸部にかけて側面が黄褐色をしている。後翅は鮮やかな赤色。

国内の分布状況

本州（北陸以南）・四国・九州・沖縄に分布。

県内の分布状況

氷見市の 1 カ所で確認されているのみ。

生態・生息環境

広葉樹林に生息し、成虫は主にシイの葉を餌とする。九州以北ではオスはほとんど見られない。

生存への脅威（減少の要因）

樹林の伐採や開発等の環境変化。

保全対策

生息地の樹林の保全。

引用文献

直 5



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

クギヌキハサミムシ (ハサミムシ目・クギヌキハサミムシ科) *Forficula scudderii* Bormans, 1880

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

丘陵地から山地の樹林で見られるが、生息場所が限られ個体数も少ない。

形態

体長は 20~30mm ほど。頭部は橙赤色。脚は淡黄色。雄の前翅は黒色で黄色い斑紋があり、尾鉄は中央で大きく湾曲しクギヌキ状。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）、九州の一部の山地に分布。

県内の分布状況

富山市大山町、南砺市城端町等 2 カ所で確認されているのみ。

生態・生息環境

山地性で、樹皮下、倒木や石の下で見られる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の改変。

保全対策

立ち枯れ、倒木等を含めた安定した森林環境の保全。

引用文献

直 1



撮影：岩田 朋文

(文責：根来 尚)

ヒサゴクサキリ (バッタ目・キリギリス科) *Palaeoagraecia lutea* (Matsumura et Shiraki, 1908)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

最近生息が確認されたが、現在、丘陵地での 1 例があるのみ。分布北限。

形態

大型のキリギリス。体色は淡褐色、背面に濃褐色の帯、顔面に緑色斑紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

富山市呉羽丘陵で 2010 年に発見された 1 例のみ。

生態・生息環境

メダケ、マダケなどの竹藪に生息。

生存への脅威（減少の要因）

竹林の開発、伐採。

保全対策

生息地の維持・保全。

引用文献

直 1



標本提供：富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

クマコオロギ (バッタ目・コオロギ科) *Mitius minor* (Shiraki, 1913)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

湿った草地に生息するが、産地・個体数とも少なく、近年確認された産地も少ない。日本海側分布北限（新潟県）に近い。

形態

小型のコオロギ。体色は黒色、脚は赤褐色。ハネはやや短い。リッ、リッと鳴く。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬、種子島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、礪波市、高岡市等平地から丘陵地の山際の水田周辺や河川敷約 10 ヶ所で記録があるが、最近の記録がない。

生態・生息環境

平地から丘陵地の湿った草原に生息。

生存への脅威（減少の要因）

湿田の乾田化。草地の乾燥化等の生息環境の変化。

保全対策

年中湿った環境にある草地の維持・保全。

引用文献

直 1

標本提供：富山市科学博物館



(文責：根来 尚)

クマスズムシ (バッタ目・コオロギ科) *Sclerogryllus punctatus* (Brunner von Wattenwyl, 1893)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

湿った草地に生息するが、産地・個体数とも少なく、近年確認された産地も少ない。日本海側分布北限（新潟県）に近い。

形態

小型のコオロギ。体色は黒色、触角中ほどは白色。雄の前翅は幅広い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

朝日町、富山市、高岡市、小矢部市等の丘陵地の約 10 ヶ所から記録があるが、最近では朝日町の記録の他はない。

生態・生息環境

林周辺の湿った草地に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

生息地の開発、草地の乾燥化等の生息環境の変化。

保全対策

林と周辺草地の維持・保全。

引用文献

直 1



撮影：岩田 朋文

(文責：根来 尚)

ヒメスズ (バッタ目・ヒバリモドキ科) *Pteronemobius nigrescens* (Shiraki, 1911)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

森林林床に生息し、現在丘陵地で 1 例の記録があるのみ。日本海側分布北限。

形態

小型のコオロギ類。黒褐色で光沢があり、小顎髭が白い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

砺波市頼成山での記録が 1 例あるのみ。

生態・生息環境

落ち葉のたまつた薄暗い森林林床部や林縁。

生存への脅威（減少の要因）

森林開発、伐採。林床の整備。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

直 1



標本提供：
富山市科学博物館

(文責：根来 尚)

ミゾナシミズムシ (カメムシ目・ミズムシ科) *Cymatia apparens* (Distant, 1910)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内記録はわずか。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

頭部は黄色。前胸背板に横筋状の黒い斑紋が数本ある。上翅に雲状の黒い斑紋がある。前脚は細長い。中型のミズムシ。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)8



標本提供：澤田 研太

(文責：岩田 朋文)

イトアメンボ (カメムシ目・イトアメンボ科) *Hydrometra albolineata* (Scott, 1874)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内記録はわずか。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が暗褐色。体はきわめて細長い。脚はさらに細長く、針金状。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地、河川のよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

半(水)1, 半(水)15

(文責：岩田 朋文)



標本提供：岩田 朋文
(山梨県産)

ヨコヅナツチカメムシ (カメムシ目・ツチカメムシ科)

Adrisa magna (Uhler, 1860)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

産地、個体数が少なく、最近の記録が無い。

形態

全体が金属的光沢の黒色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、魚津市北山で採集された記録がある。

生態・生息環境

照葉樹林の落ち葉の中で生活。灯火に飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

照葉樹林の開発。

保全対策

照葉樹林の保護。

引用文献

半(陸)3



撮影：岩田 朋文

(文責：渡辺 譲)

アオクチブトカメムシ (カメムシ目・カメムシ科)

Dinorhynchus dybowskyi Jakovlev, 1876

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では、生息場所は局所的で、発生個体数も少ない。

形態

大型で全体が金属的な光沢のある緑色で良く目立つ。ツノアオカメムシと間違えられることがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市宇奈月、富山市有峰、南砺市福光で記録がある。

生態・生息環境

山地に生息し、幼虫はチョウ目の幼虫を襲う。秋に成虫が建物に越冬飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

山地の自然林の伐採、植林、開発等による食餌幼虫の減少。

保全対策

山地の自然林の保全。

引用文献

半(陸)1



標本提供：
渡辺 譲

(文責：渡辺 譲)

オオツノカメムシ (カメムシ目・ツノカメムシ科) *Acanthosoma giganteum* Matsumura, 1913

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地性で産地、個体数とともに少ない希少種。

形態

緑色で前翅に微小黒点がる。前胸側角は赤色で鋭く側方に突き出る。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市宇奈月温泉、富山市大山町原で記録があるのみ。

生態・生息環境

ケンボナシに寄生、成虫はミズキでも見られる。

生存への脅威（減少の要因）

低山地、丘陵の開発。

保全対策

丘陵地、低山での開発、工事の抑制。

引用文献

半(陸)1

(文責：渡辺 護)



標本提供：渡辺 護

フタオセンブリ (ヘビトンボ目・センブリ科)

Sialis bifida Hayashi & Suda, 1997

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国で記録が少ない種であり、県内記録もわずか。環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が黒色。各翅は褐色。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

上市町。

生態・生息環境

水質がよい池や湿地に生息するとみられる。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

広 1

(文責：岩田 朋文)



標本提供：富山市科学博物館

キスジラクダムシ (ラクダムシ目・キスジラクダムシ科)

Mongoloraphidia harmandi (Navás, 1909)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録はわずか。県内ではもともと個体密度が低いと推測され、開発などの生息地の変更で容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が黒色。頭部は細長い。各翅の縁紋の半分が、もう半分よりも薄い。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地の森林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

伐採などによる森林の消失。シカの増加による乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

ラ 1

(文責：岩田 朋文)

コカスリウスバカゲロウ (アミメカゲロウ目・ウスバカゲロウ科) *Distoleon contubernalis* (McLachlan, 1875)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録はわずか。開発・かく乱されやすい海浜や河川敷の砂地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が褐色で、腹部に明褐色の斑紋が散在する。各翅に小さい黒色の斑紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

海浜や河川の砂地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

海岸開発などによる砂地の消失。車の乗り入れなどによる砂地のかく乱。

保全対策

適度な河川増水などによる砂の供給量維持。車の乗り入れ制限。

引用文献

脈2



標本提供：
富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

クシヒゲカゲロウ (アミメカゲロウ目・クシヒゲカゲロウ科) *Dilar japonicus* McLachlan, 1883

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録はわずか。県内ではもともと個体密度が低いと推測され、開発などの生息地の変更で容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が褐色。各翅に褐色の斑紋が散在する。オスの触角は櫛ひげ状。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、南砺市、小矢部市。

生態・生息環境

山地の森林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

伐採などによる森林の消失。シカの増加による乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

脈2, 脉3

（文責：岩田 朋文）

コミズスマシ (コウチュウ目・ミズスマシ科) *Gyrinus curtus* Motschulsky, 1866

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

県内記録はわずか。全国で激減しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が光沢のある黒色。外見で同属他種との識別は困難。オス交尾器中央片はやや細く、その先端はややとがる。ミズスマシより若干小型。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

新鮮な湧き水が流入するような、水質がよい植生豊富な池や水路のよどみに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬や湧水の枯渇などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湧水にも配慮した湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a16

(文責：岩田 朋文)

ミヤマミズスマシ (コウチュウ目・ミズスマシ科) *Gyrinus sachalinensis* Kamiya, 1936

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録はわずか。砂防工事などで改変されやすい林内の池に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が光沢のある黒色。外見で同属他種との識別は困難。オス交尾器中央片は細く、その先端は鋭くとがる。ミズスマシと同サイズ。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水質がよく薄暗い山地の池に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事などによる林内の池の消失。シカの増加などによる乾燥化。

保全対策

水脈にも配慮した森林の維持。シカやイノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a3

(文責：岩田 朋文)

コガタノゲンゴロウ (コウチュウ目・ゲンゴロウ科) *Cybister tripunctatus* (Olivier, 1795)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内では 1950 年代以降、長らく追加記録はなかったが、2018 年に 1 頭が再発見された。環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

背面の大部分は深緑色。前胸背板と上翅の両側は黄色に縁取られる。腹面は黒色。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、上市町、富山市、高岡市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a21

(文責：岩田 朋文)

クチキゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Morion japonicum* Bates, 1883

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内記録は 1938 年以前の 1 例のみと思われる。全国で減少しているうえ、県内の分布範囲はもともと狭いと推測されるため、生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が黒色。前胸背板はほぼ正方形。上翅は条線が目立つ。

国内の分布状況

北海道、本州、九州、南西諸島。

県内の分布状況

立山町。

生態・生息環境

朽ち木の多い原生林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事や伐採などによる森林の消失。シカの増加による乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

鞘 a1

(文責：岩田 朋文)

ヒゲナガホラヒラタゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科) *Jujiroa imunada* Ueno, 1993

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は 1 例のみと思われる。県内の分布範囲はもともと狭いと推測されるため、開発などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が赤褐色。複眼は小さい。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

山地の湿潤な地下浅層に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事や伐採などによる森林の消失。シカの増加などによる乾燥化。

保全対策

地下水脈にも配慮した森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

鞘 a26



標本提供：惣名 実

(文責：岩田 朋文)

ウエダオオズナガゴミムシ (コウチュウ目・オサムシ科)

Pterostichus uedaorum Morita & Hirasawa, 1996

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は 1 例のみと思われる。県内の分布範囲はもともと狭いと推測されるため、開発などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が赤褐色。頭部は大きく、複眼は小さい。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

山地の湿潤な地下浅層に生息。

生存への脅威（減少の要因）

砂防工事や伐採などによる森林の消失。シカの増加などによる乾燥化。

保全対策

地下水脈にも配慮した森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

鞘 a24



標本提供：惣名 実

(文責：岩田 朋文)

クロヒメヒラタタマムシ本州中部亞種 (コウチュウ目・タマムシ科)

Anthaxia (Melanthaxia) reticulata shinano Y. Kurosawa, 1963

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は 1 例のみ、生息地が限定的。

形態

体長 4~8mm。体は光沢を帯びた黒色。

国内の分布状況

本州中北部。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生息環境

マツ類を寄生木とし、成虫は各種の花に集まる。県内ではブナ帯上部～亜高山帯の針葉樹林に生息すると思われ、7 月にナナカマドの花より採集されている。

生存への脅威（減少の要因）

針葉樹林の消失。森林環境の変化。

保全対策

山地帯上部～亜高山帯の針葉樹林の保全。

引用文献

鞘 b12, 鞘 b13



撮影：澤田 研太

(文責：澤田 研太)

ホソクロナガタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科) *Agrius kawarai* Kurosawa, 1963

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。分布の北限と思われる。

形態

体長 7.0～9.5mm。体色は黒味を帯びた褐色から緑褐色。上翅には 1～2 対の白色毛紋をもつ。



国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町から 1 例の記録があるのみ。

生態・生息環境

成虫は 6 月末～8 月に出現し、マメ科のフジキやユクノキにつく。

生存への脅威（減少の要因）

生息環境の変化、消失。

標本提供：澤田 研太

保全対策

ユクノキが生育する植生の保全。

引用文献

鞘 b59

(文責：澤田 研太)

クロケシタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科) *Aphanisticus congener* E. Saunders, 1873

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的で改変されやすい。生息情報が少ない。

形態

体長 3mm 前後。全身黒色で体形は太短い。顔面は浅く窪む。上翅の点刻は後半で不明瞭。



国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

成虫は初秋に出現し、河川敷のイネ科植物に見られる。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、河川敷の整備による生息環境の変化。

標本提供：澤田 研太

保全対策

生息地である草地の維持、保全。

引用文献

鞘 b12, 鞘 b58

(文責：澤田 研太)

ホソツツタマムシ (コウチュウ目・タマムシ科) *Paracylindromorphus japanensis* E. Saunders, 1873

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的で改変されやすい。生息情報が少ない。

形態

体長 4.0～5.5mm。体形は細長い筒状。上翅の横皺は基半部で強い。



国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

成虫は 6 月頃に出現し、河川敷のイネ科植物に見られる。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、河川敷の整備による生息環境の変化。

撮影：澤田 研太

保全対策

生息地である草地の維持、保全。

引用文献

鞘 b58

(文責：澤田 研太)

ハイケボタル (コウチュウ目・ホタル科) *Luciola lateralis* Motschulsky, 1860

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するうえ、光害や他地域個体群の放流による遺伝子汚染など、生存への脅威が多いため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

頭部と上翅は黒色。前胸背板は赤色で、中央に縦筋状で黒色の太い斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、富山市、小矢部市。

生態・生息環境

水質がよい池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。他地域個体群の放流による遺伝子汚染。人工灯による光害。

保全対策

光害にも配慮した湿地の維持。下水処理の徹底。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。他地域個体群の放流禁止。

引用文献

鞘 a1



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

ゲンジボタル (コウチュウ目・ホタル科) *Luciola cruciata* Motschulsky, 1854

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

開発・かく乱されやすい小河川に生息するうえ、光害や他地域個体群の放流による遺伝子汚染など、生存への脅威が多いため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

頭部と上翅は黒色。前胸背板は赤色で、中央に縦筋状の黒い斑紋があり、その黒い斑紋は中央部で橢円形に膨らむ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、南砺市。高岡市、小矢部市。

生態・生息環境

水質がよく流れの緩やかな小河川や水路に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる小河川の消失。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。他地域個体群の放流による遺伝子汚染。人工灯による光害。

保全対策

光害にも配慮した自然河川の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。他地域個体群の放流禁止。

引用文献

鞘 a1



標本提供：富山市科学博物館

（文責：岩田 朋文）

ホソゴマフガムシ (コウチュウ目・ガムシ科) *Berosus pulchellus* W. S. MacLeay, 1825

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は 1990 年代までしかないと思われる。環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

体は細長い半球型。頭部と前胸背板中央部は黒色。上翅の間室には黒い小さい点刻がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、南砺市。

生態・生息環境

水質がよく植生豊富な池、水田、湿地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。イノシシの掘り返しなどによる湿地のかく乱。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

鞘 a3, 鞘 a2, 鞘 a10

(文責：岩田 朋文)

クチキマグソコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科)

Aphodius (Stenotothorax) hibernalis hibernalis (Nakane & Tsukamoto, 1956)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

発生環境が限られる。県内の記録は 1 例のみであり、産地における個体数も少ない。

形態

体長 7.5~8.0mm。体は黒褐色。背面は無毛で光沢がある。頭部はゆるく膨隆し、表面は点刻を密に散布する。頬はよく突出し頭楯の前縁中央は深く湾入する。前胸背板の表面はやや光沢があり、大小の点刻を密に散布する。上翅は強い条溝がある。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

樹洞を備えた大木が生育する自然度の高い森林に生息する。林内の獸糞に集まり、幼虫は樹洞内に堆積したフレークの中から見つかることがある。初冬に個体数を増す。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

樹洞を備えた大木が生育する森林環境の保全。

引用文献

鞘 b16



標本提供：
惣名実

(文責：澤田 研太)

ヒメカンショコガネ (コウチュウ目・コガネムシ科) *Apogonia amida* Lewis, 1896

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では平野部河川敷周辺で少数の採集例があるのみ。生息域は環境が改変されやすい場所にある。

形態

体長 7.0～8.5mm。体は太短く丸みを帯び、全身僅かに紫がかった黒色で光沢がある。頭部と前胸背板にはややまばらに微弱点点刻がある。前胸背板の側縁部前角付近に著しい反りはない。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、四国、九州、五島列島。

県内の分布状況

黒部市、立山町、富山市。

生態・生息環境

平地の開墾地、草地、河川敷等に見られる。灯火にも飛来する。生態については不明な点が多い。

生存への脅威（減少の要因）

河川敷の整備。砂地や草地の消失や減少。

保全対策

草地、河川敷の環境保全。

引用文献

鞘 b17, 鞘 b19, 鞘 b22, 鞘 b45, 鞘 b62

(文責：澤田 研太)

オワラダルマガムシ (コウチュウ目・ダルマガムシ科) *Hydraena namiae* Jäch & Díaz, 2016

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山市八尾町柄折が模式産地であり、学術的に重要な生息地であるが、砂防工事などで容易に消失しやすい。

形態

全身が赤褐色。微小な甲虫。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水質がよい小河川の落ち葉だまりなどに生息。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修などによる河川内によどみの消失。土砂の流入などによる水質汚濁。洪水の頻発による流下の増加。

保全対策

自然河川の維持。下水処理の徹底。多自然川づくりの徹底。

引用文献

鞘 a27

(文責：岩田 朋文)

ボウズナガクチキ (コウチュウ目・ナガクチキムシ科) *Bonzicus hypocrita* Lewis, 1895

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境は人里近くであり、開発により消滅の可能性が高い。

形態

体長 10~17mm。体は紡錘形。黒色で体表面にはつやがある。前胸背板は基部両側に短い縦溝がある。上翅は平滑。各腹節と脚に橙黄色の部分がある。

国内の分布状況

北海道、本州、佐渡島、四国、九州。

県内の分布状況

県内では 1 例（氷見市）のみ記録がある。

生態・生息環境

成虫は各種広葉樹の朽ち木に見られる。地域によっては高標高の山地にも生息するが、県内で確認されている産地は丘陵地である。

生存への脅威（減少の要因）

立ち枯れ木や倒木の除去。森林環境の変化。丘陵地の開発。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b24

（文責：澤田 研太）

クロゴミムシダマシ (コウチュウ目・ゴミムシダマシ科) *Neatus picipes* (Herbst, 1797)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が限定的。確実な産地が少ない。

形態

体長 12~17mm。暗赤褐色～黒褐色で光沢がある。頭部は小点刻を密にもつ。前胸背板前縁は中央付近を除き縁どられる。上翅は明瞭な条溝をもち、間室はやや盛り上がる。

国内の分布状況

北海道、本州、粟島、佐渡、四国、九州、大隅諸島、伊豆諸島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、南砺市、高岡市。

生態・生息環境

主に山地帯の森林の樹洞内に生息する。成虫は大木の樹洞内や倒木の樹皮下に潜んでいる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。発生木の伐採、除去。

保全対策

樹洞を伴う樹木および森林環境の保全。

引用文献

鞘 b17, 鞘 b18, 鞘 b44



標本提供：澤田 研太

（文責：澤田 研太）

キイロクチキムシ (コウチュウ目・ゴミムシダマシ科) *Cteniopinus hypocrita* (Marseul, 1876)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録が古いものしかなく、その後の生息情報がない。

形態

体長 11~13mm。体は黄色で、触角、下唇鬚、腿節端、脛節、跗節は暗褐色～黒色。上翅の毛は黄色、前胸背板の毛の多くは暗褐色。

国内の分布状況

本州、隠岐、淡路島、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市。1937 年に黒部市から記録があり標本も残されている。その後は記録がない。

生態・生息環境

全国的には低山帯～亜高山帯にかけて幅広い垂直分布を示す。成虫は 6~7 月に出現し、ミズキ、クリ等の花に集まる。灯火にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

生息地周辺の森林環境の保全。

引用文献

鞘 b17, 鞘 b18

(文責：澤田 研太)

クロジュウニホシテントウ (コウチュウ目・テントウムシ科) *Plotina versicolor* Lewis, 1896

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録はわずか。県内の分布範囲はもともと狭いと推測され、開発などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

前胸背板の中央部に黒い斑紋がある。上翅は赤色、黄色、黒色の斑紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

常緑広葉樹の樹幹に生息するとみられている。



標本提供・撮影：野村 孝昭

生存への脅威（減少の要因）

道路建設や伐採などによる森林の消失。シカの増加などによる乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

鞘 a52

(文責：岩田 朋文)

カクムネヒメハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Pseudopidonia orientalis* (Matsushita, 1933)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が極めて少なく、近年の調査で確認できない。分布の北限と思われる。

形態

体長 7~11mm。頭部、胸部は黄褐色。前胸背板はソロバンの珠型。上翅の側部縦状紋は細く前後に伸び、前方は肩部を覆う紋と繋がり、後方は翅端の手前で細くなりながら内側に向かって湾曲し消失する筆字の「払い」に似た形。オスは紋が細く、時に痕跡程度に薄い個体や消失するも個体もみられる。翅端には黒紋を持たない。触角は黄褐色で、第3~10節の先端は黒ずむことが多くダンダラ模様となる。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市南部の山地から1例の記録があるのみ。

生態・生息環境

亜高山帯針葉樹林に生息する。7~8月に出現し、ナナカマド、オニシモツケ、ヤマブキショウマ、オガラバナなどの花に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b49, 鞘 b50

(文責：澤田 研太)

ケブトハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Caraphia lepturoides lepturoides* (Matsushita, 1933)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。富山県は分布域日本海側の北限。

形態

体長 10~15mm。全身艶消しの褐色で微毛に覆われる。前胸背板は縦長で前方が狭まる。上翅は点刻を密に備える。触覚はオスメス共に翅端を大きく超える。

国内の分布状況

本州、伊豆諸島、四国、九州、対馬、五島列島、甑島列島、種子島、屋久島、口永良部島、トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島。

県内の分布状況

立山町の1地点から、1981年と2013年にそれぞれ1個体ずつ記録がある。

生態・生息環境

クサギやアカメガシワを寄生木とし、燈火に飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

生息地周辺の環境変化。

保全対策

生息地周辺環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b6, 鞘 b57



標本提供：立山カルデラ砂防博物館

(文責：澤田 研太)

シララカハナカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Judolia parallelopipeda* (Motschulsky, 1860)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が極めて少ない。生息環境が限定されている。

形態

体長 8~14mm。体は黒色。上翅には黄色の紋があるが、変異が多い。ヤマトキモンハナカミキリに似るが、より大型で体は幅広く、触角の第4節は第3節より明らかに短い。

国内の分布状況

北海道、礼文島、利尻島、千島列島、本州。本州では極めて局所的に分布している。

県内の分布状況

富山市南部の山地から2例記録がある。

生態・生息環境

亜高山帯～高山帯に生息する。ナナカマド、ショウマ類などの花に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

亜高山帯、高山帯の環境変化。

保全対策

亜高山帯、高山帯の植生保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b8, 鞘 b10

(文責：澤田 研太)

スネケブカヒロコバネカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Merionoeda (Macromolorchus) hirsuta* (Mitino & Nishimura, 1936)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に産地は局所的であり、県内産地も1地点のみ。

形態

体長 9~14mm。前胸背板はオスが黒色、メスは橙色で光沢があり、中央部の側方に1対、中央部後方に1つ、側縁に1対の隆起を持つ。上翅は短く光沢がある。後翅は黒色。後脚の腿節には球形の肥大部があり黒色の立毛を密生、脛節には金色の立毛が密生する。



標本提供：澤田 研太

国内の分布状況

本州、隠岐、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

富山市の1地点から記録がある。

生態・生息環境

ネムノキに寄生する。盛夏に低山帯に出現し、ネムノキの衰弱木に集まるほか、リョウブ、カラスザンショウなどの花にもよく飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b3

(文責：澤田 研太)

ムモンベニカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Amarysius sanguinipennis adachii* Fujita, 2023

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が極めて少なく、近年の記録がない。

形態

体長 12~17mm。体は細長く黒色。触角、脚も黒色で上翅は赤色。頭部と前胸背板には立毛が密に生える。触角は第3節以降が鋸歯状。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

寄生植物はカシワ、コナラ、クリ、ナラガシワ、ケヤキ、セイヨウリンゴなど。野外での成虫は極めて稀で、飛翔中の個体や吹き上がってきた個体が稀に採集される程度。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境の保全。

引用文献

鞘 b2, 鞘 b55

(文責：澤田 研太)

イボタサビカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科) *Sophronica obrioides* (Bates, 1873)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息地が限定的。

形態

体長 5.0~8.5mm。体は明るい赤褐色で、全身に白い長立毛を密生する。

国内の分布状況

本州、伊豆諸島、冠島、四国、九州、対馬、筑前沖の島、五島列島、種子島、屋久島、口永良部島、トカラ列島、奄美諸島。

県内の分布状況

氷見市の丘陵地からのみ記録がある。

生態・生息環境

低山帯に生息。ティカカズラ、クワ、ノブドウ、イボタノキを寄生植物とする。成虫はティカカズラの衰弱部にみられ、灯火にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境の変化。

保全対策

森林環境、特に丘陵地や沿岸部の自然林の保全。

引用文献

鞘 b2

(文責：澤田 研太)

ニセヤツボシカミキリ (コウチュウ目・カミキリムシ科)

Saperda subobliterata Pic, 1910

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息情報が少ない。生息環境が限定的。

形態

体長 9~13mm。前胸背板の背面には 1 個の大黒色紋があるが中央で縦に分断される個体もある。側面にも黒色紋をもつ。背面は灰青色の微毛で覆われる。上翅には 4 対の黒色紋をもつ。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市南部から 1 例のみ記録がある。

生態・生息環境

ハルニレ、オヒヨウなどの広葉樹を寄生木とする。成虫はハルニレの葉脈を裏側から後食する。灯火にも飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

森林や山間湿地の環境変化、消失。

保全対策

ハルニレ、オヒヨウが生育する森林環境の保全。

特記事項

本種の唯一の記録地は、ハルニレについても県内における数少ない生育地で、ダムの建設や道路整備によりその群落は断片的なものとなっている。

引用文献

鞘 b32

（文責：澤田 研太）

オオルリハムシ (コウチュウ目・ハムシ科)

Chrysolina virgata (Motchulsky, 1860)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では 2015 年に初めて発見され、これまでに 2 か所でのみ記録されている。開発などで改変されやすい人里近くの草地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が金属光沢のある緑色、赤色、紺色、さらには二色以上が入り混じった色の個体など、個体変異に富む。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

射水市、氷見市。

生態・生息環境

平地から丘陵地の湿った草地に生息し、シロネ類に集まる。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる草地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。イノシシの掘り返しなどによる草地のかく乱。

保全対策

草刈りなどによる草地の維持。イノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a42, 鞘 a43

（文責：岩田 朋文）

オオサルハムシ (コウチュウ目・ハムシ科) *Chrysochus chinensis* Baly, 1859

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内記録は 1970 年代までの数例のみと思われる。開発などで改変されやすい人里近くの草地に生息するため、県内では絶滅に瀕していると考えられる。

形態

全身が金属光沢のある紺色。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の湿った草地に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる草地の消失。圃場整備や植生遷移などによる乾燥化。イノシシの掘り返しなどによる草地のかく乱。

保全対策

草刈りなどによる草地の維持。イノシシの個体密度管理。

引用文献

鞘 a23

（文責：岩田 朋文）

ババツマグロシリシアゲ (シリアゲムシ目・シリアゲムシ科) *Panorpa babai* Miyamoto, 1979

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

中部地方の山岳部に生息する種であり、県内記録はわずか。県内の分布範囲はもともと狭いと推測され、開発などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

各翅の端のみが黒い。



標本提供：富山市科学博物館

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市。

生態・生息環境

山麓部の森林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

伐採などによる森林の消失。シカの増加による乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

長 1

（文責：岩田 朋文）

ホシシリアゲ (シリアゲムシ目・シリアゲムシ科) *Panorpa takenouchii* (Miyake, 1908)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

西日本と四国に生息する種であり、県内記録は1例のみと思われる。県内ではもともと個体密度が低いと推測され、開発などの生息地の改変で容易に絶滅する可能性がある。

形態

各翅に黒色の斑紋が散在する。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地の森林に生息。

生存への脅威（減少の要因）

伐採などによる森林の消失。シカの増加による乾燥化。

保全対策

森林の維持。シカの個体密度管理。

引用文献

長1

(文責：岩田 朋文)

ツノアカヤマアリ (ハチ目・アリ科) *Formica fukaiii* Wheeler, 1914

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

県内では、山地林縁の1カ所で記録があるのみ。最近の生息情報は無い。

形態

体長5mm程度の中型のアリ。腹部以外は赤褐色、腹部は黒い。頭部後縁中央は大きくくぼむ。

国内の分布状況

北海道、本州に分布。高標高の冷涼な地域を好む。

県内の分布状況

県内の記録は、立山町芦嶺寺のみ。

生態・生息環境

山地の明く乾燥した林縁、草地に枯れ草を集めて小規模な塚を作る。

生存への脅威（減少の要因）

山地の草原環境の改変。

保全対策

山地の草原環境の保全。

引用文献

膜1

(文責：根来 尚)



標本提供：
富山市科学博物館

タカネクロヤマアリ (ハチ目・アリ科) *Formica gagatoides* Ruzsky, 1904

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

高山性のアリで、温暖化が進むことで生息場所が減少する可能性が大きい。

形態

体長4~5mm。体色は黒色でヤマクロヤマアリに似るが、胸部が赤みを帯び、腹部の光沢がより強い。

国内の分布状況

大雪山、日本アルプス、八ヶ岳の高山域にのみ分布。

県内の分布状況

立山連峰の高山帯稜線部での2カ所の記録がある。うち1カ所（立山浄土山）で最近確認されている。

生態・生息環境

高山帯のハイマツ林周辺に営巣。コマクサの種子散布を行うことが知られている。

生存への脅威（減少の要因）

温暖化による、生息環境への悪影響が懸念される。

保全対策

高山帯の蟻類生息状況の調査が必要。地球の温暖化への対策。

引用文献

膜1

(文責：根来 尚)



撮影：根来 尚

フクイアナバチ (ハチ目・アナバチ科) *Sphex inusitatus fukuanus* Tsuneki, 1957

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

近年生息が確認されたが、県内では 1 ケ所の記録があるのみ。

形態

大型のアナバチ類。体は黒色。クロアナバチにたいへん似るが、顔面は黒色毛に覆われ、翅の黒みがより強い。

国内の分布状況

本州中西部、九州。

県内の分布状況

滑川市の丘陵地の 1 ケ所で記録があるのみ。

生態・生息環境

山道の道路脇や裸地に坑を掘り営巣し、ハネナシコロギスを狩る。

生存への脅威（減少の要因）

営巣適地およびハネナシコロギス生息場所である里山雑木林の減少。

保全対策

里山雑木林とその周辺部の環境保全。

引用文献

膜 1

(文責：根来 尚)

ネゴロメンハナバチ (ハチ目・ムカシハナバチ科) *Hylaeus (Hylaeus) aborigensis negoroi* Ikudome, 2004

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

高山性のハナバチで、温暖化が進むことで生息場所が減少する可能性が大きい。1 カ所で記録があるのみで、最近の情報は無い。

形態

体長約 5mm。顔面の黄色斑紋は雌では広く、雄には無い。

国内の分布状況

北アルプス、立山の高山域にのみ分布。

県内の分布状況

立山東一の越での 1 カ所の記録があるのみ。最近の情報は無い。

生態・生息環境

7 月から 8 月、高山帯お花畑のミヤマキンバイ花上で見られるが、営巣習性は不明である。

生存への脅威（減少の要因）

温暖化による、生息環境への悪影響が懸念される。

保全対策

高山帯の蜂類生息状況の調査が必要。地球の温暖化への対策。

引用文献

膜 1

(文責：根来 尚)



標本提供：富山市科学博物館

キバラハキリバチ (ハチ目・ハキリバチ科) *Megachile xanthothrix* Yasumatsu et Hirashima, 1964

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

最近、県東部の 2 カ所で発見されたが、個体数はたいへん少ない。

形態

体長 15mm 程度の大型のハキリバチ。体はほぼ黄褐色の絨毛で覆われる。

国内の分布状況

本州（中部以南）・四国・九州に分布する。近年、宮城、群馬の各県でも記録され、北上中の種とされるが、いすこでも個体数は少ない。

県内の分布状況

最近、入善町、黒部市の黒部川下流部の 2 カ所で記録された。

生態・生息環境

主に海浜や河川敷といった環境に生息、大型マメ科植物が主な花粉源と思われる。

生存への脅威（減少の要因）

海浜や河川敷の自然環境の変化。

保全対策

海浜や河川敷の自然環境の保全。

引用文献

膜 1

(文責：根来 尚)

エサキニセヒメガガンボ (ハエ目・ニセヒメガガンボ科) *Protanyderus esakii* Alexander, 1932

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

生息環境が限られ、産地・個体数ともに稀な希少種。

形態

翅は淡褐色の斑紋がある。胸腹部は褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市宇奈月町で記録がある。

生態・生息環境

幼虫は渓流の川床で見られ、成虫は夏・秋に現れる。

生存への脅威（減少の要因）

ダム、道路建設等、山地渓流の環境変化。

保全対策

山間地での開発工事の抑制。

引用文献

双 2

標本提供：富山市科学博物館



(文責：渡辺 譲)

オオモリハマダラカ (ハエ目・カ科) *Anopheles omorii* Sakakibara, 1959

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

発生環境が限られ、産地・個体数ともに少ない。

形態

翅に斑紋が無い小型のハマダラカ。頭胸腹全体が黒色。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

立山町立山美女平で記録がある。

生態・生息環境

高標高地のブナなどの樹洞が幼虫の発生源。

生存への脅威（減少の要因）

樹洞が存在するような大木、老齢木の存在する山林の伐採、開発。

保全対策

山林の保護、保全。

引用文献

双 3, 4



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 譲)

ハクサンヤブカ (ハエ目・カ科) *Aedes hakusanensis* Yamaguchi et Tamaboko, 1954

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

高山、亜高山域に発生する。採集例が極めて少ない希少種。

形態

翅は透明、頭胸腹全体が明るい茶色の小型の蚊。

国内の分布状況

本州（富山県、石川県、岐阜県）。

県内の分布状況

立山町立山ブナ平、上の小平で記録が有るのみ。

生態・生息環境

幼虫は雪解け水の溜まりに一時的に発生する。

生存への脅威（減少の要因）

高原の雪解け水が溜る様な小さな窪地の減少、乾燥化。

保全対策

高山、亜高山域の環境保全、乾燥化の抑制。

引用文献

双 3, 4



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 譲)

シナハマダラカ (ハエ目・カ科) *Anopheles shinensis* Wiedemann, 1828

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年、著しく減少している。

形態

翅に斑紋があるハマダラカ。中型で頭胸腹全体が濃灰色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

かつては、県内の水田地帯で広く採集されたが、近年、記録されていない。

生態・生息環境

水田、池沼などが幼虫の発生源。

生存への脅威（減少の要因）

水田への殺虫剤散布。吸血源になる家畜飼養の減少。

保全対策

有機栽培の奨励。里山環境の復活。

引用文献

双 4, 5



標本提供：渡辺 護

(文責：渡辺 護)

トワダオオカ (ハエ目・カ科) *Toxorhynchites towadensis* (Matsumura, 1916)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

樹洞などから発生する。産地・個体数ともに極めて少ない希少種。

形態

翅は透明、胸腹部が藍色の光沢。大型で腹部末端に橙色の毛叢がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町立山美女平で記録がある。

生態・生息環境

ブナなどの樹洞が幼虫の発生源。昼間も飛翔する。

生存への脅威（減少の要因）

樹洞が存在するような大木、老齢木の存在する山林の伐採、開発。

保全対策

山林の保護、保全。

引用文献

双 3, 4



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 護)

エセチョウセンヤブカ (ハエ目・カ科) *Aedes koreicoides* Sasa, Kano et Hayashi, 1950

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

樹洞などから発生する産地・個体数ともに極めて少ない希少種。

形態

翅は透明。中型の頭胸腹全体が淡褐色。

国内の分布状況

北海道、本州（青森県、静岡県、富山県、奈良県）、四国（愛媛県）。

県内の分布状況

立山町立山美女平で記録があるのみ。

生態・生息環境

幼虫の発生源はブナなどの樹洞。

生存への脅威（減少の要因）

樹洞が存在するような大木、老齢木の存在する山林の伐採、開発。

保全対策

山林の保護、保全。

引用文献

双 3, 4



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 護)

コガタノミズアブ (ハエ目・ミズアブ科) *Odontomyia garatas* Walker, 1849

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

丘陵地での棚田で見られたが、近年見られなくなつて來た。

形態

翅は透明、メスの腹部は黄色、オスは蛍光的な緑色で目立つ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町、黒部市で記録がある。

生態・生息環境

里山景観の田園で幼虫生息、成虫は5~6月に発生。

生存への脅威（減少の要因）

圃場整備、農薬の利用。

保全対策

有機栽培の奨励。里山環境の復活。

引用文献

双2

標本提供：富山市科学博物館



(文責：渡辺 護)

ミズアブ (ハエ目・ミズアブ科) *Stratiomys japonica* Vonderwulp, 1885

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に急激に減少しており、本県でも減少が著しい。

形態

翅は薄い褐色透明。胸部は黒色、腹部は黄色と黒の縞模様。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、富山市、射水市、氷見市で記録がある。

生態・生息環境

幼虫は水田、池沼、湿地などに生息。成虫は5~9月に出現。

生存への脅威（減少の要因）

圃場整備などの乾田化と池沼などの埋め立て。

保全対策

池沼、湿地などの保全。

引用文献

双2

標本提供：富山市科学博物館



(文責：渡辺 護)

ハラビロミズアブ (ハエ目・ミズアブ科) *Clitellaria obtusa* (James, 1941)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

丘陵地、低山地に生息するが、産地、個体数ともに少ない。

形態

翅は褐色透明。全体が黒く、腹部が広い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町、黒部市で記録がある。

生態・生息環境

クロクサアリやクサアリモドキの巣に寄生。成虫は6~7月に発生。

生存への脅威（減少の要因）

クロクサアリやクサアリモドキの減少。

保全対策

山林の保全。

引用文献

双2

標本提供：富山市科学博物館



(文責：渡辺 護)

トヤマゴマニアブ (ハエ目・アブ科) *Haematopota toyamensis* Watanabe, Kamimura et Takahasi, 1976

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地で発生するが、産地、個体数とも極めて少ない希少種。

形態

細身で翅にごまだら模様がある。小型で全体が濃灰色。



国内の分布状況

本州（富山、岐阜県奥飛騨）。

県内の分布状況

黒部市宇奈月町、上市町、立山町、富山市、南砺市で記録がある。

生態・生息環境

幼虫は山林林床の苔、腐葉土に生息する。

標本提供：渡辺 譲

生存への脅威（減少の要因）

山林の開発、林床のかく乱、乾燥。

保全対策

山林の保護、林床の保全。

特記事項

本種は 1972 年に南砺市（旧福光町中河内）で採集され、新種記載された。

引用文献

双 1

（文責：渡辺 譲）

オオツルアブ (ハエ目・アブ科) *Tabanus otsurui* Ogawa, 1960

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山地で発生するが、産地、個体数とも極めて少ない希少種。

形態

一見、小型のクロバエに見える。胸腹部は光沢のない黒色。



国内の分布状況

本州（富山県、新潟県）。

県内の分布状況

黒部市（旧宇奈月町仙人谷）、富山市有峰大多和峠、富山市（旧山田村若土）で記録があるのみ。

標本提供：渡辺 譲

生態・生息環境

幼虫は滝などの水しぶきが掛かる苔に生息、成虫は灯火に飛来する。

生存への脅威（減少の要因）

ダム、道路建設等、山地渓流の環境変化。

保全対策

山地の開発の抑制。

引用文献

双 1

（文責：渡辺 譲）

クロバネツリアブ (ハエ目・ツリアブ科) *Ligyra tantalus* (Fabricius, 1794)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

河川敷など生息環境が限られた、産地・個体数ともに少ない希少種。

形態

翅は黒色、頭胸腹部も黒色だが、腹部の淡黄色の帯が目立つ。



国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町、黒部市、富山市呉羽丘陵、南砺市で記録がある。

標本撮影：渡辺 譲

生態・生息環境

河川敷の砂地で見られる、ツチバチ類に寄生する。

生存への脅威（減少の要因）

砂地の減少、河川敷の開発、工事。

保全対策

海浜、河川敷等の砂地環境の保護、保全。

引用文献

双 2

（文責：渡辺 譲）

トラフムシヒキ (ハエ目・ムシヒキアブ科) *Astochia virgatipes* (Coquillett, 1898)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い海浜や河口等限られた環境でみられ、産地、個体数とともに少ない。

形態

翅は透明。胸部は淡灰色に黒色の斑紋がある。腹部は濃灰色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市で記録がある。

生態・生息環境

海浜、河口および平野部の砂地などに生息。成虫は7~9月に出現。

生存への脅威（減少の要因）

海岸および河口の砂地減少、護岸整備工事、平野部草地の消失。

保全対策

海浜や河川敷の保全。

引用文献

双2



標本提供：
富山市科学博物館

(文責：渡辺 護)

オオイシアブ (ハエ目・ムシヒキアブ科) *Laphria mitsukurii* Coquillett, 1899

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い低山から山地の森林に生息するが、個体数は少なく減少している。

形態

翅は翅脈に沿って褐色、他は透明。胸腹部は黒色、腹部の末端部は橙色の長毛。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市有峰、富山市呉羽丘陵、富山市山田村、高岡市二上山、氷見市。

生態・生息環境

幼虫は朽ち木に生息、同じ朽ち木に棲む昆虫の幼虫など捕食。成虫は5~9月に出現。

生存への脅威（減少の要因）

太い朽ち木の消失、低山地の森林の開発。

保全対策

自然度の高い森林の保全。

引用文献

双2



標本提供：富山市科学博物館

(文責：渡辺 護)

ギンボシツツビケラ (トビケラ目・ヒゲナガトビケラ科) *Setodes argentatus* Matsumura, 1906

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内記録はわずか。全国で減少しているうえ、環境の劣化が著しい人里近くの湿地に生息するため、容易に絶滅する可能性がある。

形態

全身が明褐色。翅に縦筋状の白い斑紋が散在する。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

黒部市。

生態・生息環境

水質がよい池や水田などに生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発などによる湿地の消失。農薬などによる水質汚濁。外来生物による捕食や競争。

保全対策

湿地の維持。IPM などによる農薬使用の低減や下水処理の徹底。外来生物の駆除。

引用文献

毛1

（文責：岩田 朋文）

キバネセセリ (チョウ目・セセリチョウ科) *Burara aquilina aquilina* (Speyer, 1879)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県では山地に分布し、黒部峡谷、富山市（大山町）有峰などに記録が多いが産地は限定される。近年、生息地および個体数ともに減少している。

形態

前翅長 21~26mm の大型のセセリチョウ。表は茶褐色で、オスはほぼ無紋、メスでは前翅に灰黄色の斑紋がある。

国内の分布状況

全国的に分布するが、北海道では平地～山地、本州以南では山地の冷温帯の落葉広葉樹林。

県内の分布状況

黒部峡谷祖母谷・阿曾原、滑川市東福寺・箕輪、立山町称名滝、富山市有峰一帯、南砺市五箇山周辺。

生態・生息環境

広葉樹林周縁の空地や林内の明るい草地などに現れる。食樹のハリギリ（ウコギ科）はやや湿った環境を好むことから、とくに渓谷に沿った空地や路上などでよく見かける。

生存への脅威（減少の要因）

観光地開発に伴う林道・駐車場の整備や舗装により乾燥化が進むこと。また林縁の樹木の伐採により食樹のハリギリが失われること。

保全対策

主な生息地は中部山岳国立公園、有峰県立自然公園、五箇山県立自然公園、および東福寺自然環境保全地域の中にあり、本亜種の生息環境は概ね良好に保たれているが、林道や駐車場の整備は最小限にするよう配慮が必要である。

特記事項

大型のセセリチョウとしては生態に未知な部分が多く、本県では未だに幼生期の観察例がない。

引用文献

蝶14, 蝶25, 蝶26



標本提供：富山市科学博物館

（文責：澤田 昭芳）

ホソバセセリ (チョウ目・セセリチョウ科)

Isoteinon lamprospilus lamprospilus C. Felder et R. Felder, 1862

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地は県内において分散的で、かつ、生息数が少なく、過去の生息地において30年以上再確認がなされていない。

形態

前翅長16~21mmの小型のセセリチョウ。表面は黒褐色で、前翅の中央部分に白斑がある。裏面は黄褐色で、前後翅ともに白斑があり、後翅の白斑は黒で縁取られる。

国内の分布状況

暖地性の蝶で西日本では個体数が多く普通種であるが、中部地方では少なく、東北地方では極めて稀な種である。北上の傾向が見られるが、今のところ日本海側では新潟県が北限である。

県内の分布状況

魚津市天神山、上市町大岩、射水丘陵、小矢部市興法寺、南砺市（福野町）安居など、平地～低山地に分布。

生態・生息環境

食草はイネ科のススキ。年1回の発生。7月上旬～下旬に見られる。樹林性の蝶であるが、やや日当たりの悪い林内の空地、疎林の間、林縁などの草地に発生する。成虫もその付近で活動し、ヒメジョオン、オカトラノオなど好んで草本の花で吸蜜する。

生存への脅威（減少の要因）

山麓部の開発による雑木林（落葉広葉樹林二次林）の減少、および里山の管理放棄による雑木林の荒廃。

保全対策

本種の生息環境となる二次林は、間伐や草刈りなど積極的な環境管理が必要である。

引用文献

蝶25、蝶26

標本提供：富山市科学博物館



ギフチョウ (チョウ目・アゲハチョウ科)

Luehdorfia japonica Leech, 1889

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県全体としては多産するが、一部の高標高地の産地で採集圧によると考えられる個体数の著しい減少が見られる。

形態

前翅長28~33mmの小型のアゲハチョウ。黄色と黒色のだんだら模様に後翅に橙色、青色、赤色の斑紋をもつ美麗な種である。

国内の分布状況

本州の青森県から山口県まで断続的に分布する。

県内の分布状況

山麓の雑木林に多く見られ、生息地は標高1,700mまで及ぶ。高地では生息数は少なくなる。氷見市などの能登半島に近い山地では見られない。

生態・生息環境

成虫は早春、低地では3月末より発生し、高地では7月初めまで見られる。低地ではコナラなどの雑木林、山地では夏緑樹林が主な発生地である。

生存への脅威（減少の要因）

高地の生息地では発生数が少なく、採集圧による消滅が危惧される。また、丘陵地の生息地にスギ植林が混在する地域では、スギの成長に伴って林床照度が低下することにより食草のカンアオイ類が減少し、ギフチョウの個体数が減少しているところがある。

保全対策

昆虫採集に際してのモラルの向上をPRする必要がある。また、スギ植林でのスギの間伐や枝打ちを行い、林内に光を入れることが望ましい。

特記事項

高地の生息地は全て国立公園内、または、県立自然公園内にある。

引用文献

蝶4、蝶21、蝶25、蝶26



撮影：岩田朋文

ウラナミアカシジミ (チョウ目・シジミチョウ科) *Japonica saepstriata saepstriata* (Hewitson, 1885)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県では、県中央部から西部にかけての丘陵地から山地、および県東部の一部の丘陵地に産地が散在するが普遍的ではなく、発生数も少ない。

形態

前翅長 22mm 前後のやや大型のシジミチョウ。表面は全体に橙色。裏面は橙色の地色に細かい黒条が規則的に並ぶ縞模様で、後翅の肛角部付近に黒斑とそれを取り巻く赤斑がある。尾状突起はアカシジミなどの近似種よりも細く長い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国に分布し、平地や丘陵地・低山地に多い。

県内の分布状況

魚津市の丘陵地、富山市笛津・大沢野山塊、呉羽・射水丘陵地、南砺市五箇山山塊、俱利伽羅山塊など、おもに低山・丘陵の緩斜面に分布するが、南砺市医王山、ブナオ峠などの 700~1,000m の山地にも産する。

生態・生息環境

主に低山や丘陵地の落葉広葉樹二次林に生息し、クヌギ、アベマキを食樹とするが、本県ではコナラへの依存度が高いと考えられる。近似種のアカシジミが人為による改変の少ない樹林にも広く生息するのに対し、本種は再生林の初期～中期にあたる萌芽の盛んな樹林を好む。

生存への脅威（減少の要因）

山麓部の開発による雑木林の減少、および里山の管理放棄による雑木林の荒廃と食樹のクヌギ・コナラなどの高木化。

保全対策

生息環境となる二次林は、間伐や草刈りなど積極的な環境管理が必要である。

特記事項

本種は近似種のアカシジミのように異なった環境に逃げ場をつくるほどの適応力がなく、近年急速に個体数が減少している。

引用文献

蝶 25, 蝶 26

(文責：澤田 昭芳)



標本提供：富山市科学博物館

ムンニアカシジミ (チョウ目・シジミチョウ科) *Shirozua jonasii* (Janson, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県では 1,000m 前後の山地で記録されているが、分布は極めて局所的で個体数も少ない。特異な生活史を有し、環境変化の影響を受けやすい。

形態

前翅長 22mm 前後のやや大型のシジミチョウ。表面は橙色、裏面は黄橙色で中室端と中央部に淡褐色条がある。オスの表に目立つ斑紋はないが、メスの表の前翅頂付近には通常外縁に沿って黒斑がある。

国内の分布状況

北海道、本州では中部以北に分布する。本州では人里近くの雑木林や低山地～山地の落葉広葉樹林に産地が多いが、その発生地はきわめて局地的である。

県内の分布状況

黒部峡谷阿曾原、上市町伊折、富山市（大山町）有峰、南砺市利賀村水無、福光町医王山などの主に山地。

生態・生息環境

幼虫は半肉食性。植物質はミズナラなど主にブナ科の芽、動物質はアブラムシ、カイガラムシ類などを食餌とする。成虫は 7 月下旬～8 月に出現する。卵はクサアリ類の寄生する樹幹などに産付され、幼虫はアリと共生する。成虫は午後から夕方、梢上を飛翔する。

生存への脅威（減少の要因）

生息樹および近辺の樹木の伐採、林道や農道の整備・舗装などによる乾燥化、アリの巣の崩壊などによる生息条件の悪化。また、成虫の発生期が遅く、分布が局限されるため、発見されにくい。分布が確認されないうちに、開発などによって生息地が消滅する可能性が高い。

保全対策

分布や生息樹の実態を調べ、開発が行われる前に、生息樹ならびにクサアリ類を含めた保護対策が必要である。

特記事項

全国的に産地は大幅に減少している。本種の幼虫と共生関係にあるクサアリ類の好む樹木が限られているため、生息地にある数本の木が伐採されることにより絶滅に至ることがある。

引用文献

蝶 2, 蝶 25, 蝶 26

(文責：澤田 昭芳)



標本提供：富山市科学博物館

ヒサマツミドリシジミ (チョウ目・シジミチョウ科) *Chrysozephyrus hisamatsusanus hisamatsusanus* (Nagami et Ishiga, 1935)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

食樹のウラジロガシの分布に依存して、県下の平野から山峠に入る河川の周辺で生息が確認されている。本県の生息地は日本海側の分布北限（新潟県糸魚川市）に近い。

形態

前翅長 17~19mm。後翅裏面の白帯がV字状になることが顕著な特徴。他のゼフィルス類はW字状となることより、容易に区別がつく。オスの翅の表は金緑色に輝く典型的なゼフィルス。

国内の分布状況

本州、四国、九州。分布北限は新潟県糸魚川市虫川。



標本提供：富山市科学博物館

県内の分布状況

笛川、黒部川、片貝川、角川、早月川、常願寺川、神通川、庄川などの各流域に産地がある。ウラジロガシに依存して、各河川が峡谷部から平野部へ流れ出る標高 100m~数百m の範囲に集中している。

生態・生息環境

生息地は河川沿いの急傾斜地に自生するウラジロガシを食樹としている。年1回の発生。成虫は6月下旬~7月上旬に発生し、オスは7月中旬に姿を消すが、メスは8月に一旦休眠に入り9月に活動を再開して、10月まで見られる。オスは、日光の当たるところを好み、夕方、西日の当たる梢の上を盛んに飛び回る。メスは不活発である。メス、オスとも人前に現れるることは稀で、成虫の記録は非常に難しい。

生存への脅威（減少の要因）

植林や各種開発による食樹の伐採が本種の存続に大きな影響を与える。また、成虫の採集や越冬卵の乱獲など採集圧も脅威となる。

保全対策

ウラジロガシ林の保全。特に、採卵のためにウラジロガシの枝を伐採することの自粛、あるいは禁止。

引用文献

蝶1, 蝶8, 蝶18, 蝶20, 蝶25, 蝶26

（文責：澤田 昭芳）

ギンボシヒヨウモン本州亜種 (チョウ目・タテハチョウ科) *Speyeria aglaja fortuna* (Janson, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県では産地・個体数とも極めて少なく稀で、30年以上記録がない。

標本提供：富山市科学博物館

形態

前翅長 28~34mm の大型のヒヨウモンチョウ。表面は橙色に黒斑のヒヨウ柄模様。裏面の前翅は表面と似るが、後翅は黄褐色で、銀白色の斑紋が全体に散らばる。後翅裏面亜外縁の銀白色斑列の内側に茶褐色の斑紋列がないことなどから類似種と見分けることができる。



国内の分布状況

北海道に亜種 *basalis* が分布し、本州に *fortuna* が分布している。北海道では平地~山地に広く分布するが、本州では東北地方の一部と中部地方の山地に限って分布する。本州では 1,000~2,000m 付近に生息地が多い。

県内の分布状況

朝日町小川温泉~朝日岳、黒部市（宇奈月町）黒薙川、富山市（大山町）有峰、南砺市（利賀村）利賀などで記録があり、有峰一帯の 1,100m~1,300m では度々記録されている。

生態・生息環境

山地の明るい草原に生息する。食草は各種スミレ類のほか、タデ科のクリンユキフデも食べる。1齢幼虫で越冬し、成虫は一般に6月下旬~9月にかけて出現するが、県内では7月上旬~8月に得られている。夏眠現象は確認されていない。成虫はアザミ類、ヨツバヒヨドリ、オカトラノオなど各種の花に訪れ吸蜜する。

生存への脅威（減少の要因）

開発や生息地の植生遷移による草原の減少。温暖化の影響も考えられる。

保全対策

発生状況の継続観察。山地の草地は開発や植林事業などによって失われないように配慮する。

引用文献

蝶25, 蝶26

（文責：澤田 昭芳）

フタスジチョウ中部亜種 (チョウ目・タテハチョウ科) *Neptis rivularis insularum* Fruhstorfer, 1907

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも極めて少なく、近年確認された産地は黒部ダム付近だけである。

形態

前翅長 22~25mm。イチモンジチョウの仲間では中型の蝶で、後翅表面にある太めの一文字模様が種の特徴となる。翅形にはやや丸みがある。

国内の分布状況

北海道と本州中部以北に生息する。中部地方における垂直分布は標高 1,000m~2,100m とされている。

県内の分布状況

数十年前の記録として、朝日岳夕日ヶ原、称名～立山、針ノ木谷の 3 地域が報告されているだけであったが、1998 年 6 月中旬～7 月下旬に立山町黒部ダム下流側右岸で生息が確認され、その後、個体数は少ないながら継続して発生していると思われる。

生態・生息環境

主要な食草はシモツケ。年 1 回の発生。中部地方では概ね 6 月中旬～8 月中旬に見られる。成虫は好んで花に集まり、クガイソウ、ヨツバヒヨドリ、ウド、シモツケなどで吸蜜する。

生存への脅威（減少の要因）

水害などの自然災害とダム工事などによる大規模な環境破壊によって、生息環境が失われること。

保全対策

生息地の現況調査、および生息分布調査を継続して行う必要がある。

引用文献

蝶 25, 蝶 26

(文責：澤田 昭芳)



標本提供：富山市科学博物館

エルタテハ (チョウ目・タテハチョウ科) *Nymphalis vaualbum* (Denis et Schiffermüller, 1775)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

食樹のシラカンバの分布に依存して、県下では産地・個体数とも限定されている。近年、個体数は減少傾向にある。

形態

前翅長 29~32mm。ヒオドシチョウと同じ属であるが、外形はキタテハ属のシータテハに似る。しかし、翅表の班紋と色調はヒオドシチョウによく似ており、シータテハほどには翅の外形はえぐられない。和名の「エルタテハ」は後翅裏面にある白斑紋の形がアルファベットの「L」字に似ていることから付けられたもの。

国内の分布状況

北海道、本州に分布。飛騨山脈の岐阜県側が分布西限。本州中部地方における垂直分布は標高 900m~2,500m とされる。個体数はどこでも少ない。

県内の分布状況

八尾町白木峰中腹（杉ヶ谷、標高 1,100m）と有峰を含む薬師岳周辺、および県西部の南砺市（上平村）桂、袴腰山などの数ヶ所だけで記録されている。

生態・生息環境

本州中部地方における食樹はカバノキ科のシラカンバ、ウダイカンバ、ダケカンバなど。本県では、本種の主要産地とシラカンバの分布域とがよく合致しており、主な食樹はシラカンバと推定される。年 1 回の発生。7 月～8 月に新成虫が発生し、成虫で越冬する。樹液に好んで集まり、オスは路上に下りて吸水することも多い。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発や、森林事業で食樹のシラカンバが伐採されて生息環境が失われること。

保全対策

富山県ではシラカンバ林は局所的で貴重な樹林であり、これを保全していくことがエルタテハの生息を保全していくことに直結する。

引用文献

蝶 23, 蝶 25, 蝶 26, 蝶 30



標本提供：富山市科学博物館

(文責：澤田 昭芳)

クモマベニヒカゲ本州亜種 (チョウ目・タテハチョウ科) *Erebia ligea takanonis* Matsumura, 1909

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

本県では生息環境が 1,600m 以上の亜高山・高山帯に局地的に産するが、分布が限定される。高山蝶の一種。

形態

前翅長 22~28mm のヒカゲチョウ。表面は濃茶褐色で、前後翅ともにやや外よりに橙色の帯状紋があり、その中に小さな黒色紋が並ぶ。後翅裏面の橙色帯の内側には白帯がある。

国内の分布状況

北海道ではおもに 800m 以上、本州では日本アルプス（飛騨山脈・木曽山脈・赤石山脈）と蓼科～八ヶ岳連峰、白山山系などのおもに 1,600m~2,800m に生息する。

県内の分布状況

県東部の後立山連峰、立山連峰、薬師岳周辺など北アルプスの標高 1,600m~2,800m。

生態・生息環境

一世代の完了にあしかけ 3 年を要する。成虫は 7 月~8 月に出現し、1 年目の冬は卵で越冬し、2 年目は幼虫で冬を越す。3 年目に蛹化し羽化にいたる。平坦な草原ではほとんど見られず、草原が切れて断崖になる際や、高山帯の稜線近くの急斜面の草付き、稜線鞍部の両側斜面などで見られる。

生存への脅威（減少の要因）

登山者増加に伴う登山道周辺の生息地への踏み込みによる食草の消失や成虫の活動域の縮小。また、温暖化による生息環境への悪影響が懸念されている。

保全対策

生息地はすべて中部山岳国立公園内であり、特別保護区に含まれている場所が多い。現状では本亜種の生息環境は保護されているとみてよいが、登山道以外へ立ち入らないように配慮すべきである。



撮影：澤田 昭芳

特記事項

国内の各地で減少傾向が見られるが、その理由は明かではない。

引用文献

蝶 9, 蝶 16, 蝶 25, 蝶 26, 蝶 29, 蝶 33

（文責：澤田 昭芳）

ハイイロボクトウ (チョウ目・ボクトウガ科) *Phragmataecia castaneae* (Hübner, 1790)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

分布が局地的で、生息場所である低湿地は環境変化や乾燥化により消失しやすい。

形態

開張 35~38mm。前翅は灰褐色で翅脈間に黒点列がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町：笛川；南保；山崎。

生態・生息環境

成虫は 6~8 月に発生。食草であるヨシの生える低湿地に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

低湿地の開発や乾燥化でヨシ原が減少している。

標本提供：川端 一旗

保全対策

生息地である低湿地帯のヨシ原の保全。

特記事項

県内各地の低湿地での生息調査する必要がある。

引用文献

蛾 17, 蛾 39



（文責：川端 一旗）

クワトゲエダシャク (チョウ目・シャクガ科) *Apochima excavata* (Dyar, 1905)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国的に減少している。富山県では過去 70 年以上記録が無く絶滅した可能性もある。

形態

開張 50mm 前後。前後翅とも細長く横線は直線的で、体は多くの毛でおおわれる。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

黒部市：柄屋、高岡市：岩野（頭川地区）。（以上は 1950 年以前の記録である。）

生態・生息環境

成虫は年 1 化で早春に発生する。クワが食草で、低地で自生するクワの林に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

クワ園の激減で全国的に得がたい種となった。また、低地の開発が進んだことも減少要因である。

保全対策

今後、生息地が見つかれば、クワ林の保全が重要である。

引用文献

蛾 6, 蛾 12

写真提供：間野 隆裕（愛知県産）



（文責：富沢 章）

ゴマダラシャチホコ (チョウ目・シャチホコガ科) *Palaeostauropus oblitteratus* (Wileman & South, 1917)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

現時点では生息地が黒部川上流域に限定され、個体数も少ない。

形態

開張 45mm 前後。前翅は褐色を帯びた明るい灰白色。亜外横線の黒点列が目立つ。

国内の分布状況

関東地方以西の本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市：宇奈月町小黒部、立山町：針ノ木谷。

生態・生息環境

モミが食樹であるが、本県ではオオシラビソが食樹と考えられ、高標高地に分布する。

生存への脅威（減少の要因）

黒部川上流域の土木工事や観光開発が植生の破壊をもたらし脅威となる。

保全対策

谷沿いに発達するオオシラビソ林の保全。

引用文献

蛾 5, 蛾 26



標本提供：川端 一旗

（文責：富沢 章）

シロホソバ (チョウ目・ヒトリガ科) *Eilema degenerella* (Walker, 1863)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国各地で減少している。生息地は環境改変の多い低地であり、本県では近年の記録が無い。

形態

開張 22mm 前後。前後翅とも純白で無紋、前翅は光沢がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町：柿沢、富山市：呉羽山。

生態・生息環境

年2化で5~8月に発生する。他県の生息地は平野部の草地や湿地周辺であることが多い。

生存への脅威（減少の要因）

平野部の草地は開発、都市化等により環境が改変されてきた。

保全対策

草地、特に湿地周辺の草地環境は保全に配慮すべきである。

引用文献

蛾 15, 蛾 21。



標本提供：山中 浩

(文責：富沢 章)

ヌマベウスキヨトウ (チョウ目・ヤガ科) *Chilodes pacifica* Sugi, 1982

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

全国的に分布が限定される。河川敷は護岸工事等で環境改変されやすい。本県では1992年の記録のみである。

形態

開張 20mm 前後。前翅は灰褐色で、翅型が丸みを帯びる。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

高岡市：小矢部川河川敷。

生態・生息環境

年に数回発生する。ヨシの多い廃田や河川敷、潟周辺などの低湿地環境が生息地である。

生存への脅威（減少の要因）

低湿地は護岸工事、埋立てなどの環境改変がされやすい。また、乾燥化の進行がみられる。

保全対策

河川敷などの低湿地環境のヨシ原は保全すべきである。

特記事項

今後、県内の低湿地における生息調査が必要である。

引用文献

蛾 41



標本提供：富沢 章（石川県産）

(文責：富沢 章)

キュウシュウマエアカシロヨトウ (チョウ目・ヤガ科) *Leucapamea kyushuensis* (Sugi, 1958)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

分布が局所的で、全国的にも稀である。

形態

開張 35~38mm。前翅は暗褐色と灰褐色からなり、外横線の外側に灰白色の点列がある。後翅は暗色。



標本提供：川端 一旗

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町：南保；山崎、富山市：有峰。

生態・生息環境

年2化と推定されている。成虫は7~10月に出現。食草含め詳しい生態は明らかになっていない。

生存への脅威（減少の要因）

生態が不明なので言及はできない。

保全対策

自然環境全体の改変を最小限に抑えることが望ましい。

特記事項

同年同地点で複数採れることなく記録が全て単発のため、偶産種の可能性がある。

引用文献

蛾 30

(文責：川端 一旗)

エチゴハガタヨトウ (チョウ目・ヤガ科) *Asidemia inexpecta inexpecta* (Sugi, 1963)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

産地が極限され、個体数も少ない。特異的な環境に生えるツゲに依存している。

形態

開張 38~48mm。前翅は黒褐色で環状紋、腎状紋はやや淡色。外横線は明瞭、亜外縁線は2度尖る。



標本提供：川端 一旗

国内の分布状況

本州、伊豆諸島、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町：湯ノ瀬。

生態・生息環境

年2化。成虫は5~6月、8~10月に出現。食樹はツゲ。ツゲが生える石灰岩地帯に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

石灰岩が露出する崖の崩落や法面工事により生息環境が消失する可能性がある。

保全対策

生息環境である露岩地の改変を行わないようにすることが重要である。

引用文献

蛾 4

(文責：川端 一旗)

ギンモンアカヨトウ (チョウ目・ヤガ科)

Plusilla rosalia Staudinger, 1892

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国的に分布が限定される。低湿地環境は環境改変がされやすく生息基盤が不安定である。

形態

開張は 25mm 前後。前翅の地色は紫がかった赤色で白色の横線が認められる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町：柿沢が唯一の生息地。

生態・生息環境

成虫は 5~9 月にかけて数回発生する。低湿地や河川敷に生息し、ヤナギタデが食草である。

生存への脅威（減少の要因）

一般的に低湿地は埋立て等により環境改変がされやすい。また、乾燥化の進行がみられる。

保全対策

現在の生息地は大きな環境改変が無いようであるが、当地の湿地環境を保全維持する必要がある。

特記事項

今後県内の低湿地における生息調査が必要である。

引用文献

蛾 15

標本提供：富沢 章（石川県産）



（文責：富沢 章）

アヤモクメキリガ (チョウ目・ヤガ科)

Xylena fumosa (Butler, 1878)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

食草が多岐にわたる平地性の種であるが、個体数が少ない。

形態

開張 58~63mm とやや大型。前翅は褐色で細かい木目状。環状紋、腎状紋は二重線で縁取られる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町：南保。

生態・生息環境

年 1 化。成虫は 11~12 月に羽化し、翌 4 月頃まで見られる。多食性で、食草としてはバラ科マメ科ナス科などが知られている。

標本提供：川端 一旗

生存への脅威（減少の要因）

主に平地の草地環境が生息地と考えられ、環境改変のほか農薬散布などにより生存が脅かされている可能性がある。

保全対策

生息地である平地の草地環境を保全する必要がある。

引用文献

蛾 4



（文責：川端 一旗）

ウスミミモンキリガ (チョウ目・ヤガ科)

Eupsilia contracta (Butler, 1878)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

本種の生息地である里山の雑木林や平地林は減少しており、生息環境は狭まっている。

形態

開張 40~45mm。前翅は黄褐色から褐色で、横線は明瞭。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市：宇奈月町宇奈月；阿曽原、上市町：柿沢。

生態・生息環境

年1化で、成虫は10月に発生し成虫越冬して4月まで見られる。おもに低地において食樹であるハンノキ林のある環境に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

低地、特に湿地のハンノキ林は埋め立て、開発等で減少している。

保全対策

低地のハンノキ林の保全。

引用文献

蛾 14, 蛾 15, 蛾 19



標本提供：富沢 章（石川県産）

（文責：富沢 章）

オオセンチコガネ基亜種 (コウチュウ目・センチコガネ科)

Phelotrupes (Chromogeotrupes) auratus auratus (Motschulsky, 1858)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅のおそれのある地域個体群
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県西部の個体群が近年確認できない。

形態

体長 15~22mm。体は赤紫、紫、青紫、金緑色の強い光沢をもつ。頭楯は台形。前胸背板の中央に縦溝をもつ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、立山町、上市町、高岡市、氷見市。

生態・生息環境

成虫は春~秋にかけて出現し、8~9月に個体数を増す。森林内をよく飛び回り、サルやシカ等の獣糞に集まり餌とする。牧場の牛糞や馬糞、犬糞や人糞からも見出される。

生存への脅威（減少の要因）

森林環境、生物相の変化。都市化、宅地造成等の開発。

保全対策

大型、中型哺乳類も含めた森林生態系、環境の包括的な保全。

特記事項

県内には後立山から県東部にかけて分布する個体群と県西部に分布する個体群があり、これらの2群は系統が異なると考えられる。県西部に分布する個体群は近年確認できず、消滅の可能性も懸念される。

引用文献

鞘 b16



標本提供：惣名 実

（文責：澤田 研太）

=参考・引用文献=

- 蜻1 二橋 亮・二橋弘之・荒木克昌・根来 尚, 2004. 富山県のトンボ. 富山市科学文化センター収蔵目録, (17) : 1-220.
- 蜻2 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・中田達哉・不破光大・岩田朋文, 2022. 富山県のトンボ(2021年記録). 富山市科学博物館研究報告, (46) : 97-107.
- 蜻3 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・不破光大・岩田朋文, 2023. 富山県のトンボ(2022年記録). 富山市科学博物館研究報告, (47) : 95-105.
- 蜻4 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・不破光大・岩田朋文, 2024. 富山県のトンボ(2023年記録). 富山市科学博物館研究報告, (48) : 83-93.
- 蜻5 中田達哉・澤田研太・新堀 修・二橋 亮, 2022. 富山県からオゼイトトンボを初記録. *Tombo*, 65 : 75-77.
- 蜻6 不破光大・二橋 亮, 2017. オナガサナエを富山県から 57 年ぶりに発見. *Aeschna*, (53) : 64.
- 蜻7 岩田朋文・吉岡 翼, 2024. 飛騨山脈の高天原および竜晶池で 2023 年に確認されたトンボ類. 富山市科学博物館研究報告, (48) : 19-25.
- 直1 根来 尚, 2017. 富山県産無翅昆虫類および直翅系昆虫類(富山県の昆虫シリーズ 第2号). 富山県昆虫同好会. 宇奈月. 122pp.
- 直2 和田一郎, 2021. 富山県で 2018 年 7 月に確認した直翅類 ばったりぎす(日本直翅類学会連絡誌), 164 : 61-64.
- 直3 岩田朋文・佐々木雅希, 2021. 富山県におけるウスバカマキリの全記録. 富山市科学博物館研究報告, (45) : 9-13.
- 直4 岩田朋文, 2023. 富山市の城南公園におけるウスバカマキリの確認例 2 題. 富山市科学博物館研究報告, (47) : 45-46.
- 直5 岩田朋文, 2025. 富山県におけるニホントビナナフシの初記録. 月刊むし, (652) : 24-25.
- 直6 神尾大地, 2023. 富山県におけるカワラバッタの黒部川河口域および荒俣海岸からの新記録. 月刊むし, (633) : 16-17.
- 直7 神尾大地, 2023. 富山県におけるヒロバネカンタン(直翅目, コオロギ科)の記録. 昆蟲(ニューシリーズ), 27(1) : 34-35.
- 直8 岩田朋文, 2024. 常願寺川河川敷でウスバカマキリを複数確認. 富山市科学博物館研究報告, (48) : 61-62.
- 半(水)1 富山県水生昆虫研究会(著) 富山県(編), 1995. 富山県の水生昆虫. 富山県の水生生物. pp.71-148. 富山県. 富山.
- 半(水)2 富山県昆虫研究会, 1979. 富山県の昆虫. 富山県. 富山. 545pp.
- 半(水)3 岩田朋文, 2021. 高岡古城公園におけるコオイムシの記録補完. 富山市科学博物館研究報告, (45) : 55-58.
- 半(水)4 澤田研太・岩田朋文・惣名 実, 2019. 富山県魚津市でコオイムシの生息を確認. 富山市科学博物館研究報告, (43) : 69-70.
- 半(水)5 岩田朋文・澤田研太・惣名 実, 2018. 富山県におけるコオイムシ(半翅目コオイムシ科)の生息状況の総括. 富山市科学博物館研究報告, (42) : 41-47.
- 半(水)6 邑本順亮, 1991. 高岡市西田地区の昆虫. *JANOLUS*, (80) : 9-11.
- 半(水)7 岩田朋文・不破光大, 2023. 2022 年に確認された安田城跡(富山県富山市)の水生動物. 富山市科学博物館研究報告, (47) : 51-52.
- 半(水)8 富山県高岡農地林務事務所, 2004. 自然環境保全整備事業 宮田地区 生態系調査報告書. 富山県高岡農

地林務事務所. 高岡. 85pp. + pls. 1-73.

- 半(水)9 富山市科学文化センター(編), 2005. 射水丘陵の止水棲水生昆虫調査. 里山(富山県中央部)の自然環境調査報告書 I 環境・動物・植物編. pp. 163-169. 富山市科学文化センター. 富山.
- 半(水)10 樋口陽平, 2014. 富山県における水生昆虫の採集記録第2報. とっくりばち, (82) : 59-60.
- 半(水)11 樋口陽平, 2013. 富山県における水生昆虫の採集記録. とっくりばち, (81) : 52-55.
- 半(水)12 国土交通省, 2024. 国土交通省河川水辺の国勢調査.
URL : https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_84_index.html(2024年12月20日確認).
- 半(水)13 岩田朋文・澤田研太・惣名 実, 2018. 富山県におけるコオイムシ(半翅目コオイムシ科)の生息状況の総括. 富山市科学博物館研究報告, (42) : 41-47.
- 半(水)14 富山県, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012—. 富山県. 富山. 451pp.
- 半(陸)1 渡辺 譲, 2021. 富山県におけるカメムシの越冬飛来に関する長期観察 I.立山山麓で越冬に飛来するカメムシの種類とその種構成. ペストロジー, 36 : 5-11.
- 半(陸)2 富山県昆虫研究会(編), 1979. 富山県の昆虫. 富山県. 富山. 545pp.
- 半(陸)3 常楽武男, 1984. 富山県における水田地帯とその付近のカメムシ類. 北陸病害虫研究会報, (32) : 67-71.
- 半(陸)4 富山市教育委員会, 富山市科学文化センター(編), 1991. 富山市浜黒崎海岸自然調査報告書(富山市教育委員会).
- 半(陸)5 富山県昆虫研究会(編), 1988. 富山県の昆虫類 -自然環境管理計画策定のための調査-. 富山県農地林務部自然保護課.
- 半(陸)6 川瀬英夫, 2014. 富山市でオオイナズマヨコバイとタカイホソアワフキを採集. とっくりばち, (82) : 28.
- 半(陸)7 富山市科学文化センター, 1996. 常願寺川流域(有峰地域)自然環境調査報告. 富山市科学文化センター.
- 半(陸)8 神尾大地, 2024. 富山県におけるスナヨコバイの分布状況. Rostria, (69) : 22-23.
- 鞘a1 富山県昆虫研究会(編), 1979. 富山県の昆虫. 富山県. 富山. 545pp.
- 鞘a2 国土交通省, 2024. 国土交通省河川水辺の国勢調査.
URL : https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_84_index.html(2024年12月20日確認).
- 鞘a3 富山県水生昆虫研究会(著) 富山県(編), 1995. 富山県の水生昆虫. 富山県の水生生物. pp.71-148. 富山県. 富山.
- 鞘a5 惣名 実, 1992. カワラゴミムシの新産地. きんだーばく, (4) : 24.
- 鞘a6 中川秀幸・常楽武男・小杉 潤・根来 尚(著) 富山市科学文化センター(編), 1994. 吳羽丘陵の昆虫類. 富山市吳羽丘陵自然調査報告書. pp. 69-163. 富山市科学文化センター. 富山.
- 鞘a7 瀬川哲夫・根来 尚(著) 富山市科学文化センター(編), 1991. 昆虫. 富山市浜黒崎海岸自然調査報告書. pp.36-59. 富山市科学文化センター. 富山.
- 鞘a8 山口英夫(著) 富山市科学文化センター(編), 2005. 射水丘陵の止水棲水生昆虫調査. 里山(富山県中央部)の自然環境調査報告書 I 環境・動物・植物編. pp.163-169. 富山市科学文化センター. 富山.
- 鞘a9 小杉 潤・道山 勉・古川隆一・岸原 剛・加藤朋美・白石俊明・金子 篤・吉野剛広(著) 富山市ファミリーパーク公社(編), 2006. ファミリーパーク地内の昆虫類. ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告 2005. pp. 45-88. 富山市ファミリーパーク公社. 富山.
- 鞘a10 須河隆夫・笠原作栄・宮崎精夫(著) 利賀村(編), 1995. 利賀村産昆虫リスト. 利賀の自然. pp.277-308. 利賀村役場企画室. 利賀.
- 鞘a11 竹脇正樹, 1989. 富山県のシデムシ類(1). きんだーばく, (1) : 12-13.

- 鞘a12 竹脇正樹, 1990. 富山県のゴミムシ類(1). きんだーばく, (2) : 28–29.
- 鞘a13 高野 勉・高野敏明, 1990. 呉羽丘陵の甲虫(1). きんだーばく, (3) : 2–9.
- 鞘a14 竹脇正樹, 1990. 富山県のシデムシ類(2). きんだーばく, (3) : 20–22.
- 鞘a15 富山県高岡農地林務事務所, 2004. 自然環境保全整備事業 宮田地区 生態系調査報告書. 富山県高岡農地林務事務所. 高岡. 85pp. + pls.1–73.
- 鞘a16 AMICA 編集部, 1996. 呉羽・射水丘陵昆虫調査(1993年～1995年). AMICA, (34) : 1–56.
- 鞘a17 北村征三郎・中居昭信・野村孝昭, 1991. 富山県未記録の甲虫. AMICA, (31) : 1–16.
- 鞘a18 北村征三郎, 1982. 富山県産甲虫類の採集記録. AMICA, (27) : 23–97.
- 鞘a19 北村征三郎, 1980. 富山県昆虫研究会編“富山県の昆虫”に追加する甲虫. AMICA, (18) : 22–24.
- 鞘a20 澤田研太・岩田朋文・惣名 実, 2022. 富山県におけるマルケシゲンゴロウ属の記録総括と現況. 富山市科学博物館研究報告, (46) : 19–26.
- 鞘a21 澤田研太・岩田朋文, 2019. 富山県におけるコガタノゲンゴロウの再発見と既知記録総括. 富山市科学博物館研究報告, (43) : 29–33.
- 鞘a22 鈴木邦雄・藤本浩二, 1997. 富山県から初めて記録されるハムシ類(1). 甲虫ニュース, (117) : 5–6.
- 鞘a23 鈴木邦雄・岩田朋文・南 雅之, 2017. 富山県のオオサルハムシ一附: 本種の寄主植物に関する覚書一. さやばねニューシリーズ, (28) : 43–45.
- 鞘a24 伊藤宏太郎, 2023. ウエダオオズナガゴミムシおよびスモンオオズナガゴミムシの新産地での採集記録. 月刊むし, (632) : 54–55.
- 鞘a25 渡貫修太郎・岩田泰幸・岩田朋文・渡部晃平, 2022. 北陸地方におけるニセコウベツブゲンゴロウの採集記録. 月刊むし, (613) : 59–61.
- 鞘a26 北村征三郎, 2017. 富山県南砺市でヒゲナガホラヒラタゴミムシを採集. 月刊むし, (562) : 34.
- 鞘a27 Jäch, M. A. & J. A. Díaz, 2016. *Hydraena* (s. str.) *namiae*, a new species from Toyama Prefecture (Japan) (Coleoptera : Hydraenidae). Koleopterologische Rundschau, (86) : 83–89.
- 鞘a28 岩田朋文・不破光大, 2023. 2022年に確認された安田城跡(富山県富山市)の水生動物. 富山市科学博物館研究報告, (47) : 51–52.
- 鞘a29 岩田朋文・澤田研太・惣名 実, 2020. 富山県におけるクロゲンゴロウの生息状況. 富山市科学博物館研究報告, (44) : 9–16.
- 鞘a30 澤田研太・岩田朋文, 2020. 富山県におけるメススジゲンゴロウの生息状況. 富山市科学博物館研究報告, (44) : 17–25.
- 鞘a31 大山健太, 2024. 富山県で同所的に得られたセスジダルマガムシ属2種の記録. さやばねニューシリーズ, (55) : 9–10.
- 鞘a32 布村 昇・根来 尚, 2015. 山田川(南砺市)の底生無脊椎動物. 富山の生物, (54) : 55–64.
- 鞘a33 布村 昇・根来 尚, 2016. 下条川の底生無脊椎動物. 富山の生物, (55) : 21–30.
- 鞘a34 布村 昇・岩田朋文・瀧口景子, 2018. 泉川の底生無脊椎動物. 富山の生物, (57) : 55–64.
- 鞘a35 樋口陽平, 2014. 富山県における水生昆虫の採集記録第2報. とっくりばち, (82) : 59–60.
- 鞘a36 樋口陽平, 2013. 富山県における水生昆虫の採集記録. とっくりばち, (81) : 52–55.
- 鞘a37 草桶秀夫・女川博義・宮原真樹・米澤正美・三田村佳政, 2022. 小型と大型ヒメボタルの生息分布と遺伝的特性. 全国ボタル研究会誌, (55) : 23–29.
- 鞘a38 岩田朋文・市川靖浩・岩田泰幸・澤田研太, 投稿中. 富山県におけるケスジドロムシの記録. 水生動物.
- 鞘a39 岩田朋文, 投稿中. 富山県におけるヨコミゾドロムシの記録. さやばねニューシリーズ.

- 鞘a40 富樫和孝・岩田泰幸, 2021. 長野県におけるマルヒラタガムシの記録と越冬に関する若干の知見. さやばねニューシリーズ, (44) : 24-27.
- 鞘a41 岩田朋文, 投稿中. 富山県におけるマルチビゲンゴロウの記録. さやばねニューシリーズ.
- 鞘a42 鈴木邦雄, 2017. 富山県から初めて発見されたオオルリハムシ(ハムシ科,ハムシ亜科)個体群. さやばねニューシリーズ, (28) : 38-42.
- 鞘a43 鈴木邦雄, 2018. オオルリハムシ(ハムシ科,ハムシ亜科)の富山県における第2産地の発見. さやばねニューシリーズ, (32) : 20-22.
- 鞘a44 神尾大地, 2024. 富山県におけるヒョウタンゴミムシ及びエリザハンミョウの生息状況. ニッヂェ・ライフ, (12) : 18-22.
- 鞘a45 北村征三郎, 2007. 富山県砺波市でスジグロオオハムシを採集. 月刊むし, (434) : 46.
- 鞘a46 富永 修・桂孝次郎・野尻湖昆虫グループ, 1984. 日本産ネクイハムシ亜科に関する研究 2.オオミズクサハムシの地理的変異と近似の1新種について. 大阪市立自然史博物館研究報告, (37) : 25-40.
- 鞘a47 富山県, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012—. 富山県. 451pp.
- 鞘a48 鈴木邦雄・松村洋子・安江 梢, 2005. 富山県から初めて記録されるハムシ類(2). 甲虫ニュース, (151) : 11-12.
- 鞘a49 鈴木邦雄・藤本浩二, 1997. 富山県から初めて記録されるハムシ類(1). 甲虫ニュース, (117) : 5-6.
- 鞘a50 鈴木邦雄・板倉範枝, 1986. 富山市科学文化センター研究報告, (9) : 93-95.
- 鞘a51 野中 勝, 1991. 富山県のオオオサムシを採集. 翔, (90) : 10.
- 鞘a52 中居昭信, 1989. 富山県未記録の甲虫(1). AMICA, (30) : 28.
- 鞘a53 野村孝昭, 2010. アイヌハンミョウ県東部での採集記録. AMICA, (38) : 20.
- 鞘a54 高野敏明, 1990. 富山県のオサムシ(1). Kinder Bug, (2) : 2-27.
- 鞘a55 中居昭信・野村孝昭, 1993. 富山県未記録の甲虫. AMICA, (32) : 17-21.
- 鞘b1 北村征三郎, 2022. 富山県初記録のケブカヒラタカミキリ. 月刊むし, (621) : 56.
- 鞘b2 北村征三郎・中居昭信・野村孝昭, 2016. 富山県のカミキリムシ類. 富山県昆虫同好会. 黒部. 92pp.
- 鞘b3 澤田研太, 2023. 富山県富山市でスネケブカヒロコバネカミキリを採集. 月刊むし, (633) : 42.
- 鞘b4 澤田研太, 2024. 富山県のクビアカハナカミキリ. 富山の生物, (63) : 64-66.
- 鞘b5 澤田研太・惣名 実, 2019. 富山県におけるカミキリムシ類数種の記録. 月刊むし, (585) : 32-33.
- 鞘b6 稲田健一, 1982. ケブトハナカミキリの日本海側北限記録. 月刊むし, (139) : 31 .
- 鞘b7 野村孝昭, 1993. ハネナシセスジキマワリの富山県における記録. 月刊むし, (273) : 37.
- 鞘b8 斎藤昌弘, 1996. 富山県にてシラホシヒゲナガコバネカミキリを採集. 月刊むし, (310) : 4.
- 鞘b9 川原 誠, 1981. 富山県におけるシララカハナカミキリの採集例. 月刊むし, (130) : 3.
- 鞘b10 富山県昆虫研究会(編), 1988. 富山県の昆虫類—自然環境管理計画策定のための調査一. 富山県. 富山. 216pp.
- 鞘b11 藤田 宏・平山洋人・秋田勝己, 2023. 日本産カミキリ大図鑑(II) 有限会社むし社. 東京. 408pp.
- 鞘b12 北村征三郎・中居昭信・野村孝昭, 2013. 富山県のタマムシ類II. AMICA, (39) : 1-20.
- 鞘b13 野村孝昭, 1989. クロヒメヒラタタマムシの採集例. AMICA, (30) : 1-2.
- 鞘b14 北村征三郎, 1982. 富山県産甲虫類の採集記録. AMICA, (27) : 23-97.
- 鞘b15 北村征三郎, 1984. 富山県産甲虫類の採集記録II. AMICA, (28) : 15-28.
- 鞘b16 澤田研太・惣名 実, 2024. 富山県の糞虫類の記録と目録. 鰐角通信, (48) : 47-60.

- 鞘b17 田中忠次(著) 富山県昆虫研究会(編), 1979. 鞘翅目. 富山県の昆虫. pp.341–458. 富山県. 富山.
- 鞘b18 田中忠次, 1956. 富山県未記録の甲虫. *NEOZEPHYRUS*, (3) : 1–17.
- 鞘b19 田中忠次, 1938. こがねむし科の甲虫. 富山博物學會誌, (2) : 73–78.
- 鞘b20 常樂武男, 1982. 富山県の昆虫補遺 I. *AMICA*, (27) : 99–128.
- 鞘b21 北村征三郎, 1993. 富山県のクワガタムシ. *AMICA*, (32) : 3–15.
- 鞘b22 中居昭信, 1993. 常願寺川河川敷の鞘翅目昆虫について. *AMICA*, (32) : 25–36.
- 鞘b23 北村征三郎, 1999. 1996 年度・1997 年度採集会 採集昆虫目録 甲虫目目録. *AMICA*, (35) : 41–46.
- 鞘b24 野村孝昭, 2010. ナガクチキムシ 4 種の採集記録. *AMICA*, (38) : 21.
- 鞘b25 北村征三郎, 1989. 1988 年度採集会採集昆虫目録 鱗翅目を除く目 目録. *AMICA* 通信, (9) : 9–11.
- 鞘b26 *AMICA* 編集部, 1999. 虫のたより(17). *AMICA* 通信, (18/19) : 1–3.
- 鞘b27 *AMICA* 編集部, 2008. 虫のたより(19). *AMICA* 通信, (22) : 1–10.
- 鞘b28 中川秀幸・大野 豊・根来 尚・小杉 潤・高橋幸四郎・寺田 昭・道山 勉・高原 譲・堀口政治・吉野剛広・渡辺朋美・寺内和典・新井昌江・坂井 恵・大杉文乃・岩城麻衣子(著) (財)富山市ファミリーパーク公社(編), 1998. ファミリーパーク地内の昆虫類. ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告 1998. pp.53–110. (財)富山市ファミリーパーク公社. 富山.
- 鞘b29 小杉 潤・道山 勉・古川隆一・岸原 剛・加藤朋美・白石俊明・金子 篤・吉野剛広(著) (財)富山市ファミリーパーク公社(編), 2006. ファミリーパーク地内の昆虫類. ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告 2005. pp.45–88. (財)富山市ファミリーパーク公社. 富山.
- 鞘b30 中川秀幸・常樂武男・小杉 潤・根来 尚(著) 富山市科学文化センター(編), 1994. 吳羽丘陵の昆虫類. 富山市吳羽丘陵自然環境調査報告. pp.69–163. 富山市科学文化センター. 富山.
- 鞘b31 ねいの里, 1985. ニューフェイス. ねいの里だより, (11) : 2.
- 鞘b32 惣名 実・澤田研太・岩田朋文, 2024. 富山県におけるヤツボシカミキリヒニセヤツボシカミキリの記録. 月刊むし, (646) : 9–10.
- 鞘b33 中川秀幸・常樂武男・澤田昭芳・小杉 潤・根来 尚(著) 富山市科学文化センター(編), 1996. 有峰の昆虫類. 常願寺川流域(有峰地域)自然環境調査報告. pp.77–229. 富山市科学文化センター. 富山.
- 鞘b34 大野 豊・北村征三郎・惣名 実・中川秀幸・根来 尚(著) 富山県生活環境部自然保護課(編), 1994. 5 動物(5)陸生・水生昆虫類. 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書. pp.54–143. 富山県生活環境部自然保護課. 富山.
- 鞘b35 井出哲哉・澤田研太, 2024. 富山県におけるニセマグソコガネダマシの記録. さやばねニューシリーズ, (55) : 50–51.
- 鞘b36 堀口 徹・竹脇正樹, 2024. 富山県東部における主に糞トラップで得られた食糞性コガネムシ類の記録. 鰐角通信, (48) : 43–46.
- 鞘b37 野村孝昭, 1993. マグソコガネ属の県未記録種. *AMICA*, (32) : 24.
- 鞘b38 北村征三郎・中居昭信・野村孝昭, 1991. 富山県未記録の甲虫. *AMICA*, (31) : 1–16.
- 鞘b39 小杉 潤・坂本与市, 1994. 食糞性コガネムシの獣糞選択性について. 森林野生動物研究会誌, (20) : 13–18.
- 鞘b40 澤田研太, 2019. 富山県におけるマグソコガネ 2 種の採集記録. 鰐角通信, (39) : 45.
- 鞘b41 澤田研太・惣名 実, 2021. 本州中部におけるオオスジマグソコガネの追加記録. 鰐角通信, (43) : 53–55.
- 鞘b42 大野 豊(著) 『二上山の自然と文化』編集委員会(編), 2011. 二上山の昆虫類. 二上山の自然と文化.

- pp.91-120.二上山総合調査研究会. 高岡.
- 鞘b43 富山県(編), 1968. 立山地区動植物種多様性調査報告書. 富山県. 232pp.
- 鞘b44 小池博司, 高岡市頭川山附近の甲虫. AMICA, (12)No.1 : 1-4.
- 鞘b45 田中忠次, 1971. 富山県昆虫目録, 自費出版. 242pp.
- 鞘b46 大野 豊・沢武俊一・冬木 真・松枝 章, 1999. 第4章 昆虫. 氷見市史 9. pp.91-120. 氷見市史編さん委員会. 氷見.
- 鞘b47 福谷倫海・岩田朋文, 2022. 富山県におけるアオドウガネとヤマトアオドウガネの生息状況および分布可能域の比較. 富山市科学博物館研究報告, (46) : 27-36.
- 鞘b48 澤田研太, 2017. ヤノコモンタマムシを富山県で採集. さやばねニューシリーズ, (28) : 9.
- 鞘b49 萩野高宏, 1993. 富山県未記録のヒメハナカミキリ属. 月刊むし, (274) : 12-13.
- 鞘b50 窪木幹夫, 2024. 月刊むし・昆虫図説シリーズ 15 日本のヒメハナカミキリ. 有限会社むし社. 167pp.
- 鞘b51 ねいの里, 1984. ニューフェイス. ねいの里だより, (9) : 2.
- 鞘b52 川原 誠, 1984. ベニバナカミキリの富山県における採集例. 月刊むし, (164) : 34-35.
- 鞘b53 川原 誠・北村征三郎, 1982. 富山県カミキリムシ科拾遺. AMICA, (27) : 19-22.
- 鞘b54 川原 誠, 1984. 細入村(富山県婦負郡)のカミキリムシ, 1981~1983年の採集記録. AMICA, (28) : 1-14.
- 鞘b55 小池博司, 1959. 城端町附近の甲虫. NEOZEPHYRUS, (5) : 12-17.
- 鞘b56 田中忠次, 1953. 富山県産かみきりむし科目録. NEOZEPHYRUS, (2) : 3-13.
- 鞘b57 澤田研太, 2025. 富山県産甲虫類の記録. 富山の生物, (64) : 99-104.
- 鞘b58 澤田研太・惣名 実, 2025. 富山県で採集したタマムシ類の記録. 月刊むし, (649) : 32-33.
- 鞘b59 澤田研太, 2025. ホソクロナガタマムシの富山県における採集記録. さやばねニューシリーズ, (57) : 47.
- 鞘b60 田中忠次, 1972. かみきりむし科昆虫の追加. AMICA, (16.1) : 10-11.
- 鞘b61 野村孝昭, 2010. カミキリムシ科 3種の採集記録. AMICA, (38) : 17.
- 鞘b62 田中忠次, 1939. 黒部川流域産昆蟲目録(2)〔鞘翅目〕. 昆蟲界, (7) : 335-346.
- 脈1 岩田朋文, 2023. 富山・岐阜県境付近におけるキバネツノトンボの追加記録(2). 富山市科学博物館研究報告, (47) : 41-42.
- 脈2 根来 尚・山内健生, 2011. 富山県の脈翅類. 富山市科学博物館研究報告, (34) : 23-30.
- 脈3 富山県, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012—. 富山県. 富山. 451pp.
- ラ1 根来 尚・山内健生, 2011. 富山県の脈翅類. 富山市科学博物館研究報告, (34) : 23-30.
- 長1 大貝秀雄, 2002. 富山県産長翅目昆虫. 富山市科学文化センター研究報告, (25) : 95-112.
- 膜1 根来 尚, 2025. 富山県産膜翅類(富山県の昆虫シリーズ 第3号). 富山県昆虫同好会. 宇奈月.
- 双1 渡辺 譲, 2021. 富山県のアブ. 有害生物, 8 : 29-52.
- 双2 富山県昆虫研究会, 1979. 富山県の昆虫. 富山県. 富山. 545pp.
- 双3 渡辺 譲・荒川 良, 1995. 中部山岳国立公園立山の観光ルート沿いで発生する蚊類の季節消長(1994年). 富山県衛研報, 18 : 91-96.
- 双4 上村 清, 2019. 富山の蚊と病気. とやまの自然, (165) : 1-8.
- 双5 渡辺 譲・長谷川澄代・小原真弓・安藤秀二, 2004. 富山県における日本脳炎流行予測調査 35年間のまとめ. 富山県衛生研究所・富山県厚生部健康課. 46pp.
- 双6 根来 尚, 1982. 富山市産昆虫類の記録. 富山市科学文化センター研報, 4 : 31-67.
- 毛1 富山県昆虫研究会, 1979. 富山県の昆虫. 富山県. 富山. 545pp.

- 広1 根来 尚・山内健生, 2011. 富山県の脈翅類. 富山市科学博物館研究報告, (34) : 23–30.
- 蝶1 有田 齊・前田善広(編), 2012. ウラキンジシジミ・アイノミドリシジミ・メスアカミドリシジミ・ヒサマツミドリシジミ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(1) シジミチョウ科①. pp.27–30. NRC 出版. 大阪.
- 蝶2 有田 齊・前田善広(編), 2013. ウラミスジシジミ・チョウセンアカシジミほか. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(6) シジミチョウ科⑤. pp.2–5. NRC 出版. 大阪.
- 蝶3 有田 齊・前田善広(編), 2014. ゴマシジミ(北海道・東北)・オオゴマシジミ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(8) シジミチョウ科⑥. pp.33–41. NRC 出版. 大阪.
- 蝶4 有田 齊・前田善広(編)・浜 祥明(校閲), 2014. ギフチョウ(東日本). 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(9) アゲハチョウ科③. pp.11–12. NRC 出版. 大阪.
- 蝶5 有田 齊・前田善広(編)・浜 祥明(校閲), 2015. ミヤマカラスシジミ・ルーミスシジミほか. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(10) シジミチョウ科⑦. pp.1–3, 8. NRC 出版. 大阪.
- 蝶6 有田 齊・前田善広(編)・浜 祥明(校閲), 2015. ゴマシジミ(関東・中部・中国・九州). 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(11) シジミチョウ科⑧. pp.3–4, 26–30. NRC 出版. 大阪.
- 蝶7 有田 齊・前田善広(編), 2016. アサマシジミ・ミヤマシジミ・ヒメシジミ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(12) シジミチョウ科⑨. pp.13–15, 20–22, 43, 50–53, 58, 59. NRC 出版. 大阪.
- 蝶8 有田 齊・前田善広(編), 2016. キリシマミドリシジミ・ヒサマツミドリシジミ・アイノミドリシジミ・メスアカミドリシジミ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(13) シジミチョウ科⑩(増補改訂版). pp.36–38. NRC 出版. 大阪.
- 蝶9 有田 齊・前田善広(編), 2017. クモマベニヒカゲ・ツマジロウラジャノメ・ウラジャノメ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(16) ジャノメチョウ科③. pp.17–18. NRC 出版. 大阪.
- 蝶10 有田 齊・前田善広(編), 2020. クモマツマキチョウ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(22) シロチョウ科①. pp.1–4, 9–12, 14–15, 35–39. NRC 出版. 大阪.
- 蝶11 有田 齊・前田善広(編), 2021. ヒョウモンモドキ・ウスイロヒョウモンモドキ・コヒョウモンモドキ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(24) タテハチョウ科①. pp.47–48. NRC 出版. 大阪.
- 蝶12 有田 齊・朝日純一(編), 2022. ミヤマモンキチョウ・モンキチョウ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(25) シロチョウ科③. pp.1–11, 26–34. NRC 出版. 大阪.
- 蝶13 有田 齊・朝日純一(編), 2023. オオムラサキ. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(29) タテハチョウ科②. pp.35–37, 45. NRC 出版. 大阪.
- 蝶14 有田 齊・朝日純一(編), 2024. ホシチャバネセセリ・チャマダラセセリ・オガサワラセセリほか. 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース(30) セセリチョウ科①. pp.9–12. NRC 出版. 大阪.
- 蝶15 藤田将人・岩田朋文・他3名, 2022. 富山市山岳域自然調査報告(2021). 富山市科学博物館研究報告, (46): 61–65.
- 蝶16 藤田将人・岩田朋文・他3名, 2023. 富山市山岳域自然調査報告(2022). 富山市科学博物館研究報告, (47): 31–34.
- 蝶17 藤田将人・岩田朋文・他3名, 2024. 富山市山岳域自然調査報告(2023). 富山市科学博物館研究報告, (48): 13–17.
- 蝶18 ヒサマツ・フリークの会, 2016. ヒサマツミドリシジミの謎を追って(2) ~♀の夏季休眠と秋季吸水の意味合い~. 月刊むし, (539) : 2–15.

- 蝶19 岩田朋文, 2019. 後立山連峰餓鬼ノ田圃の水生昆虫を主とした昆虫相の解明. 富山県博物館協会デジタル展覧会・電子紀要
URL : <http://museums.toyamaken.jp/documents/documents029/>(2024年10月9日確認).
- 蝶20 小林侑樹, 2022. テリトリーを張るヒサマツミドリシジミを医王山で採集. 翔, (263) : 5.
- 蝶21 櫻原俊嗣, 2019. 「飛驒のギフチョウ」その後~3.東笠山~. 月刊むし, (578) : 22–30.
- 蝶22 松井正人, 2013. 富山県南砺市でヘリグロチャバネセセリとヒメシジミを観察. 翔, (224) : 2.
- 蝶23 松井正人, 2014. 富山県南砺市袴腰山で観察した蝶. 翔, (231) : 7–9.
- 蝶24 宮原真樹, 2010. オオイチモンジを有峰で採集. Amica, (38) : 15.
- 蝶25 水野 透・大野 豊・澤田昭芳・根来 尚, 1998. 富山県の蝶(I). 富山市科学文化センター収蔵資料目録, (11) : iii+113.
- 蝶26 水野 透・大野 豊・澤田昭芳・根来 尚, 1999. 富山県の蝶(II). 富山市科学文化センター収蔵資料目録, (12) : iii+115–240.
- 蝶27 水野 透, 2004. 富山県のミヤマシジミ分布調査(1997年~2003年). Amica, (36) : 1–17.
- 蝶28 大野 豊, 2011. 富山県のタカネヒカゲの分布. Butterflies(S.fujisanus), (55) : 39–48.
- 蝶29 大塚 昭, 2024. 絶滅危惧種の撮影記(その4). 季刊ゆずりは No.100 2024 WINTER. pp.57–59. NRC 出版. 大阪.
- 蝶30 山本直樹, 2014. 2014年山ゴマノート. TSUISO, (1506) : 413–418.
- 蝶31 吉村久貴, 2020. 歩かず撮れる高山蝶I クモマツマキチョウ. 翔, (254) : 4–5.
- 蝶32 吉村久貴, 2021. 歩かず撮れる高山蝶II ミヤマモンキチョウ. 翔, (256) : 6–7.
- 蝶33 吉村久貴, 2022. 歩かず撮れる高山蝶IV クモマベニヒカゲ. 翔, (262) : 4–5.
- 蛾1 Amica 編集部, 1992. 虫のたより(1). Amica 通信, (12) : 1–8.
- 蛾2 Leech, J. H., 1889. On Lepidoptera of Japan and Korea. Proc.zool.Soc.Lond, 1889 : 474–571.
- 蛾3 井上 寛, 1961. 日本から未記録のコウモリガ. 蝶と蛾, 11(4) : 62–63.
- 蛾4 川端一旗, 2025. 富山県で確認されている数種類の蛾類. 月刊むし, (655) : 52–53.
- 蛾5 倉田 稔 他, 1959. 針ノ木岳無脊椎動物ファウナ 第一報. 針ノ木岳 : 自然とその保護. pp.135–149. 大町山岳博物館. 大町.
- 蛾6 小池博司, 1951. 私の採集せる富山県の昆虫 1.(贋写刷)
- 蛾7 霜鳥智也, 2019. 富山市におけるオオシモフリスズメの追加記録. 飛脈, (47) : 52.
- 蛾8 霜鳥智也, 2021a. 2020年度におけるヤママユガ科の発生消長. 飛脈, (54) : 28–31.
- 蛾9 霜鳥智也, 2021b. 2020年度におけるヤガ科シタバ亜科シタバ族の発生消長. 飛脈, (54) : 32–34.
- 蛾10 神保一義・柳田慶浩, 1978. 北アルプス後立山連峰白馬岳~五竜岳の高山帯の蛾. 長野蛾報, (10) : 1–9.
- 蛾11 田中忠次, 1936. 富山県産鱗翅目目録. 富山教育, (265) : 33–47.
- 蛾12 田中忠次, 1939. 黒部川流域産昆虫目録(3)〔鱗翅目〕. 昆虫界 7, (65) : 13–25.
- 蛾13 田中忠次, 1964. 立山のこん虫. 富山教育, (522) : 1–9.
- 蛾14 田中忠次, 1971. 富山県産昆虫目録 : 1–242, 自刊.
- 蛾15 田中忠次, 1973. 上田了君採集の上市町柿沢地区の蛾類. 富山県生物学会誌, 13 : 40–48.
- 蛾16 田中忠次, 1977. 昆虫. 富山新港火力発電所動物調査報告書 pp.53–148. 北電産業. 富山.
- 蛾17 田中忠次, 1984. 昆虫. 朝日町誌自然編. pp.159–199. 朝日町. 朝日.
- 蛾18 田中忠次(著) 富山県生活環境部自然保護課(編), 1985. 山の神の野生生物, A. 昆虫. pp.19–21. 富山県山の神自然環境保全地域(富山県の自然環境保全地域 6).

- 蛾19 田村公憲, 1975. 黒部渓谷の蛾. 寄せ蛾記, (13) : 77-78.
- 蛾20 富山県昆虫同好会(編), 1976. 立山の昆虫相. 中部山岳国立公園立山黒部地区学術調査報告. 富山県. pp.223-369. 富山.
- 蛾21 富山県昆虫研究会(編), 1979. 鱗翅目目録. 富山県の昆虫. pp.133-340. 富山県. 富山.
- 蛾22 富山県昆虫研究会(編), 1981. 有峰の昆虫. 有峰の自然. pp.237-403. 北陸電力株式会社. 富山県. 富山.
- 蛾23 富山県昆虫研究会(編), 1988. 富山県の昆虫類. 富山県. 富山. 216pp.
- 蛾24 富山県自然保護協会(編), 1992. 動物-III 昆虫類. pp.52-60. 医王山東斜面自然環境調査報告書.
- 蛾25 中川秀幸, 1961. 富山県黒部川流域及び小川温泉で採集した蛾類(3). 趣味の昆虫, 2(4/5) : 56-65.
- 蛾26 中川秀幸, 1962. 富山県東部に於けるシャチホコガ科採集記録. *Amica*, (7) : 8-13.
- 蛾27 中川秀幸, 1982a. 黒部峡谷阿曾原の蛾類について. *Amica*, (27) : 129-142.
- 蛾28 中川秀幸, 1982b. 有峰の蛾 3 種. *Amica*, (27) : 274.
- 蛾29 中川秀幸, 1986. *Catocala* 2 題. *Amica*, (29) : 48.
- 蛾30 中川秀幸, 1989. 1987 年度採集会 採集昆虫目録(鱗翅目目録). *Amica*, (30) : 101-106.
- 蛾31 中川秀幸, 1993. 立山カルデラ水谷の蛾類. *Amica*, (32) : 41-55.
- 蛾32 中川秀幸, 1995. 吳羽の森から(3) 吳羽丘陵の生物. 富山県農村医学研究会誌, (26) : 82-101.
- 蛾33 中川秀幸・常楽武男・小杉 潤・根来 尚, 1994. 吳羽丘陵の昆虫類. 富山市吳羽丘陵自然環境調査報告書. pp.69-163. 富山市科学文化センター. 富山.
- 蛾34 中川秀幸・常楽武男・澤田昭芳・小杉 潤・根来 尚, 1996. 有峰の昆虫類. 常願寺川流域(有峰地域)自然環境調査報告書 pp.77-229. 富山市科学文化センター. 富山.
- 蛾35 水野 透, 1982. フジキオビ立山に産す. *Amica*, (27) : 204.
- 蛾36 水野 透, 1986a. フジキオビ大品山に産す. *Amica*, (29) : 18.
- 蛾37 水野 透, 1986b. ミヤマキシタバ低地での記録. *Amica*, (29) : 48.
- 蛾38 水野 透, 1996. 吳羽・射水丘陵昆虫調査(1993 年~1995 年)鱗翅目目録. *Amica*, (34) : 10-35.
- 蛾39 山中 浩, 1987. 1986 年度採集会 採集昆虫目録(鱗翅目目録). *Amica* 通信, (7) : 6-9.
- 蛾40 山中 浩, 1989. 1988 年度採集会 採集昆虫目録(鱗翅目目録). *Amica* 通信, (9) : 4-9.
- 蛾41 山本光人, 1993. ヌマベウスキヨトウを富山県で採る. 蛾類通信, (174) : 419.